SYLLABUS

2021 年度 秋学期

3年次

青森公立大学

経営経済学部

科目群		授業科目名	単位	区分	担当	ページ
教養科目		美と価値	(2)	選必	泉　滋三郎	1
		異文化の理解	(2)	選必	石本　雄大	4
		遺跡と文化財	(2)	選必	岡田　康博	7
		生命の科学	(2)	選必	長岡　朋人	10
		仏教の思想　注1	(4)	選必	松本　知己	13
		メディアとジャーナリズム　注1	(2)	選必	河田　喜照　ほか	17
キャリア教育科目		事業論Ⅲ	(1)	選必	今泉　清保	20
専門科目	経営学科	経営倫理学	(2)	選必	上田　弘	22
		会社法Ⅱ	(2)	選択	白石　智則	25
		経営情報論	(2)	選択	永松　陽明	28
		生産管理論	(2)	選択	小嶋　高良	31
		労働法	(2)	選択	三田村　浩	34
		税務会計Ⅱ	(2)	選択	金子　輝雄	37
		非営利組織会計	(2)	選択	池田　享誉	40
		職業指導	(4)	選択	内海　隆	43
		経営特殊講義Ⅱ	(2)	選択	山下　修平	47
		グローバル経営論　注1	(2)	選必	金﨑　賢希	50
		財務戦略　注1	(2)	選必	落合　孝彦	53
		地域企業論Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	生田　泰亮	94
		地域社会論Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	佐々木　てる	96
	経済学科	開発経済学	(2)	選択	大場　裕之	56
		金融機関論	(2)	選択	國方　明	62
		国際金融論	(2)	選択	中條　誠一	65
		公共政策論	(2)	選択	木立　力	68
		経済特殊講義Ⅲ	(2)	選択	堤　静子	71
		経済特殊講義Ⅳ	(2)	選択	（春学期開講）	－
		経済変動論　注2	(2)	選択	高尾　築	－
		会社法Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	白石　智則	－
		労働法【他学科展開科目】	(2)	選択	三田村　浩	－
		財務戦略【他学科展開科目】　注1	(2)	選択	落合　孝彦	－

注1　春学期開講科目ですが、2021年度は秋学期に開講します。

注2　「経済変動論」はカリキュラム改定に伴い、2021年度から2年次配当の秋学期開講科目となります。
2021年度は2年生と合同クラスで秋学期に開講します。

科目群		授業科目名	単位	区分	担当	
専門科目	地域みらい学科	行政法務論	(4)	選択	髙橋　基樹	74
					富澤　守	
		地域と産業政策	(2)	選択	安田　公治	79
		事業創造論	(2)	選択	生田　泰亮	82
		経営革新論	(2)	選択	（春学期開講）	－
		環境ビジネス論	(2)	選択	吉田　肇	85
		地域みらい特殊講義Ⅲ	(2)	選択	竹内　紀人	88
		フィールドリサーチⅢ	(2)	選択	足達　健夫	91
					飯田　俊郎	
					生田　泰亮	
					遠藤　哲哉	
					香取　薫	
					佐々木　てる	
					安田　公治	
		会社法Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	白石　智則	－

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
美と価値	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
泉　滋三郎 Izumi Shigesaburo	**時間**：講義の前（昼休み）と講義後 **場所**：講義室あるいは講師控え室	講義

〔科目の概要〕

本科目では、美の範囲を美術作品だけではなく広く解釈し、美的なモノやコトにも注目していきます。縄文土器、民間伝承、工芸、現代のアニメなども視野に入れ、そこから美を希求してきた人間の文化を考察し、さらに現代社会における芸術と文化のあり方を考えていきます。まず現代美術とデザインを概観します。次に日本の美や郷土の文化に注目し、様々な視点から美とその価値について理解を深めます。キーワードは美術史、現代美術、デザイン、色彩、境界、アニメ、自然哲学、花鳥、樹木、水、鬼、鉄、東アジア、縄文などです。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

美の領域は他の分野から独立して存在しているのではありません。美術作品は文学や信仰に深く関わりを持つものでした。また美の考察には歴史学、考古学、民俗学や人類学の知見が助けになります。さらに作品の分析には自然科学の知識が必要です。今日、美術の知識が企業の経営に必要だとする考え方が拡がっています。また地方美術館の運営や地域の美術イベント、例えば「大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」などでは、行政の側にも美術に対するスキルが求められています。

このように多様な学問領域に関わりを持つ美についての学びは、ただ単に知らない世界を見るとか、レポートの提出とかを超えて、真の教養とは何かを知るよい機会となるでしょう。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

1. 美術領域のモノ・コトに興味を持つことができる。
2. 美術作品の鑑賞法を理解できる。
3. 美術作品を歴史や民俗学など他の領域の視点で理解できる。
4. 土器からアニメまで美術領域のモノ・コトをキーワードから調べることができる。
5. レポートやリアクションペーパーを書くことによって、美術領域のモノ・コトを言語表現できる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

講義内容に誤解がないように自らの発話に留意します。講義反応への解説は主観的にならないようにします。

〔教科書〕

なし。毎回の授業時に資料を配布します。

〔指定図書〕

特になし

〔参考書〕

山田五郎『知識ゼロからの西洋絵画史入門』幻冬舎 2011
高階秀爾『名画を見る眼』岩波新書、1969
塚原史『ダダ・シュルレアリスムの時代』ちくま学芸文庫、2003
巌谷國士『シュルレアリスムとは何か』ちくま学芸文庫、2002
金子隆芳『色彩の科学』岩波新書、1988
布施秀利『色彩がわかれば絵画がわかる』光文社新書、2013

内田樹『寝ながら学べる構造主義』文春文庫、2002
谷川健一『常世論』講談社学術文庫、1989
赤坂憲雄『境界の発生』講談社学術文庫、2002
山口昌男『文化の両義性』岩波現代文庫、2000
宮崎駿『出発点 1979～1996』徳間書店、1996
新海誠『君の名は。』角川文庫、2016
吉野裕子『十二支 新版: 易・五行と日本の民俗』人文書院、2021
白川静『漢字百話』中公新書、1978
J・G・フレイザー（James George Frazer）『金枝篇』ちくま学芸文庫、2003
竹村真一『宇宙樹』慶應義塾大学出版会、2004
正道寺康子編『ユーラシアのなかの宇宙樹・生命の樹の文化史』勉誠出版、2018
谷川健一編『日本民俗文化大系２　太陽と月』小学館、1994
馬場あき子『鬼の研究』ちくま文庫、1988
小松和彦『鬼と日本人』角川ソフィア文庫、2018
荻原秀三郎『鬼の復権』吉川弘文館、2004
齋藤成也『核 DNA 解析でたどる日本人の源流』河出書房新社、2017
野村伸一『東シナ海文化圏』講談社、2012
服部英二『転生する文明』藤原書店、2019
小林達雄『縄文の思考』ちくま新書、2008
ネリー・ナウマン（Nelly Naumann）『生の緒』言叢社、2005

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

期末のレポート１回と講義中のリアクションペーパーで評価します。レポートは講義で扱ったテーマから学生自身が興味を持つ課題を一つ選び、独自の視点から調べて報告してもらいます。リアクションペーパーは、講義でわからなかったこと、また美の領域に関わる感想・意見・質問を記述してください。

〔評価の基準及びスケール〕

レポートは視点の独自性、調査の深さ、用語の適切さから評価します。リアクションペーパーは、記述の回数、用語の適切さから評価します。
レポート、リアクションペーパーをそれぞれ 100 点満点で数値化し、レポート 70%、リアクションペーパー30%の比重で評価し、その後、大学の決めた基準に照らして ABCDF を決定します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

学ぶということは、知識を増やすのではなく、知らないことが増えることです。私たちは無知であると知ることです。さまざまなことがらには意外な繋がりがあるものです。安易な先入観にとらわれることなく、柔軟な姿勢で授業に取り組んでくれることを期待します。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか)：　美術とは何か、現代美術の萌芽 内　容：　美術とは何かを考え、第一次世界大戦以後の抽象芸術、ダダイズム・シュールレアリスムの美術作品を概観し、現代美術へ至るまでを理解します。 教科書･指定図書　なし。資料を配布。
第２回	テーマ(何を学ぶか)：　現代美術 内　容：　既に歴史となった第二次世界大戦以後の現代美術を、抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアートなどから理解します。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。

第３回	テーマ（何を学ぶか）：　デザイン１ 内　容：　デザイン領域の種類を理解します。十九世紀末からのデザイン運動、アーツ・アンド・クラフト、アール・ヌーヴォー、アール・デコについて理解します。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第４回	テーマ（何を学ぶか）：　デザイン２ 内　容：　モダンデザインの源流であるデ・スティルの芸術運動から見ていきます。バウハウス、ル・コルビュジェなどのモダンデザインを理解し、さらにポストモダン、現代デザインを理解します。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第５回	テーマ（何を学ぶか）：　色彩の基礎 内　容：　色彩は様々な表現に欠かせません。色彩についての基礎的な知識、その効果、色彩の表記法について理解します。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第６回	テーマ（何を学ぶか）：　日本の美―境界の表現から― 内　容：　表現するとは境界を示すことでもあります。内と外、この世とあの世、生と死、野蛮と文明などには、互いを隔てる境界があります。さまざまな境界の表現から美ついて見ていきます。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第７回	テーマ（何を学ぶか）：　日本の美―アニメの中の表現― 内　容：宮崎駿「となりのトトロ」「もののけ姫」、新海誠「君の名。」、庵野秀明「シン・エバンゲリオン」などの場面や造形から境界の表現を検証し、制作意図について考察をすすめます。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第８回	テーマ（何を学ぶか）：　日本の美―自然哲学と方位について― 内　容：　自然哲学、易、陰陽五行説の考え方は、干支や昔話の背景となり、絵画や工芸表現に見られます。私たちの日常にも影響を与えている自然哲学や、昔の人々の方位への観念を考察します。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第９回	テーマ（何を学ぶか）：　日本の美―花鳥の表現から― 内　容：　花鳥の表現は、日本の美の代表です。正倉院の工芸品や布、平安時代から江戸時代までの花鳥図には変遷が見られます。花鳥の表現に託された人々の理想への観念を理解します。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第10回	テーマ（何を学ぶか）：　日本の美―樹木― 内　容：　青森県には白神の森、西海岸の歴史的な樹木など神々しい樹があります。樹木は古くから信仰の対象でした。世界の樹木信仰を知り、樹木を美の表現から理解します。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第11回	テーマ（何を学ぶか）：　日本の美―山水画と庭園― 内　容：　日本庭園には流水、あるいは枯山水があり、山水画には水の表現があります。中国には道教思想による中国庭園、インドには水をテーマとした庭園があります。水と美について理解します。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第12回	テーマ（何を学ぶか）：　日本の美―鬼と神について― 内　容：　「ねぶた」には鬼が登場します。しかし青森県の鬼は邪鬼ではないようです。鬼は神でもあったのです。日本の鬼の観念、そして祭礼や美術における鬼の美的表現について理解します。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第13回	テーマ（何を学ぶか）：　日本の美―製鉄・刀― 内　容：　出雲の製鉄は有名です。岩手や青森でも古くから製鉄が行われました。日本刀の源流は北方とされます。岩手では舞草鍛冶などの刀鍛冶が知られます。東北の鉄と刀剣の歴史を理解します。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第14回	テーマ（何を学ぶか）：　日本の美―東アジアとの関係― 内　容：　日本の文化はユーラシア大陸の北と南から影響を受けました。言語、水墨画、黄檗美術、青磁、陶磁器、蝦夷錦など近世に至るまでのアジア大陸からの影響を理解します。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
第15回	テーマ(何を学ぶか)：日本の美―縄文土器の表現― 内　容：縄文土器の造形は新たな知見を含めて様々な解釈があります。ここでは新石器時代の中国、中近東などの美的表現に見られる蛇と月のレトリックとメタファーから考察し、理解を深めます。 教科書・指定図書　なし。資料を配布。
試 験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
異文化の理解	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
石本　雄大	時間：初回授業時に提示 場所：地域連携センター	講義

〔科目の概要〕

現代は多様な領域でグローバル化が進み、ここ青森でも実感することが多い。そのような現代に、異文化（他者）を理解することは交流、協働、課題解決の基礎となる。加えて、他者との関係の更なる深化のためには、自文化（自己）の理解が不可欠である。この考えに基づき、本授業では様々なテーマを取り上げ、自文化（自己）および異文化（他者）について理解を深めることを目指す。

グローバル化の進展する現代では、各地で起こる食料問題、宗教対立、環境問題といった課題は世界規模で繋がり、各地で影響しあう。解決のためには、課題の全体像を世界規模で把握し、地域の文化社会的背景を理解することが重要となる。そこで本授業では、自文化（自己）および異文化（他者）の理解を深めるため、講義担当者の国内外でのフィールドワークや実務経験を交え、世界各地の事例を紹介し、その全体像や背景を学び、その解決策について論じる。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・なぜ、学ぶ必要があるか・・・自己および他者をより深く理解するため。
・学んだことが何に結び付くか・・・世界各地で生じる諸課題の全体像や背景を学び、身の回りで起こる問題を客観視する訓練となる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

本授業では次の 3 点を主な到達目標とする。
・異文化（他者）についての知識及び理解を深める。
・自文化（自己）についての知識及び理解を深める。
・文献検索、情報収集、小論文執筆、口頭発表の技術を高める。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・課題の提出方法について変更の提案がなされた。
→ 課題① ～⑥ をポータルサイトの課題管理システムにより提出とする。
・授業開始時の混雑解消の提案がなされた。
→ 座席表等，可能な資料は事前に提示する。

〔教科書〕

適宜資料を配布

〔指定図書〕

なし

〔参考書〕

授業時にリストを提供

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

・授業（第 1 回～第 15 回のうち）の 3 分の 2 以上、つまり最低 10 回以上出席すること（ただし、第 13 回～15 回は課題提出を出席にかえる）
・課題① 調査計画（第4回前日まで提出、10 点満点）、課題② 文字起こし（第7回前日までに提出、10 点満点）、課題③ 小論文（第 10 回前日までに提出、30 点満点）、課題④ 口頭発表（第 10 回前日までに発表要旨を提出、5 点満点。第 10、11、12 回に受講生の 1/3 ずつが口頭発表を実施、5 点満点）、課題⑤ -1 および⑤ -2 他学生からの学び・課題⑥ 総括（期日は授業時に説明、各 5 点満点）
・授業レポート 2 点満点/回 ×12 回（合計 24 点満点）
※各課題・授業レポートの提出方法、採点基準は第 1 回の講義の際に説明予定

〔評価の基準及びスケール〕
・A:80%以上、B:70-79%、C:60-69%、D:50-59%、F:49%以下

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
真剣に授業を担当します。そのため、以下に該当した際には退室とします。
・授業開始時間後10分以降の入室。
・授業中の私語。
・携帯電話の着信音が鳴った場合。
・その他、授業を妨げる行為。

〔実務経歴〕
国際協力機構(JICA)専門家の国際協力業務として日本とボツワナの研究・教育機関との国際共同研究プロジェクト運営に参画。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 授業概要 内　容: 授業全体の構成、評価の方法(課題、授業レポート、提出方法、採点基準)、課題の内容、授業の注意点を説明する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第2回	テーマ(何を学ぶか):文化① 食、課題① 調査計画 内　容: 世界と日本の食文化の多様性を例示し、歴史・風土との結びつきを概説する。加えて、課題① 立案を説明する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第3回	テーマ(何を学ぶか): 文化② 食料問題、理解の手法① インタビュー調査、② ライフヒストリー調査 内　容: 先進国－途上国の関係、南北問題について説明し、飢餓および飽食の問題について解説。社会組織、階層、世代を理解するライフヒストリー調査の研究事例研究を紹介する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第4回	テーマ(何を学ぶか): 文化③ 環境と生業、課題② インタビュー結果の文字起こし 内　容: 世界各地の生業および食料生産を比較・事例紹介し、多様な自然・社会環境との関係性を解説する。また、インタビュー結果をまとめる作業の1つである文字起こしを説明する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第5回	テーマ(何を学ぶか): 文化④ 衣住、理解の手法③ 参与観察、④ 非参与観察 内　容: 周囲の自然・社会環境と服飾や住居の関わりを紹介し、構造や機能を解説する。加えて、行事・作業に参加し理解する手法③ 、第三者として調査対象を観察する手法④ について紹介する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第6回	テーマ(何を学ぶか): 文化⑤ 宗教、課題③ 小論文執筆の要点 内　容: 世界宗教の歴史、対立、国内宗教の変遷について解説。課題③ 執筆における要点(章立て、考察のコツなど)、注意点(図・表・写真の扱い、引用のルールなど)を説明。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第7回	テーマ(何を学ぶか): 文化⑥ 家族とエスニシティ、理解の手法⑤ アンケート調査、⑥ 統計分析 内　容: 世界各地の家族の在り方を紹介。加えて、文化を共有する社会集団や、そこで共有される意識を意味するエスニシティについて解説する。。手法⑤ 、⑥ の手順、まとめ方を解説し、それらを用いた研究事例を紹介。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第8回	テーマ(何を学ぶか): 文化⑦ グローバル化と地域文化、課題④ 口頭発表の説明 内　容: 多国籍企業によるモノ・カネ・情報のグローバル化や、そのローカル化による新たな文化を紹介する。その後、課題④ の要点、注意点を説明する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第9回	テーマ(何を学ぶか): 文化⑧ 移民および出稼ぎ、理解の手法⑦ 社会経済データ、⑧ メディア情報の活用 内　容: 世界各地で行われた国際移動、日本人の関わる出稼ぎに関して事例紹介を行う。移民排斥、需要のメカニズムについて文化社会経済的背景を手掛かりに解説する。また、社会経済データ、メディア情報活用の方法と注意点を解説する。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供

第10回	テーマ(何を学ぶか): 実践① 国際協力とSDGs、課題④ 口頭発表の実施 内　容: 様々な国際協力の取り組み、その近年の動向を、SDGsと関連付け、紹介。事業の実効性, 取り組みの持続性の観点から解説する。その後、履修学生の 1/3 が課題④ を実施。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第11回	テーマ(何を学ぶか): 実践② 地域課題とまちづくり(日本)、課題④ 口頭発表の実施 内　容: 過疎や高齢化など日本の農山漁村や地方都市におけるの現状と今後の展望を解説する。その後、履修学生の 1/3 が課題④ を実施。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第12回	テーマ(何を学ぶか): 総括「多文化共生社会に生きる」、課題⑤ 他学生からの学び・⑥ 総括の説明、課題④ 口頭発表の実施 内　容: 全講義をまとめ、異文化理解及び他者理解の重要性を総括する。課題⑤ ⑥ の要点、注意点を説明する。その後、履修学生の 1/3 が課題④ を実施。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第13回	テーマ(何を学ぶか): 課題⑤ −1 他学生からの学び(第1弾) 内　容: テーマを提示するので、他学生の課題③ ④ の資料のうちテーマに該当するものを読み、学んだことをまとめる。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第14回	テーマ(何を学ぶか): 課題⑤ −2 他学生からの学び(第2弾) 内　容: テーマを提示するので、他学生の課題③ ④ の資料のうちテーマに該当するものを読み、学んだことをまとめる。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
第15回	テーマ(何を学ぶか): 課題⑥ 総括「多文化社会に生きる」 内　容: 学生自身が全講義および課題を振り返り、獲得した知識、実践した調査法等をまとめる。 教科書・指定図書: 授業時にリストを提供
試　験	課題および授業レポートによって成績評価するため、一斉試験は実施しない。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
遺跡と文化財	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
岡田　康博 OKADA　Yasuhiro	**時間:** **場所:**	講義及び現地見学

〔科目の概要〕

・青森県には特別史跡三内丸山遺跡をはじめとして、史跡亀ヶ岡遺跡や史跡是川遺跡な著名な縄文遺跡や多種多様な文化財、文化遺産が所在する。これらは歴史的・文化的資源であるとともに、活用可能な地域資源でもあることから、適切に保護・保存しながら十分に活用する必要がある。

・文化財の定義や種類、価値、日本における文化財保護の歩みや文化財保護法、世界遺産の理念や登録へ向けての仕組みなどについて学び、各地に所在する文化財の保護や活用事例を紹介するとともに、地域社会に貢献する文化財の活用のあり方を考え、その具体的な計画案を試験的に作成する。

・そのためのケーススタディーとして縄文遺跡を取りあげ、最新の研究成果に基づく縄文社会の実像や当時の生活や文化などについて知り、その価値や魅力、地域資源としての可能性を考え、地域づくりや活性化、人財育成に活かす方策を探る。

・遺跡や文化財を通して地域社会の重要性や可能性を考えるため、考古学の成果も参考とするが、考古学・歴史学の講義ではない

・最近注目されている世界遺産についてもその趣旨や制度を理解し、効果や課題などについて考える。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・日本における文化財保護の仕組みや課題について知ることにより、文化財保護や活用の基本的な考え方や思想を整理、確認するとともに地方自治体等が行う文化財保護行政の本来のあり方や課題を具体的に知る。

・さらに地域の遺跡や文化財をどのように保護し、さらに多様な活用方法を検討することにより、自分自身が街づくりや地域づくりのプランナーとして、あるいは一住民やボランティアとして将来活動、参加する際の貴重な体験ともなる。

・最近、注目されている世界文化遺産について、理念、登録までのプロセス、課題等を知ることにより、世界文化遺産をより身近な地域の話題として、受け止めることができる。

・大学の近くに所在する、日本を代表する縄文遺跡である三内丸山遺跡についてこれまでの経過を振り返りながら、発掘調査で見えてきた縄文文化の実像を知ることにより、日本列島における人類史はもちろん自分たちの暮らす地域の歴史や文化、風土の形成等について学ぶことができる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・日本における文化財保護の仕組み、活用を中心とした文化財保護行政の現状と課題について知る。

・ケーススタディーとして、縄文文化に関する最新の研究成果をもとに、三内丸山遺跡をはじめとする縄文遺跡の特徴について理解する。

・世界文化遺産について、その理念や登録までプロセス、方法、課題等を知る。

・地域資源としての遺跡や文化財の特徴を活かした多様な活用についての計画案を作成することを最終目標とする。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・文化財保護法については必要箇所を概説するとともに、これまでの判例等を取り上げ、課題等についても解説する。

・三内丸山遺跡の現地見学を含め、ビデオやスライドなどの映像資料を多く使用し、より多くの事例を紹介し、具体的なイメージを構築できるような講義とする。

・縄文文化に関する研究成果では、衣食住など生活に関する項目を取り上げ、より生活感があり遺跡や文化財について親しみを持てるようにする。

・毎回、講義内容についての資料を配付する。

〔教科書〕

・使用しない。必要な資料は教員が作成し、配付する。

〔指定図書〕

・必要なときに提示する。

〔参考書〕
『三内丸山遺跡』岡田 康博 同成社 2014

〔前提科目〕
な し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
・中間試験として遺跡観察レポート、定期(期末)試験として課題レポート(テーマや内容については授業中に提示する)を提出してもらい、総合的に評価する。

〔評価の基準及びスケール〕
・遺跡観察レポート、課題レポート、出席状況により成績評価を行う。毎回、出席の確認を行い、出席が少ない場合には評価の対象としない。

遺跡観察レポート 20点
課題レポート 80点

A:100～80
B: 80～70
C: 70～60
D: 60～50
F: 50～0

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
文化庁や長年にわたる文化財保護行政の実務経験をもとに、実務的な遺跡や文化財の保存や活用に関する最新情報を提供し、文化財保護法や文化財保護の仕組みについても具体例を用いながらの解説を心懸けている。また、縄文文化研究の最新の成果を紹介するとともに、日本では数少ない、遺跡の保存・活用の成功例として三内丸山遺跡の調査成果やこれまでの経過、行政的な取り組み等について実際に関わったものとしての体験談を伝え、地域の遺跡や文化財をどのように活用するのか、地域づくりや活性化、人財育成にどう活かすのか講義全体を通じて具体的な活用方法を考えて欲しい。さらに最近注目されている世界遺産について、理念やプロセス、登録方法、課題といった点についても取り上げる。

〔実務経歴〕
県職員として文化財保護行政及び世界遺産登録推進、文化庁文化財調査官として豊富な実務経験がある。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 遺跡、文化財について 内 容: 遺跡や文化財の種類や定義、日本における文化財保護の仕組み、文化財保護法について知る。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 縄文遺跡について 内 容: 縄文遺跡について基礎的な内容について知る。 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 縄文時代のムラ(遺跡公園)を歩く 内 容: 三内丸山遺跡の現地見学を行い、縄文のムラの様子を知る 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 遺跡の保存方法について 内 容: 三内丸山遺跡内で行われているさまざまな文化財の保存方法を知る。遺跡見学レポートの提出。 教科書・指定図書

第5回	テーマ(何を学ぶか)： 縄文時代の暮らしについて 内　容： 発掘調査が語る当時の環境や生業、生活などを知る。 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか)： 三内丸山遺跡における活用の現状について 内　容： 遺跡の保存の経緯を知り、公開・活用の効果等について知る。 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか)： 遺跡の保存活用について(1) 内　容： 活用の観点から縄文時代の衣食住について考える。 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか)： 遺跡の保存活用について(2) 内　容： 活用の観点から縄文人の精神世界や価値観を考える。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか)： 世界遺産について 内　容： 世界遺産の理念、登録の仕組み等を知る。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか)： 世界遺産について 内　容： 世界遺産の効果、現状、課題等を知る。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか)： 遺跡の保存活用について(3) 内　容： 活用の観点から縄文人の生活を復元する。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか)： 遺跡の保存活用について(4) 内　容： 活用の観点から縄文時代のムラや住居を復元する。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか)： 遺跡を保存、活用する(5) 内　容： 活用の観点から縄文時代のムラや住居を復元する。 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか)： 遺跡を保存、活用する(6) 内　容： 遺跡や文化財の保存、活用について海外の事例について知る。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか)： まとめ 内　容： 講義内容を整理し、レポート作成にあたってのポイント、留意点を解説する。 教科書・指定図書
試 験	課題レポート提出

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
生命の科学	2 単位	教養科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
長岡朋人	**時間：在室時** **場所：605 研究室**	講義

〔科目の概要〕

本講義は、私たちの身体を形作っている生物学的基礎の学習を通して、科学リテラシーを涵養することを目的とします。生物学はヒトと環境を理解する基礎となるとともに、私たちが歩んできた進化の道筋を解き明かしてくれます。生物学は細胞や組織から身体、環境、生態まで幅広い領域を範疇とし、自然科学、人文社会科学の多様な分野と学際的な接点を持っています。本講義は、生物学の多様な分野を視野におさめ、ときには研究の現場のトピックをまじえながら、細胞生物学、分子生物学、遺伝学、発生学、神経科学、基礎医学、行動生態学、進化学の講義を行います。高校における生物の履修を前提としませんが、講義内容は大学教養レベルの内容です。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

1.　批判的思考

私たちは生物学や医学に密接にかかわる場面で生活しています。科学の知識は常に進歩していき、当たり前だと思った知識も色褪せていきます。身近にある当たり前の事柄に疑いを持ち、情報を取捨選択するための基礎知識を涵養します。

2.　専門分野との学際的接点

本科目と経営経済学との学際的接点（たとえば進化ゲーム理論は経済学にも関わりがあります）により、学生の知的好奇心を高めることができると確信しています。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

1.　最終目標

(1) 書籍やインターネットの情報を検索・取捨選択し正しく引用できること、(2) 自分の言葉で情報を整理し意見を述べることができること、(3) 生物学に対する批判的思考を身につけることです。

2.　中間目標

(1) 膨大な情報量を持つ学問領域を知ること、(2) 科学リテラシーを身につけることです。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

該当なし

〔教科書〕

指定なし

〔指定図書〕

「Essential 細胞生物学原書第 4 版」（ブルース・アルバーツ、南江堂、2016 年）、「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」（ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015 年）、、「解剖生理学」（坂井建雄ほか、医学書院、2018 年）、「進化と人間行動」（長谷川寿一ほか、東京大学出版会、2000 年）

〔参考書〕

「ヒトの進化のひみつ」（馬場悠男ほか、学研、2008 年）

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

講義時の課題への取り組み（50 点）と期末試験（50 点）により評価します。

〔評価の基準及びスケール〕

A は 80 点以上、B は 70～79 点、C は 60～69 点、D は 50～59 点、E は 49 点以下と評価します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

1.　受講の姿勢

(1)生物学に関するトピックをもとに、当たり前と思っていた事柄に対して批判的な思考を身につけましょう。(2)生物学に関わる膨大な情報量を理解するために、講義を聴きながらノートでメモを取る必要があります。講義への積極的な参加を希望します。

2. 学生への要望

(1)遅刻・欠席はできるだけ控えてください。(2)講義で分からないことは気軽に質問してください。(3)学習の不安は一人で抱え込まないで教員に相談してください。(4)受動的な姿勢で受講しないでください。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション 内　容:本講義の目的、内容、評価方法について理解を深める。 教科書・指定図書　なし
第2回	テーマ(何を学ぶか):細胞生物学 内　容:細胞の構造、細胞膜の構造と性質、動物の組織、細胞分裂について理解を深める。 教科書・指定図書「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016年)
第3回	テーマ(何を学ぶか):代謝 内　容:代謝、酵素、異化、光合成について理解を深める。 教科書・指定図書「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016年)
第4回	テーマ(何を学ぶか):生殖・発生 内　容:生殖法、植物の配偶子形成について理解を深める。 教科書・指定図書「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016年)
第5回	テーマ(何を学ぶか):生殖・発生 内　容:動物の配偶子形成、受精、卵割、発生について理解を深める。 教科書・指定図書「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016年)
第6回	テーマ(何を学ぶか):遺伝学 内　容:メンデルの法則、一遺伝子雑種、二遺伝子雑種、染色体地図、伴性遺伝について理解を深める。 教科書・指定図書「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016年)
第7回	テーマ(何を学ぶか):分子生物学 内　容:核酸、DNA、遺伝子の本体、タンパク質合成、遺伝子発現について理解を深める。 教科書・指定図書「Essential 細胞生物学原書第4版」(ブルース・アルバーツ、南江堂、2016年)
第8回	テーマ(何を学ぶか):刺激と反応 内　容:ニューロン、興奮の伝導と伝達、中枢神経、末梢神経について理解を深める。 教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)
第9回	テーマ(何を学ぶか):体液の恒常性 内　容:体液の組成、酸素運搬、二酸化炭素運搬、生体防御について理解を深める。 教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)
第10回	テーマ(何を学ぶか):体液の恒常性 内　容:泌尿器、消化器、循環器、内分泌器の解剖生理学について理解を深める。 教科書・指定図書「解剖生理学」(坂井建雄ほか、医学書院、2018年)

第11回	テーマ(何を学ぶか):進化 内　容:進化のしくみについて理解を深める。 教科書・指定図書 「進化と人間行動」(長谷川寿一ほか、東京大学出版会、2000年)
第12回	テーマ(何を学ぶか):行動生態学 内　容:行動生態学について理解を深める。 教科書・指定図書 「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015年)
第13回	テーマ(何を学ぶか):進化と行動 内　容:利己的遺伝子と種の保存について理解を深める。 教科書・指定図書 「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015年)
第14回	テーマ(何を学ぶか):生物学と経済学の接点 内　容:行動生態学について理解を深める。 教科書・指定図書 「デイビス・クレブス・ウェスト行動生態学 原著第4版」(ニコラス・B. デーヴィスほか、共立出版、2015年)
第15回	テーマ(何を学ぶか):人類進化 内　容:ヒトの進化について理解を深める。 教科書・指定図書 「ヒトの進化のひみつ」(馬場悠男ほか、学研、2008 年)、「進化と人間行動」(長谷川寿一ほか、東京大学出版会、2000年)
試 験	期末レポート

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
仏教の思想	4 単位	教養

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
松本 知己 Matsumoto Tomomi	**時間：授業の前後** **場所：教室、廊下、非常勤講師控室など、どこでも。**	**講義**

〔科目の概要〕

仏教は、紀元前 5 世紀前後のインドに始まる宗教であるが、日本への伝来以降、社会の要請に伴って変容しながら独自の発達を遂げ、日本人の精神世界に大きな位置を占めてきた。本講義では、我々にとって「内なる他者」である仏教の思想史的な理解を目的として、その基本構造と、展開の多様性を学ぶ。

前半は、インド仏教の歴史を概観し、仏教的思考の基本について解説する。後半は、仏教文献の漢訳をはじめ、中国人による受容の特質を確認する。その上で、各時代の仏教者の思想と実践を紹介しつつ、日本仏教の形成と展開の過程を明らかにしてゆく。随時、政治状況、文化事象との関連や、神道など他思想との交渉にも言及する。全体を通じて、日本人にとって仏教とは何であったか、そして何でありうるか、ということを理解し、現代に生きる私たちと宗教との関係を考察する契機にしたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

「仏教の思想」では、仏教を一つの思想として捉え、その成立と展開を学ぶ。古来より日本文化に溶け込んでいる仏教の思想的な側面を理解することは、自身のアイデンティティを確認することにもつながる。

経営学や経済学を学ぶという点では、経済的な活動は人間の営みに他ならないので、人間に対する理解が必須となる。宗教を含む思想は、人間の精神の基盤をなす。また、世界には様々なタイプの宗教、思想が存在し、人々との関わり方も様々である。日本の伝統的な思想の構造を理解し、歴史を知ることで、宗教的、思想的背景の異なる人々の思考様式を、より深く理解することができるだろう。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

最終目標
・仏教思想の基本的な構造を理解する。
・日本仏教の特質を、現代に生きる我々自身との関連で理解する。

中間目標
・インド・中国・日本における仏教の歴史的な推移を理解する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

後方の席の受講者にも配慮して板書する。また、期末レポートの題目は、できる限り早めに告知する。
その他、要望等については柔軟に対応するよう心がける。

〔教科書〕

教科書は用いない。毎回資料を配付する。

〔指定図書〕

高崎直道『仏教入門』（東京大学出版会、1983）
末木文美士『日本仏教史－思想史としてのアプローチ－』（新潮文庫、1996）

〔参考書〕

平川彰『インド・中国・日本仏教通史』〈新版〉（春秋社、2006）
蓑輪顕量編『事典 日本の仏教』（吉川弘文館、2014） その他、随時紹介する。

〔前提科目〕

なし。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

3 分の 2 以上の出席を前提に、期末のレポート（60%）と平常点（40%。毎回提出してもらうリアクションペーパーのコメント、第 9 回及び第 19 回の授業中に実施する理解度の自己確認など）によって評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

Ａ　８０点以上
Ｂ　８０点未満～７０点以上
Ｃ　７０点未満～６０点以上
Ｄ　６０点未満～５０点以上
Ｆ　５０点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

仏教は世界宗教であり、歴史的にも実に多様に展開してきた。しかし思想としての基礎をふまえた上でなければ、その多様性を理解するのは困難である。予習は特に求めないが、毎回の講義後は、指定図書等の参考文献を用いて必ず復習してもらいたい。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか)： 総説 内　容: 授業の概要、評価基準等 教科書・指定図書
第２回	テーマ(何を学ぶか)： 宗教類型論から見た仏教 内　容: 仏教、或いはインドの思想・宗教と、世界の諸宗教との比較 教科書・指定図書
第３回	テーマ(何を学ぶか)： インドの宗教と思想① 内　容: インド宗教思想史の概観 教科書・指定図書
第４回	テーマ(何を学ぶか)： インドの宗教と思想② 内　容: 人間観・世界観・実践論 教科書・指定図書
第５回	テーマ(何を学ぶか)： 初期仏教 内　容: 釈迦の生涯とインド仏教の成立 教科書・指定図書　高崎直道『仏教入門』第一章
第６回	テーマ(何を学ぶか)： 仏教の基礎① 内　容: 真理観(四聖諦、縁起) 教科書・指定図書　高崎直道『仏教入門』第三章

第7回	テーマ(何を学ぶか): 仏教の基礎② 内　容: 実践論(修行法と解脱への段階) 教科書・指定図書　高崎直道『仏教入門』第六章
第8回	テーマ(何を学ぶか): 仏教の基礎③ 内　容: 教団の構成と戒律の諸相 教科書・指定図書　高崎直道『仏教入門』第九章
第9回	テーマ(何を学ぶか): 部派仏教 内　容: 釈迦死後の教団分裂と諸部派の成立　なお、ここまでの講義内容につき理解度の自己確認を行う。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか): 部派仏教の教理 内　容: 有力部派である説一切有部の存在論 教科書・指定図書　高崎直道『仏教入門』第四章
第11回	テーマ(何を学ぶか): 大乗仏教の興隆 内　容: 思想運動としての大乗仏教、その成立と展開 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか): 大乗仏教の教理1 内　容: 大乗経典の諸相 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか): 大乗仏教の教理2 内　容: 大乗仏教の哲学的基盤としての「空」思想① 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか): 大乗仏教の教理3 内　容: 大乗仏教の哲学的基盤としての「空」思想② 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか): 大乗仏教の教理4 内　容: 「空」を体系化する唯識思想① 教科書・指定図書
第16回	テーマ(何を学ぶか): 大乗仏教の教理5 内　容: 「空」を体系化する唯識思想② 教科書・指定図書
第17回	テーマ(何を学ぶか): 大乗仏教の教理6 内　容: 多仏思想と浄土教 教科書・指定図書
第18回	テーマ(何を学ぶか): 大乗仏教の教理7 内　容: 仏教と現世利益、密教の教理と実践 教科書・指定図書
第19回	テーマ(何を学ぶか): 中国人と仏教 内　容: 儒教・道教などの中国思想と仏教の受容　なお、ここまでの講義につき理解度の自己確認を行う。 教科書・指定図書

第20回	テーマ(何を学ぶか): 中国仏教の特質 内　容: 中国人による仏教の体系化と取捨選択 教科書・指定図書
第21回	テーマ(何を学ぶか): 法華経と天台教学1 内　容: 天台教学の教理(五時八教) 教科書・指定図書
第22回	テーマ(何を学ぶか): 法華経と天台教学2 内　容: 天台教学の実践法(止観) 教科書・指定図書
第23回	テーマ(何を学ぶか): 日本仏教の特質1 内　容: 最澄の戒律観と空海の真言密教 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第II章
第24回	テーマ(何を学ぶか): 日本仏教の特質2 内　容: 国家権力と仏教 教科書・指定図書
第25回	テーマ(何を学ぶか): 日本仏教の特質3 内　容: 日本天台宗の教学にみる総合性 教科書・指定図書
第26回	テーマ(何を学ぶか): 日本仏教の特質4 内　容: 現実肯定思想と自然観 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』FEATURE 2
第27回	テーマ(何を学ぶか): 専修念仏1 内　容: 法然の浄土教思想の基本構造 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第III章
第28回	テーマ(何を学ぶか): 専修念仏2 内　容: 法然浄土教の思想史的意義 教科書・指定図書
第29回	テーマ(何を学ぶか): 日蓮の法華教学 内　容: 日蓮の唱題思想、政教一致思想 教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第IV章
第30回	テーマ(何を学ぶか): 禅、全体のまとめ 内　容: 宋朝禅の導入と栄西・道元　現代日本人と仏教 教科書・指定図書
試 験	期末レポートの提出。試験は実施しない。

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
メディアとジャーナリズム		2 単位	
〔担当者〕 河田　喜照　他	〔オフィス・アワー〕 **時間:** **場所:**		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

・この講義では、マスメディアが、その社会的使命である「ジャーナリズム」をどう実現しようとしているかオムニバス方式で解説する。東奥日報社の記者経験者や広告・販売の担当者らが登壇、現場の情報を通じてメディアとジャーナリズムに対する理解を深めてもらう。
・青森県の各メディアを紹介しながら、地域社会におけるメディアの役割を考える。
・ネット社会における情報伝達手段の変化と問題点を指摘し、メディアリテラシーを育てることも意識していく。
・文化支援事業など地域メディアが果たしている役割も紹介していきたい。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

民主主義社会において、正確な情報を市民に伝達する機能は不可欠である。その役割を担うメディアについての理解は主権者として必要な素養である。一方で、ネット社会の進展により、従来のマスメディアが担ってきた情報伝達の方法は大きく変化している。ネット空間では玉石混交の情報が飛び交い、フェイクニュースと呼ばれる虚偽情報、またフィルターバブル(自分の興味のある情報ばかりが集まる現象)が問題になっている。かつてないほどメディアリテラシーの必要性が高まっており、その向上に役立つ機会としたい。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

中間目標
・近代におけるジャーナリズムの成立から現在にいたる歴史を知り、メディアを客観的にみる視点を育てる。
・新聞社やテレビ局などのマスメディアが果たしている社会的役割を知る。
・現場の活動を知ることで、マスメディアの機能に対する正確な知識をもってもらう。
・報道活動が抱える問題点について理解する。
・Yahoo、Google など巨大 IT 企業によるニュース提供と既存メディアのかかわりを理解する。

最終目標
・われわれの社会におけるジャーナリズムの機能と問題点を理解する。
・メディアリテラシーを高め、健全な市民・社会人としての素養を身につける。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

初年度のため該当なし。

〔教科書〕

特になし

〔指定図書〕

特になし。

〔参考書〕

東奥日報、ホームページ「WEB 東奥」、「東奥日報スマホサイト」「東奥日報アプリ」、SNS など。

〔前提科目〕

なし。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

出席率および最終リポート課題で評価。

〔評価の基準及びスケール〕

学生便覧の通り:

A: 80%以上、 B : 70%以上、 C: 60%以上、 D: 50%以上、 F: 50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・新聞社やテレビ局など、いわゆるマスメディアの報道活動は、若い世代に正しく理解されていないところが多分にある。メディアに携わる人たちがどんなことを考え、どんな活動をしているのか理解してもらえるよう努力する。また Yahoo、Google など巨大 IT 企業への情報提供や SNS の進展の中で起きていることについても説明する。時事的な内容も織り交ぜながら現場の声を伝えていくので、メディアとジャーナリズムについて理解を深める機会にしてほしい。

・複数の講師によるオムニバス形式のため、都合によって講義の順番が前後することがある。あらかじめ了承していただきたい。

〔実務経歴〕

新聞記者、デジタル編集者、広告担当者、新聞販売担当者、イベント・出版担当者ら。

授業スケジュール

第1回	テーマ(はじめに): 内　容: 講義の全体像。現在の主なメディアとその特性。青森県内の新聞、テレビ、ラジオ、雑誌の紹介。ジャーナリズムの理念。ネットメディアの進展の状況など。新聞の読み方レクチャーや基本用語の紹介も。 教科書・指定図書 なし
第2回	テーマ(ジャーナリズムの歴史): 内　容: 近代ジャーナリズムの歴史。17 世紀のイギリスにおける市民社会の成立と新聞ジャーナリズム。日本における江戸時代の落首や瓦版の考察、明治の自由民権運動と新聞、戦時中の検閲と一県一紙令、戦後のあゆみ。3 権分立とジャーナリズムの役割。 教科書・指定図書 なし
第3回	テーマ(新聞の魅力を伝える～NIE・NIB 事業): 内　容: 購読部数の現状と部数拡張策としての NIE・NIB 事業。若者に新聞の魅力を伝える取り組みを紹介する。新聞を楽しく読むために、記事の書き方や見出しの付け方、記事の読み比べをワークショップのように体験してもらう。 教科書・指定図書 なし
第4回	テーマ(紙とデジタル～東奥日報の事例から): 内　容:▽ デジタル展開の歩み～Web東奥から東奥日報アプリまで▽ デジタル報道の現況～自社サイト、ヤフーなど外部配信、SNSなど▽ 新型コロナ報道とデジタル～空前のアクセスが意味するもの▽ 紙とデジタル～「偏りのない情報摂取」のために ほか 教科書・指定図書 なし
第5回	テーマ(事件・事故と司法手続き) 新聞やテレビで日々報道される事件や事故。報道における大きな分野だが、その取材体制はどうなっているのか裏舞台を紹介する。また逮捕や送検、起訴、裁判など司法手続きを理解することで事件・事故のニュースに対する理解を深めてもらう。 教科書・指定図書 なし
第6回	テーマ(住民に寄り添う地方紙の役割) 内　容: 地方紙は、地域との距離が近いからこそ地域の課題や良さをきめ細かく報道することができる。医療福祉分野で主に取材してきた記者の経験を踏まえ、住民と同じ目線で報道する地方紙の役割の大切さを考える 教科書・指定図書 なし

第7回	テーマ(ネット情報とメディアリテラシー): 内　容: フェイクニュース、ディスインフォーメーションの考察。アメリカの米連邦議会乱入事件や熊本地震の猛獣脱走騒ぎなどを例に、ネット情報の危うい面を認識する。また SNS の使い方とフィルターバブルなどについても考えてみる。 教科書・指定図書 なし
第8回	テーマ(新聞広告は時代を映す鏡): 内　容: 広告がその時代をどう映してきたかを振り返り、「広告は文化」という視点で明治から令和までの変遷を俯瞰してみる。また新聞草創期の広告の特徴や傾向を時代背景とともに考察し、表現方法やアプローチの仕方の違いから、広告が社会の中で果たす役割を理解する。 教科書・指定図書 なし
第9回	テーマ(新聞の文化面・生活面は何を伝えてきたか): 内　容: 才能を掘り起こす、応援する、批評する、発表の場をつくる新聞の文化面。東奥日報が伝えた太宰や寺山から、近年の県人作家らの活躍を中心に紹介。暮らしに寄り添う、一緒に考える生活面。コロナ禍で求められたこと。 教科書・指定図書 なし
第10回	テーマ(衆院選と選挙報道): 内　容: 衆院選の任期は 10 月 21 日まで。秋までには総選挙が行われる。衆院選は政権選択の選挙であり、その結果によって我々の生活が左右される。次期衆院選に関する新聞紙面を見ながら、選挙報道の社会的意義などを考える。 教科書・指定図書 なし
第11回	テーマ(なぜ、スポーツ紙が存在するのか): 内　容:スポーツ新聞はアジアだけに存在するメディア。オリンピック、アジア大会等の世界大会及び国民体育大会、全国高校野球選手権等の国内大会の取材体験を通して、スポーツとメディアが地域にもたらす意義、役割を考察する。 教科書・指定図書 なし
第12回	テーマ(報道の問題点を中心に) 近年、報道に対する市民の目線が厳しくなっている。政治的スタンスの違い、集中報道への批判、実名報道と匿名報道、記者クラブ、放送法とテレビ・ラジオ、ニュース報道とワイドショー(ニュースを使った娯楽色の強いテレビ番組)などについて説明、報道が抱える問題点について考えてもらう。 教科書・指定図書 なし
第13回	テーマ(青森県と基地): 内　容: 沖縄に次いで「第2の基地県」と呼ばれる青森県。米軍・自衛隊の基地と関連施設は多数に上り、機能は複雑多岐にわたる。新冷戦時代と呼ばれる中、その実態を説明するとともにマスメディアがどのように報じてきたのかについて紹介する 教科書・指定図書 なし
第14回	テーマ(地域ジャーナリズムの役割): 内　容: 地域ジャーナリズムについて。ローカル記事の需要と「劇場効果」による共感性。スクープの種類、行政に対するチェック機能を知る。また地元紙が消えたアメリカの地方都市で起きたことなどを例に地域ジャーナリズムの役割をあらためて考える。 教科書・指定図書 なし
第15回	テーマ(終わりに): 内　容: ジャーナリズムが守るもの、ジャーナリズムの展望。 教科書・指定図書 なし
試 験	課題リポートを課す

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
事業論Ⅲ		１単位	キャリア教育科目
〔担当者〕 今泉 清保 Seiho Imaizumi	〔オフィス・アワー〕 **時間:** **場所:**		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕
・自分のキャリアをどう作っていくか、自分の将来をイメージする
・ニュースがどうやって出来るかを知り、情報をどう集めるか、またメディア・リテラシーについて考える
・インタビューをする側、される側をそれぞれ体験し、インタビュー記事を書く
・自分が見たい、見てもらいたい番組を、内容、ターゲット層、放送時間帯などを考えて企画書を作る
・イベントを企画し、プレスリリースを作成して「魅力ある発信」について考える
・地域について取り上げたニュース企画を視聴して、地域の魅力や課題について考える
・さまざまなキャリアを持つ人を取り上げたニュース企画を視聴して、自分のキャリアデザインを考える

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕
現役アナウンサーによる、放送局の仕事をベースにして自分を表現し発信することについて考える講義です。
SNSで個人が自由に情報発信できるようになった現在、正しくわかりやすい情報を発信する能力は、今後どんな職種に就くとしても求められます。
また、自分の個性や魅力をわかりやすく伝えることは、今後の就職活動において、エントリーシートの作成や面接の際に必要となります。
講義を通して、自分の中の引き出しに何があり、何を取り出してどう伝えたら自分のことを相手に理解してもらえるか考え、キャリアデザインに役立てて欲しいです。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕
・情報を整理してわかりやすく伝えられるようになる
・ニュースや情報にどう接し、どこに視点をおいて伝えるか考えられるようになる
・相手に適切な質問ができるようになる
・暮らしている地域のことに関心を持てるようになる
・自分のいいところ、経験したことなどを的確に人に伝えられるようになる
・自分の言葉で文章が書けるようになる

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕
授業評価が全体的に好評だったため、内容に大きな変更はありません。「テレビ」に加えて「ユーチューブ」「SNS」などの内容も加え、メディアリテラシーについてもより多く取り入れる予定です。

〔教科書〕
講師作成資料

〔指定図書〕
なし

〔参考書〕
なし

〔前提科目〕
なし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
各回の講義内容やテーマにそって、ミニレポートを講義中に書き、講義終了時に提出します。
提出された7回分のレポートをそれぞれ採点し、合計得点でグレードが決まります。

〔評価の基準及びスケール〕
講義内で記入してもらったレポートについて、テーマに沿った内容か、適切な文章が適当な分量で書けているか、企画や視点に独創性があるか、読み応えがあるかなど総合的に判断して10点満点で採点します。
レポートの合計点でグレードが決まるため、欠席すると提出できなかったレポート分の合計点が下がり、評価も下がります。欠席が多い場合は、合計点が単位取得基準に届かないこともあります。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
ニュースや情報番組を作るときに大切なのは、相手のことをよく知り、知り得た情報をいかにわかりやすく伝えるか、ということです。これは就職活動における「会社を知る」「自分のことを伝える」に繋がります。
自分で考えた発想、相手から聞いた話、見た番組の感想などを、自分の言葉で「読み手に伝わるように」書く力を、7回のレポート提出でつけていきます。筆記用具は必ず持参してください。

〔実務経歴〕
福岡放送アナウンサーを経て、東京でフリーアナウンサーとして番組出演多数。主なものに「めざましテレビ」「アッコにおまかせ」「はなまるマーケット」など。2011年青森テレビ入社。「ATVニュースワイド」キャスターなどを担当。現在は「わっち!!」金曜中継担当など。

授業スケジュール

第１回	テーマ（何を学ぶか）： 放送の仕事からキャリアを考える 内　容： 放送の仕組み　テレビとネットの違い　テレビの仕事からキャリアを考える 教科書・指定図書
第２回	テーマ（何を学ぶか）： ニュースについて考える 内　容： テレビニュースができるまで　取材の基本　メディアリテラシー　自分の人生のニュースとは 教科書・指定図書
第３回	テーマ（何を学ぶか）： インタビューとは 内　容： インタビューの基本　インタビューをして記事を書いてみる 教科書・指定図書
第４回	テーマ（何を学ぶか）： 番組の企画とは 内　容： 人に「見せたい」番組を考え企画書を作る　テレビとユーチューブの違い 教科書・指定図書
第５回	テーマ（何を学ぶか）： 魅力あるイベントとは 内　容： イベントを企画しマスコミ向けに「取材してみたくなる」プレスリリースを作成する 教科書・指定図書
第６回	テーマ（何を学ぶか）： 地域について考える 内　容： 地域のことを取り上げたニュース企画を視聴し、地域の暮らしや問題について考える 教科書・指定図書
第７回	テーマ（何を学ぶか）： 自分の魅力はなにか、目指すキャリアはなにかを考える 内　容： さまざまなキャリアを持つ人を取り上げたニュース企画を視聴し、目指すキャリアを考える 教科書・指定図書
試　験	なし　レポートにて評価

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経営倫理学	2単位	専門科目 基幹科目　選択必修

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
上田　弘 Ueda Hiromu	**時間:** 木曜と金曜の12時20分～12時50分 **場所:** 604研究室	講義

〔科目の概要〕

近年、企業の不祥事が絶えない。大手建設業界の談合、BSE(狂牛病)に関する食肉偽装、電力業界の虚偽報告、貿易商社による海外不正取引、大手電機メーカーの粉飾決算報告など 2000 年以降に発生した企業不祥事だけでも枚挙に暇がない。こうした傾向は企業だけではなく、官僚機構、警察・検察機構、自治体等も含め、学校、病院などの様々な組織においても見られ、ガバナンス(統治)上の根詰まりが起きている。

また、日本だけではなく、米国においてもエンロン、ワールドコムの不正会計事件、欧州のドイツの大手自動車メーカー・フォルクスワーゲンによる排ガス不正問題の大きさの衝撃は、史上最悪の不祥事に発展している。

これら頻発する不祥事を振り返ると、企業の売上・利益偏重主義や株主価値至上主義等のもたらす負の部分が露呈していることが背景となり、企業や組織の倫理観の欠如から生じるものが多く、企業の存亡に関わるリスクである。

経営倫理の重要性を考えれば、企業等においてもガバナンス機能が発揮されなければならない時代である。その意味からも企業の社会的責任(CSR)並びに企業の経営倫理の重要性を理解するため、実際の企業事例にも触れながら、経営倫理に関する基礎的な知識全般の習得を目指すこととする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

企業が CSR に取り組むメリットは、①社会の様々な利害関係者からの長期的な信頼、②リスクを事前に察知して事業のチャンスに結びつける変化への適応力、③将来にわたっての存在を期待される等がある。

本授業を通じ、これからの企業や社会人は、時代の変化に対応して、もっと社会や環境に関心を持ち、法令を超えた自主性が求められていることを認識し、企業活動を通じて倫理という視点から見る目を養い、これからの企業のあり方について理解を深めることを目的とする。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

経営倫理学の授業では、企業運営における企業の社会的責任と役割、コーポレート・ガバナンス、コンプライアンス等の知識に対する興味と理解を深め、実際の企業経営の現場で活用されている知識を付与したい。

本授業を通じて、将来の就職活動、インターンシップの場面のほか、社会人になっても役立つセルフ・ガバナンス力を身に着けるための知識を習得し、その理解を高めることを目標にする。

なお、本授業では、学習効果を高めるため、3回の連続授業を実施する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

この科目を担当するにあたって、私がこれまで企業及び役所等において実質経営者、管理者として勤務した経験から得た知見、多くの企業をフィールドワーク及び海外調査で訪ねた企業事例などを通じて、企業現場や経営実務に関する知識と有効な実践的スキルなども付与したい。

本授業では、履修者からの要望、改善・工夫に関する意見やアンケート結果を参考にして、授業へ反映させるよう努力していく。

〔教科書〕

田中宏司、松本恒雄 著『CSR の基礎知識』日本規格協会

〔指定図書〕

高　巖　著『コンプライアンスの知識』日経文庫
後藤啓二 著『企業コンプライアンス』文春新書
田村達也 著『コーポレート・ガバナンス』中公新書
水尾順一 著『セルフ・ガバナンスの経営倫理』千倉書房
村上芽 著『図解SDGs入門』日本経済新聞社
小平龍四郎著『ESGはやわかり』日経文庫
江夏あかね、西山賢吾著『ESG／SDGs キーワード130』金融財政事情研究会

〔参考書〕

國部克彦 著『CSRの基礎』中央経済社
高　巖　著『ビジネスエシックス(企業倫理)』日本経済新聞出版社
日経ESG編『実践企業のSDGs』日経BP社

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

◎評価の方法

1. 秋学期開始後、11月の中間時に「課題レポートの提出」を課し、提出されたレポートは最大50点評価とする。
2. 学期末に「定期試験」を行い、最大50点評価とします(試験では教科書、レジメ、講義ノートは持ち込み可。)

上記2つの要素で最終評価に反映させる。

〔評価の基準及びスケール〕

◎評価の基準

授業で得た知識を基に、現代の企業で実際に行われているマネジメント(経営管理)内容の理解力で評価する。

A:80点以上
B:80点未満70点以上
C:70点未満60点以上
D:60点未満50点以上
F:50点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・受講を希望する者は、必ず1回目の授業に出席してほしい。
・授業は、出来るだけ分かりやすい授業を行うが、一方的に話すだけではなく、教科書及びレジメ等の輪読、学生の意見を求めることもある。そのため、受講する学生には、授業への参加意識を持って出席をしてほしい。
・PCやipadなどのスマホでノートをとる必要及び事例企業などを検索する場合に限り、その使用を認める。

〔実務経歴〕

経済産業省(旧通産省)、国の独立行政法人、中小企業等での実務経験を活かし、企業の社会的責任並びに経営倫理の重要性を理解するため、実際の企業事例にも触れながら、経営倫理に関する基礎的な知識全般の習得を目指すこととする。

授業スケジュール

第1回 9/9	テーマ(何を学ぶか): オリエンテーション、ビジネスにおける「企業の社会的責任(CSR)」について 内　容:(1)経営のはたらきは何か、(2)サスティナビリティ(持続可能性)のとは、 (3)企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)の概念、 (4)企業の主な組織不祥事、(5)なぜ今、CSRが求められているか 教科書・指定図書とレジメ
第2回 9/16	テーマ(何を学ぶか):企業の社会的責任(CSR)とは何か 内　容:(1)企業が社会的責任に取り組む理由、(2)企業の社会的責任(CSR)の重要性と意義、 (消費者の変化、環境問題の深刻化、ネット社会の発展、グローバル経済が与える影響、 CSRの国際規格化等) 教科書・指定図書とレジメ
第3回 9/23	テーマ(何を学ぶか):企業不祥事と経営倫理 1 内　容:企業不祥事(スキャンダル)の現状、スキャンダル事例(三菱自動車、パナソニック等) について考える 教科書・指定図書とレジメ
第4回 9/24	テーマ(何を学ぶか):企業不祥事と経営倫理 2 内容:(1)企業不祥事と倫理観の関係性、(2)経営倫理の史的展開 教科書・指定図書とレジメ
第5回 9/30	テーマ(何を学ぶか):世界中で進むCSRの導入 内　容:海外のCSR最新事情(欧米、アジア、オセアニア等)について 教科書・指定図書とレジメ
第6回 10/14	テーマ(何を学ぶか):動き出した日本の取り組み 内　容:産業界、行政官庁、学術研究界、民間組織 等 教科書・指定図書とレジメ

第7回 10／15	テーマ(何を学ぶか):日本企業のCSR導入事例 内　容: 東京商工会議所のCSR調査、トヨタ自動車、西友、ソニー、資生堂等の導入事例 教科書・指定図書とレジメ
第8回 10／28	テーマ(何を学ぶか):コーポレート・ガバナンス(corporate governance:企業統治)とは何か 内　容:CSRとコーポレート・ガバナンスとの関係、企業統治の不在、欧米でのコーポレート・ガバナンス 革命等 教科書・指定図書とレジメ
第9回 11／11	テーマ(何を学ぶか):日本的ガバナンスを考える 内　容:日本経済の成功と日本的経営システム、日本的経営の行き詰まり、 日本の新しいコーポレート・ガバナンスの動き　等 教科書・指定図書とレジメ
第10回 11／12	テーマ(何を学ぶか):コンプライアンス(Compliance:法令遵守)とは何か。 内　容:コンプライアンス(法令遵守)とは何か、法律のコンプライアンスとは、法律以外のコンプライアンス (反社会性の除去)とは　等 教科書・指定図書とレジメ
第11回 11／18	テーマ(何を学ぶか):公務員倫理を考える 内　容:国家公務員倫理法及び倫理規程、青森県職員倫理条例及び倫理規程の概要等について ※ゲストスピーカーを予定。 教科書・指定図書とレジメ
第12回 11／25	テーマ(何を学ぶか):21世紀に花開くCSR、SDGsとESG 内　容:マーケティングのあり方、非財務情報(環境・社会)の重要性とCSRの多様な見方、CSRの本質、 SDGsとESG　等 教科書・指定図書とレジメ
第13回 12／9	テーマ(何を学ぶか):企業におけるCSR組織の策定と展開 内　容:経営トップのリーダーシップとコミットメント、CSRの本質の理解、CSR組織の策定、 ITの有効活用、ステークホルダーとのコミュニケーション　等 教科書・指定図書とレジメ
第14回 12／16	テーマ(何を学ぶか):企業の社会的責任(CSR)の事例 内　容:中小企業事例(マンナンライフ)、大企業事例(パナソニック、トヨタ、ユニクロ等)など 教科書・指定図書とレジメ
第15回 12／23	テーマ(何を学ぶか):経営倫理のまとめ 内　容: 教科書・指定図書とレジメ
試 験 12／2	

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
会社法Ⅱ		2 単位	
〔担当者〕 白石 智則	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

本講では、春学期の「会社法Ⅰ」の講義とあわせて、「会社法」（平成 17 年法律第 86 号）が定める基本的な法制度（特に株式・資金調達・設立・組織変更）について学びます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

いまの世の中、「会社」を経営したり、「会社」に就職したり、「会社」に投資したり、「会社」から商品を購入したりと、とにかく私たちは「会社」と関わらずに生きていくことはできません。会社法は、「会社」に関わるさまざまな関係者間の利害を調整する基本的なルールであり、これからの皆さんの生活とも深く関わります。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

「会社法」の基本構造を理解し、会社法にかかわる様々な法律問題を考えることができる能力を身につけてもらいます。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

講義のやり方について特に否定的な意見はなかったので、引き続きパワーポイントを利用して講義を行います。

〔教科書〕
拙著『会社法の教科書』(2021 年)〔価格未定〕
ただし、流通ルートに乗せていない自費出版の教科書ですので、生協で販売することができません。データを提供するなど、何らかの方法により提供したいと思います。

〔指定図書〕
な し

〔参考書〕
中東正文ほか『会社法 有斐閣ストゥディア』(有斐閣、第 2 版、2021 年)
江頭憲治郎『株式会社法』(有斐閣、第 8 版、2021 年)
田中亘『会社法』(東京大学出版会、第 3 版、2021 年)
岩原紳作＝神作裕之＝藤田知敬編『会社法判例百選』(有斐閣、第 3 版、2016 年)
そのほかの参考文献については、最初の講義のときに紹介します。

〔前提科目〕
な し

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
小テストと、授業内試験として行う期末試験により評価します(小テスト(20%)・授業内試験(80%))。
小テストは、講義を２回行うごとに実施します（全７回）。授業を聞いていれば分かるような、簡単な選択問題を出題します。Google Formを使用して試験を行いますので、講義後に指定のURLから受験してください。
期末試験では、基本的な知識を確認する選択式問題と、論述式問題を出題します（持込不可）。成績評価の際に出席状況を加味することはありませんが、全講義の３分の２以上出席していない者は失格とします。

〔評価の基準及びスケール〕
原則として、８０点以上をＡ、７０点以上をＢ、６０点以上をＣ、５０点以上をＤとしますが、平均点しだいで基準点を調整します。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
熱意をもって受講してくれることを期待します。

〔実務経歴〕
な し

授業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか): 総論・機関 内　容: 総論、株式会社の機関(会社法Ⅰ)の復習 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅰ 総論　Ⅱ 株式会社の機関
第２回	テーマ(何を学ぶか): 株式 (1) 内　容: 株式の内容(株式とは、株主の義務・権利、株主平等の原則、株式の内容についての特別の定め) (講義終了後、第１回 小テスト) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅲ 株式 1. 株式の内容
第３回	テーマ(何を学ぶか): 株式 (2) 内　容: 株式の内容(種類株式)、株式の譲渡(株式譲渡自由の原則、譲渡制限株式の譲渡、株券) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅲ 株式 2. 株式の譲渡 (1)～(3)

第4回	テーマ(何を学ぶか): 株式 (3) 内　容: 株式の譲渡(株式譲渡の方法、株主名簿、名義書換え、振替株式制度)　(講義終了後、第2回 小テスト) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅲ 株式 2. 株式の譲渡 (4)～(7)
第5回	テーマ(何を学ぶか): 株式 (4) 内　容: 自己株式、株式の大きさ (株式の併合、株式の分割、株式の無償割当て、単元株式制度) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅲ 株式 3.自己株式 4. 株式の大きさ
第6回	テーマ(何を学ぶか): 株式会社の資金調達 (1) 内　容: 株式会社の資金調達(方法、新株発行とは、新株発行の方法・発行手続)　(講義終了後、第3回 小テスト) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅳ 株式会社の資金調達 1. 資金調達の方法 2. 新株の発行 (1)～(4)
第7回	テーマ(何を学ぶか): 株式会社の資金調達 (2) 内　容:株式会社の資金調達(新株発行の差止請求、新株発行の無効の訴え、新株予約権) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅳ 株式会社の資金調達 2. 新株の発行 (5)･(6) 3. 新株予約権の発行
第8回	テーマ(何を学ぶか): 株式会社の資金調達 (3) 内　容: 株式会社の資金調達(社債)　(講義終了後、第4回 小テスト) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅳ 株式会社の資金調達 4. 社債の発行
第9回	テーマ(何を学ぶか): 株式会社の計算 (1) 内　容: 株式会社の計算(会社法会計、会計帳簿、計算書類等) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅴ 株式会社の計算 1. 会社法会計 2. 会計帳簿 3. 計算書類等
第10回	テーマ(何を学ぶか): 株式会社の計算 (2) 内　容: 株式会社の計算(資本金と剰余金)　(講義終了後、第5回 小テスト) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅴ 株式会社の計算 4. 資本金と剰余金
第11回	テーマ(何を学ぶか): 株式会社の設立 (1) 内　容: 株式会社の設立(設立手続総論、定款の作成) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅵ 株式会社の設立 1. 設立の概要 2. 定款の作成
第12回	テーマ(何を学ぶか): 株式会社の設立 (2) 内　容: 株式会社の設立(社員の確定と出資の履行、設立登記、発起人等の責任等)　(講義終了後、第6回 小テスト) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅵ 株式会社の設立 3. 社員の確定と出資の履行 4. 機関の具備 5. 設立登記 6. 発起人等の責任と設立無効の訴え
第13回	テーマ(何を学ぶか): 組織再編 (1) 内　容: 組織再編(組織再編の種類、事業譲渡、合併) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅶ 株式会社の組織再編 1. 組織再編等の種類 2. 事業譲渡 3. 合併
第14回	テーマ(何を学ぶか): 組織再編 (2) 内　容: 組織再編(会社分割、株式交換・株式移転等、株式会社の解散・清算)　(講義終了後、第7回 小テスト) 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅶ 株式会社の組織再編 4. 会社分割 5. 株式交換･株式移転 6. 特別支配株主の株式等売渡請求　Ⅷ 株式会社の解散･清算
第15回	テーマ(何を学ぶか): 授業内試験(期末試験)･解説 内　容: 授業内試験(期末試験)･解説 教科書 拙著『会社法の教科書』Ⅲ 株式 Ⅳ 株式会社の資金調達 Ⅵ 株式会社の計算 Ⅶ 株式会社の組織再編 Ⅷ 株式会社の解散･清算
試 験	筆記試験 (四択問題・論述問題)　(第15回の講義中に行います)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経営情報論	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
永松　陽明	**時間:** **場所:**	

〔科目の概要〕

現在の社会は、コンピュータなどの情報技術によって支えられている。鉄道、銀行、コンビニエンスストアなど生活の不可欠なシステムは全て情報技術が重要な部分を担っている。また、GAFA（Google、Amazon、Facebook、Apple）などが提供する情報サービスや SNS（Social Networking Service）などは非常に身近で便利なものとなっている。反面、ユーザの履歴などの情報が提供企業に蓄積され利用もされ、高収益を上げている。加えて、メルカリなどのような新しいサービス企業（ユニコーン企業）の登場なども話題となっている。以上のようなコンピュータに関連する背景、技術、ビジネスの理解は社会で高く求められている。

そこで、本授業では、「経営における情報技術の重要性理解」、「情報活用ための基礎知識獲得」、「GAFA のビジネスモデルと課題の理解」、「新しいビジネスの創出プロセスの体験」をねらいとする。

具体的には、情報技術のベースである「ハードウェア」、「ソフトウェア」、「ネットワーク」、「データベース」、情報システムを構築する際に不可欠な「業務プロセス」、「プロジェクトマネジメント」について説明を行い情報技術とその周辺管理技術の重要性を解説する。また、データを分析するための統計分析や初歩の Excel マクロなどのプログラムも併せて学ぶことで、情報活用ための基礎知識を育成する。続いて、GAFA のビジネスモデルやそれが抱える課題の解説を行う。例えば、Facebook は Instagram のサービスであることや、Amazon.com はアメリカで税金を非常に圧縮しているなどを説明する。そして、学習の最後に新しいビジネスの創造のための技法（デザイン思考）とプレゼンテーション方法を説明する。それを踏まえ、最終発表を行う。

ただし、ホットイシューや授業の進捗を踏まえつつ、授業のスケジュールは柔軟に変更することがあるので、注意すること。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

最新の情報技術を利用した企業は、経営学分野において重要なトピックスであるため、他の経営学関連の授業においても解説・説明が行われている。そのような授業と本授業で扱う内容を併せて、理解を深めてほしい。

また、情報技術は社会に出た際には必ず触れるものであるため、大学生のうちに基本的な仕組みや知識は習得すべきである。本授業で触れる初歩の統計分析は、需要予測などのビジネスシーンで活用されている。また、業務プロセスの改善は仕事を進めていく上で必須の知識である。本授業でその重要性を理解してほしい。

加えて、よく使うGAFAのサービスの中身や新しいビジネスの創造のための技法の理解も社会に出る際には不可欠な知識であるため、これも是非理解してほしい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

本授業の到達目標を下記に示す。

【中間目標】

- コンピュータは「指示を与えないと動かない」ことを理解できている。
- 業務プロセスの重要性を理解できている。
- 回帰分析の初歩的な理解ができている。
- GAFAのサービスが理解できている。
- プレゼンテーションを行うためのPowerPointの使い方が理解できている。

【最終目標】

- 経営情報システムが具体的にイメージできるようになっている。
- 業務プロセスの改善方法が身についている。
- 仕事（業務）で使用できるレベルの回帰分析ができる。
- GAFAのビジネスモデルや最新の課題（デジタル課税など）がわかっている。
- 新しいビジネスの素になるアイデアの創出方法として、デザイン思考があることを理解できている。
- 発表をするためのアイデアのブラッシュアップの仕方がわかっている。
- 発表を行うための効果的な方法が身についている。具体的にはグラフや表の効果的な活用など。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生諸君のコメントを参考にし、順次授業改善を実施する。

また、授業の進捗や学生職君の理解度に応じて、授業内容を柔軟に変更する可能性がある。

〔教科書〕
永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』 学文社、2018 年。

〔指定図書〕
スコット・ギャロウェイ、『the four GAFA　四騎士が創り変えた世界』 東洋経済新報社、2018 年。

〔参考書〕
(1)　野々山隆幸編著、『最新ITを活用する経営情報論』テンブックス、2014年。
(2)　永松陽明，「ゲノム解析のビジネス活用と課題」，国立国会図書調査及び考査局編，『科学技術に関する調査プロジェクト[調査報告書] ライフサイエンスをめぐる諸課題』（国立国会図書館，東京，2016）pp.151-165.
(3)　永松陽明，「ビッグデータ利活用の現状と課題」，国立国会図書調査及び考査局編，『科学技術に関する調査プロジェクト[調査報告書] 情報通信をめぐる諸課題』（国立国会図書館，東京，2015）pp.47-67.
(2)～(3)の参考書は、国会図書館のホームページから無料でダウンロードできる。

〔前提科目〕
特に設定しない。ただし、コンピュータの基本操作（ファイルの作成、保存）などは授業開始前までに学習しておくこと。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
授業では授業スケジュールに記載しているように随時課題に取り組む。また、最終授業時（変更の可能性もある）に「最終発表」を受講者全員に課す。

〔評価の基準及びスケール〕
授業内の課題は、課題の質の他にも作成プロセスも併せて評価する。また、最終発表は授業を踏まえて作成されていることが評価のポイントである。
最終評価は、授業内課題：70%、最終発表：30%の割合で計算する。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
Word や Excel、Powerpoint を使用して授業を行うが、それらの初心者でも理解を深めることができる授業を行う。
ただし、基本操作（ファイルの作成、保存）などは授業開始前までに学習しておくこと。

〔実務経歴〕
日立製作所にて研究開発業務に従事。詳しくは下記を参照のこと。
https://researchmap.jp/7000006824/

授業スケジュール

第１回	テーマ（何を学ぶか）：　イントロダクション 内　容：　授業のねらいを解説した上で、身近になってきている情報技術、情報システムの例を紹介する。 教科書・指定図書：スコット・ギャロウェイ、『the four GAFA　四騎士が創り変えた世界』 東洋経済新報社、2018 年。
第２回	テーマ（何を学ぶか）：経営情報システム、業務プロセス(1) 内　容：経営情報システムの構成や歴史などを説明し、併せて経営情報システムを構築する上で重要な業務プロセスを解説する。また、学生諸君の身近なアルバイトの業務プロセスを記述し、改善策を検討する。 教科書・指定図書：使用しない。
第３回	テーマ（何を学ぶか）：経営情報システム、業務プロセス(2) 内　容：プレゼンテーションの方法について教科書を用いて説明した後に、第 2 回授業で検討した業務プロセスとその改善策について発表を行い、議論を行う。 教科書・指定図書：永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』 学文社、2018 年。
第４回	テーマ（何を学ぶか）：ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク 内　容：ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークについて解説を行う。併せて、関係する映像資料などの閲覧を行う。 教科書・指定図書：使用しない。
第５回	テーマ（何を学ぶか）：データベース（1） 内　容：データベースの基本構造を説明した後に、作成のポイントについて解説。実際にPCを用いてデータベースの設計を行う。 教科書・指定図書：使用しない。

第6回	テーマ(何を学ぶか):データベース(2) 内　容:前授業に引き続いて、際にPCを用いてデータベースの設計を行う。また、設計についてのポイントについて議論を行う。 教科書・指定図書:使用しない。
第7回	テーマ(何を学ぶか):ビジネスで求められる回帰分析・Excel マクロ(1) 内　容:ビジネスシーンで求められる回帰分析の例を説明しつつ、Excel を用いた回帰分析を行う。初心者でもわかるようにゆっくり進めていく。 教科書・指定図書:永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』 学文社、2018年。
第8回	テーマ(何を学ぶか):ビジネスで求められる回帰分析・Excel マクロ(2) 内　容:ビジネスシーンで求められるExcelマクロの例を説明しつつ、Excelマクロの作成を行う。初心者でもわかるようにゆっくり進めていく。 教科書・指定図書:使用しない。
第9回	テーマ(何を学ぶか):ビジネスで求められる回帰分析・Excel マクロ(3) 内　容:第 7 回の授業を踏まえて、実際のデータベース(IMF)からデータ(GDP)をダウンロードし、回帰分析を活用した「需要予測」を行う。 教科書・指定図書:永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』 学文社、2018年。
第10回	テーマ(何を学ぶか):プロジェクトマネジメント 内　容:情報システムを構築する際に不可欠な「プロジェクトマネジメント」の解説を行う。身近な例を題材として、実際にガントチャートの作成を行う。そのガントチャートについては、参加者で議論を行い、ブラッシュアップを行う。 教科書・指定図書:使用しない。
第11回	テーマ(何を学ぶか): GAFA のビジネスモデルと課題(1) 内　容:GAFA の「Google」、「Amazon.com」、「Facebook」、「Apple」についてのビジネスモデルについて、解説を行う。その際に、ビデオを閲覧しつつ、ホットイシューも把握する。また、それぞれが抱える課題なども議論する。 教科書・指定図書:スコット・ギャロウェイ、『the four GAFA 四騎士が創り変えた世界』 東洋経済新報社、2018 年。
第12回	テーマ(何を学ぶか): ユニコーン企業とデザイン思考(1) 内　容:新しいビジネスを創出するユニコーン企業とデザイン思考について解説を行う。特に AirBnB のビジネスについてビデオを使用しつつポイントを説明する。併せて、デザイン思考の方法を解説し、実際のアイデアをそのフレームワークに当てはめて各自で作成を進める(課題完成は宿題とし、第14回授業でブラッシュアップし、15 回の授業で発表する)。 教科書・指定図書: 永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』 学文社、2018 年。 スコット・ギャロウェイ、『the four GAFA 四騎士が創り変えた世界』 東洋経済新報社、2018 年。
第13回	テーマ(何を学ぶか): GAFA のビジネスモデルと課題(2) 内　容:前授業に引き続いて、GAFA の「Google」、「Amazon.com」、「Facebook」、「Apple」についてのビジネスモデルについて、解説を行う。共通するコアコンピタンスや「デジタル課税」「データ保護」などの課題も議論する。 教科書・指定図書:スコット・ギャロウェイ、『the four GAFA 四騎士が創り変えた世界』 東洋経済新報社、2018 年。
第14回	テーマ(何を学ぶか):ユニコーン企業とデザイン思考(2) 内　容:宿題をブラッシュアップする時間とする。随時、相談を受ける。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:12 回と 14 回までで作成したプレゼンテーション資料を発表する。 教科書・指定図書:永松陽明、柳田義継、藤祐司、仲野友樹、『アイデアの発想・整理・発表』 学文社、2018年。
試　験	最終授業時に発表を課す。

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
生産管理論		2 単位	
〔担当者〕 小嶋　高良 Kojima　Koryo	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

生産管理は、経営における生産活動を効率化し、生産の三要素といわれる人(Man)、材料(Material)、機械(Machine)の三つの要素の有効性を最高に発揮させるための体系的活動をいい、具体的にいえば、需要に適合した製品ないし財を、需要の三要素といわれる良質に(良く)、安価に(安く)、しかも適時に(早く)生産するための体系的活動をいう。
主内容は、生産管理概論、生産計画、作業研究、工程管理、品質管理、在庫管理、運搬管理、等である。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

生産管理の内容を大別すると、生産計画(Production Planning)と生産統制(Production Control)の二つの機能に分けられる。
生産計画は、生産対象、生産数量、生産方法、生産する場所、生産する順序、生産時期、等を決めて、それを関係部門に目標として与えるもので、
生産統制は、生産計画を維持して、改善していくために、適切な時点と場と方法で実績の測定と評価を行い適当な処置と対策を取ることで、
モノづくりの生産現場の問題解決手法として、実際に多くが活用されており、経営経済学部の教育目標である「経営」「経済」「地域」に関する専門的知識を学び、「多様なものの見方」に立ち、複雑化する現代社会の仕組みを多角的に捉え、問題解決に立ち向かう力を養うことを学ぶ学生としては、就職後の企業の中で学生ら自らが問題解決手法として活用する場面に結びつく非常に役立つ手法である。

〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕

到達目標としては、生産管理の基本的な知識の理解とモノづくりの生産現場の問題解決手法としての理解について、またその活用方法についての到達度を評価する。
そのために、講義用に作成したプリントを講義前に配布するが、予習として次回授業分のテキストを事前に良く読んで理解しておくこと。理解できなかったところはチェックしておくこと。
また、ミニテスト、レポート課題を課することがあるが、その場合には良く調べて解答し必ず提出すること。
そして、復習としてはテキストの内容の理解を深め、ミニテスト・レポート課題の解答をよく理解しておくこと。
等を目標とし評価する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生から、授業内容を豊富にし過ぎたため、内容が散漫になった傾向があり、パワーポイントも枚数が多過ぎ、メモをとる時間にも制約が課せられたとの評価があり、少し内容を絞って、重点的に講義をするよう心掛けてきた。
今年度は、学生がメモをとる時間にも注意をして、一層余裕のある授業に心掛けて行きたいと考えている。

〔教科書〕
教員作成資料

〔指定図書〕
教員作成資料

〔参考書〕
必要なときに提示

〔前提科目〕
なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・授業中にミニテストあるいはレポート課題を課することがある。
・課題の内容などの詳細については、授業中に担当教員から指示する。
・中間試験は実施しない。学期末に期末試験を実施する。
・授業欠席が授業回数の３分の１を超える場合は、期末試験を受験不可とする。
・試験の内容などの詳細については、最終授業時までに担当教員から指示する。
・ミニテストあるいはレポート課題を実施した場合は、その評価と期末試験の評価を加算して総合的に評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

・ミニテストあるいはレポート課題を実施した場合はその評価を 40%以下、期末試験の評価を 60%以上とし、その合計 100 点満点の 50 点以上を合格とする。実施しない場合は期末試験 100 点満点の 50 点以上を合格とする。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・担当教員としては、「経営」「経済」「地域」に関する専門的知識を学び、「多様なものの見方」に立ち、複雑化する現代社会の仕組みを多角的に捉え、問題解決に立ち向かう力を養う経営経済学部の教育目標に則り、工学的な生産現場のモノづくりについて関心の薄い学生に対しても、関心を高め、学習意欲を高めるようなさまざまな事例を取り入れながら、授業の工夫や進め方に取り組んで行きたい。
・受講学生に対しては、各講義は生産現場のモノづくりの問題解決の各種手法として、実際に生産現場で各種手法の多くが活用されているということを良く理解し、就職後には学生本人も企業の中で非常に役立つ手法として活用するものとして意欲をもって授業に臨んで欲しい。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール	
第１回	テーマ（何を学ぶか）：生産管理論の概論 内　容：生産管理の概論と生産性、作業について 教科書・指定図書　　教員作成資料
第２回	テーマ（何を学ぶか）：生産管理 内　容：生産計画と生産統制、生産方式について 教科書・指定図書　　教員作成資料
第３回	テーマ（何を学ぶか）：プラントレイアウト 内　容：プラントレイアウトの概論とレイアウトデザインの体系的な進め方、基本原則、基本方式、手順、等について 教科書・指定図書　　教員作成資料

第4回	テーマ（何を学ぶか）：作業研究(1) 内　容：作業研究の概論と工程分析について 教科書・指定図書　　教員作成資料
第5回	テーマ（何を学ぶか）：作業研究(2) 内　容：動作分析について 教科書・指定図書　　教員作成資料
第6回	テーマ（何を学ぶか）：作業研究(3) 内　容：時間研究について 教科書・指定図書　　教員作成資料
第7回	テーマ（何を学ぶか）：工程管理 内　容：工程管理の概論と日程計画について 教科書・指定図書　　教員作成資料る
第8回	テーマ（何を学ぶか）：品質管理(1) 内　容：品質管理の概論と品質、品質特性について 教科書・指定図書　　教員作成資料
第9回	テーマ（何を学ぶか）：品質管理(2) 内　容：品質保証について 教科書・指定図書　　教員作成資料
第10回	テーマ（何を学ぶか）：品質管理(3) 内　容：品質管理の手法について　―QC7つ道具― 教科書・指定図書　　教員作成資料
第11回	テーマ（何を学ぶか）：品質管理(4) 内　容：品質管理の手法について　―新QC7つ道具― 教科書・指定図書　　教員作成資料
第12回	テーマ（何を学ぶか）：品質管理(5) 内　容：TQCとQCサークル活動について 教科書・指定図書　　教員作成資料
第13回	テーマ（何を学ぶか）：在庫管理 内　容：在庫管理の概論と発注方式について 教科書・指定図書　　教員作成資料
第14回	テーマ（何を学ぶか）：運搬管理 内　容：運搬管理の概論と運搬計画について 教科書・指定図書　　教員作成資料
第15回	テーマ（何を学ぶか）：生産管理論のまとめ 内　容：生産管理のトピックスとまとめ 教科書・指定図書　　教員作成資料
試 験	（授業時間第8週第2時限）筆記試験実施

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
労働法	2 単位	専門科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
三田村 浩 Hiroshi Mitamura	**時間:** **場所:**	講義

〔科目の概要〕

・企業に就職する際、その企業と労働契約を締結し、一定の労働条件の下、労働者は労務を提供し、その代償として賃金を受け取ることになる。そこでは、使用者（企業）も労働者も、労働基準法などの法律や就業規則において、会社における行動などが規律されており、紛争防止の見地からも正しく理解・把握しておく必要がある。
・本講義では、個別的労働関係法の分野に属する労働基準法を中心として、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法等、その他の労働関係法についても、時間の許す限り紹介する。憲法、民法及び商法（会社法）といった他の法律との関連も考察しながら、実務の分野にも目配りした幅広い講義を構成する。
・学説及び判例を通じて、単に法的知識習得だけでなく、リーガルマインド（法的思考力）も養うことを目的とする。
・時にはアルバイトなどで経験する身近な紛争を題材にしながら、いかに対処・解決していくべきか、行政機関による救済の活用を認識した上で、これを探る。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・まずは労働基準法を概観し、事例・判例を通じて、就職する際に、労働者として自分の身を守るべく必要最低限の法的知識を取得し、ビジネス法全般の基礎的学習として位置付ける。
・他のビジネス法関連科目と併せて、社会人として必要な知識を取得する。
・リーガルマインド（法的思考力）を養いながら法的知識を得ることで、社会人になってから遭遇するであろう様々な労働問題に対して、適切に対処できるようになる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・最終的には、労働法の知識を利用して、アルバイトや就職で遭遇する様々な労働問題に際して、冷静かつ的確な対処ができるようになることであり、そこでは、実際に問題が起こったときに、単に主張するのみならず、状況をしっかり把握した上で、当事者間で円満に解決が図られるように、リーガルマインドを備えながら考察する必要がある。
・この最終目標に向けて、毎回授業で取り上げる重要項目を学習し、着実に法的知識を積み上げながら、労働問題に潜む背景をも踏まえ、真の解決あるいは最善策に向けて対処法を学んでいく。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・受講ルールは初回に資料とともに詳しく説明するが、欠席学生を想定し、授業内で適宜確認したい。
・毎時間、コメント用紙に学んだことをまとめてもらうが、質問・要望・感想もコメントしてもらうことで、授業方法に問題があれば早急に対処する。
・受講生が必要最低限の知識を取得できるように板書を工夫し、作成した講義ノートは、予習・復習用の補助教材として確立する。
・判例や新聞記事を利用して、できるだけ身近な話題を提供することで、まずは労働法に興味を持ってもらえるように工夫する。
・配布資料の活用や確認テストを通じて、理解度を深めていく。

〔教科書〕
小畑史子、緒方桂子、竹内（奥野）寿、『労働法（第3版）』、有斐閣。

〔指定図書〕
講義の中で適宜提示。

〔参考書〕
講義の中で適宜提示。

〔前提科目〕
特になし。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・期末テストとして、レポート課題(2題)を評価する(50%)。なお、課題内容は、授業で扱った労働法の論点から出題し、授業内で発表する。
・コメント点として、コメント用紙を利用して、毎回の授業終了前に授業内容に対するコメント(その回で学んだこと、意見等)をしてもらい評価する(30%)。
・小テスト点として、授業で実施する2回分をそれぞれ評価する(20%)。空欄補充問題、論述問題を予定する。

〔評価の基準及びスケール〕

・レポート課題、毎回のコメント、小テスト(2回)により評価する。
・小テストやコメントの主な評価ポイントは、授業内容のまとめ方と論点の指摘である。
・期末テストのレポート課題の主な評価ポイントは、条文、学説あるいは判例の検討、意見である。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・初回に受講ルールに関する資料を配布するので、欠席の場合は受講前に教務課で必ず受け取ること。
・労働法は、就職活動あるいは就職に向けて、時には自分の身を守るために必要不可欠な知識となるため、できるだけ多くの法律関係を理解し、学んでもらいたい。
・単なる条文の暗記ではなく、考えながら学ぶ授業である。
・単に法律関係の理解のみならず、なぜそのような状況になっているのか、制度や背景も踏まえて学ぶ必要がある。
・教科書や資料を効果的に利用することにより、予習・復習を行ってもらう。
・授業中、私語及び携帯電話の操作は厳禁である。
・集中講義であるため、講義内容や受講ルールを理解し、しっかり参加することができる学生に受講してもらいたい。

〔実務経歴〕
該当なし。

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 労働法とは 内　容:本授業の評価基準、労働法とは、憲法との関係 教科書・指定図書　教科書2～13ページ
第2回	テーマ(何を学ぶか):労働法体系と労働法のアクター 内　容:労働法体系、労働法のアクター、労働者性、使用者性 教科書・指定図書　教科書13～14、25～30ページ
第3回	テーマ(何を学ぶか):労働契約の成立と採用内定 内　容:労働契約、労使の自主的規範、労働契約の成立 教科書・指定図書　教科書20～24、34～35ページ

第4回	テーマ(何を学ぶか):採用の自由と試用期間 内　容:採用の自由、労働条件の明示、試用期間 教科書・指定図書　教科書46～59ページ
第5回	テーマ(何を学ぶか):試用期間と採用内定の法的位置づけ(主要判例の検討) 内　容:三菱樹脂事件、大日本印刷事件 教科書・指定図書　教科書46～59ページ
第6回	テーマ(何を学ぶか):労働契約の基本原理 内　容:労働契約の基本原理、平等原則、男女間の賃金差別の態様 教科書・指定図書　教科書8～9、132～141ページ
第7回	テーマ(何を学ぶか):男女平等法理の展開と男女雇用機会均等法の成立 内　容:同一労働同一賃金、男女平等法理、男女雇用機会均等法の成立 教科書・指定図書　教科書135～148ページ
第8回	テーマ(何を学ぶか):職場におけるセクハラと就業規則に関する規制 内　容:小テスト(1回目)実施予定、職場におけるセクハラ、就業規則の作成・変更、就業規則による労働契約の内容 教科書・指定図書　教科書34～39、139～140、35～37ページ
第9回	テーマ(何を学ぶか):就業規則の不利益変更 内　容:就業規則の法的性質、就業規則による労働条件の変更、 「合理性」の判断基準 教科書・指定図書　教科書38～44ページ
第10回	テーマ(何を学ぶか):就業規則の不利益変更(主要判例の検討) 内　容:大曲市農協事件、第四銀行事件、みちのく銀行事件 教科書・指定図書　教科書35～44ページ
第11回	テーマ(何を学ぶか):賃金 内　容:賃金とは、休業手当、最低賃金法 教科書・指定図書　教科書80～96ページ
第12回	テーマ(何を学ぶか):労働時間 内　容:労働時間とは、柔軟な労働時間制度 教科書・指定図書　教科書98～99、107～116ページ
第13回	テーマ(何を学ぶか):裁量労働制と休憩・休日・休暇 内　容:小テスト(第2回)実施予定、裁量労働制、休憩、休日、年次有給休暇 教科書・指定図書　教科書99～116、118～124ページ
第14回	テーマ(何を学ぶか):労働契約の終了 内　容:合意解約・辞職、解雇 教科書・指定図書　教科書166～178ページ
第15回	テーマ(何を学ぶか):まとめと振り返り 内　容:整理解雇をめぐる主要判例、全授業のまとめと振り返り 教科書・指定図書　教科書2～178ページ
試　験	レポート課題の提出(2題)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
税 務 会 計Ⅱ （法人税法）	２単位	選択科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
金 子 輝 雄	**時間:** 研究室入口に表示 **場所:** 513	

〔科目の概要〕

会社（法人）に対する所得課税を規定している法人税法を扱う。法人の所得は、基本的に、企業会計で算定される利益を基礎として計算されるのであるが、税法の目的と企業会計の目的が相違するため、所得と利益は同一ではない。税法は課税の公平性および税収の確保の観点から詳細かつ画一的な定めを行っているのに対して、企業会計は国際会計基準も含めて業績測定は経営者の主張の一つであるとして経理の自由が重んじられ、概略的かつ選択的な規制が行われてきた。例えば、減価償却や引当金などの見積計算項目および交際費、寄付金、役員給与等の自主的支出項目については課税所得の調整および圧縮の手段とならないよう法人税法では特に条文を定めてこれらを規制しているが、企業会計にはこのような視点はない。だからといって所得の計算と利益の計算を別々に行うのは煩雑であるので、現実には両者の異なる部分を会計利益に調整を加えるというやり方で所得の導出が行われている。いうなれば企業会計依拠して法人課税が成り立っているのであり、健全な会計を実践する納税者に対して青色申告という特典が税法には設けられている。他方、節税のために税法で指定された会計処理を行ったり、経営活動自体を意識的にコントロールすることも多々見られるところである。法人所得課税は以上のように正に会計と税法が相互一体となった形で実施されているのであり、このような関係を明らかにしてゆくのが税務会計の目的である。

本講義では以下に示す授業スケジュールにあるように法人税法の体系に沿って、個々の規定の内容を計算問題演習を交えながら解説し、最終的に納付税額の計算が各人でできるようになることを目標としているが、時間の許す限り制度の趣旨・背景および重要判例に言及したいと考えている。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・個人（自然人）だけではく法人も節税を視野に入れた意思決定を行うことが多い。その必要性は言うまでもない。

・損益計算書の末尾に記載される「法人税等」の計算ができなければ財務会計は完結しない。

・日商簿記検定試験2級以上では「税効果会計」が出題範囲となっているが、本講義は根本的な理解に役立つ。

・法人税法能力検定試験２級合格、ファイナンシャル・プランナ（FP）1から3級におけるタックス・プランニング対策。

・税理試験「法人税法」の受験準備（本試験はより高度であるが、概要把握には役立つ）。

・マクロ的な関心のある人は経済学科の「財政学」と関連付けて学ばれるとよい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

全国経理学校協会主催「法人税法能力検定試験」2級合格レベルのマスターを最終目標とする。

〔教科書〕

全国経理教育協会 編『演習法人税法 ＜最新版＞』清文社

〔指定図書〕

企業分析研究会『現代日本の企業分析』新日本出版社 2018 年

〔参考書〕

谷口勢津夫他『基礎から学べる租税法＜最新版＞弘文堂』

〔前提科目〕

会計学基礎論、出来れば財務会計論も履修済みが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・期末試験 (問題のレベルは3級と2級の中間程度を予定)の成績を基本とする。

・他に、レポート課題を課す。

・重要な用語や計算の確認のために、毎回、出席カードを配布する。

〔評価の基準及びスケール〕

「学生便覧」に準拠します。

80点以上はA、70～79 点がB、60～69点がC、50～59点がD、49点以下がF。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

法人税法は複雑・難解といえる。会計とのかかわりが深い税目であることから、会計知識がところどころで要求される。棚卸資産の評価方法や減価償却計算は既知のものとして進めてゆくので、あいまいな人は会計学・財務会計論の復習をする必要がある。まずは、会計損益と税務調整の関係を中心に、税額計算に至るまでの全体の流れを把握していただきたい。また、指定した教科書には、各章末に練習問題が用意されていますので、可能な限り解答を試みていただきたい。

〔実務経歴〕

銀行業及び税理士事務所での実務経験を活かし、複雑化する税制と企業活動の係わりを学び、税務会計及び税法学の理解を深める授業。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内　容: 法人税のあらましと総則(納税義務者と課税所得の範囲) 教科書・指定図書　第1 ・2章
第2回	テーマ(何を学ぶか):所得とは 内　容:法人税法上の所得と会計利益との関係、調整計算 ・ 教科書・指定図書　第3章
第3回	テーマ(何を学ぶか):損益の期間帰属 内　容:収益・費用の計上時期とその特例 教科書・指定図書　第4章
第4回	テーマ(何を学ぶか):棚卸資産 内　容:棚卸資産の範囲、取得原価の決定と期末評価の方法 教科書・指定図書　第5章
第5回	テーマ(何を学ぶか):減価償却(1) 内　容:資本的支出と修繕費、減価償却方法(200%償却法を中心に) 教科書・指定図書　第6章

第6回	テーマ(何を学ぶか):減価償却(2) 内　容:減価償却限度超過額または不足額の調整 教科書・指定図書　第6章
第7回	テーマ(何を学ぶか):繰延資産 内　容:繰延資産の範囲と償却期間 教科書・指定図書　第7章
第8回	テーマ(何を学ぶか):役員給与 内　容:税法上の役員の範囲および過大役員報酬・賞与・退職給与の損金不算入 教科書・指定図書　第8章
第9回	テーマ(何を学ぶか):租税公課と寄付金 内　容:　損金となる税金と損金にならない税金、罰課金の取り扱い 教科書・指定図書　第10・11章
第10回	テーマ(何を学ぶか):寄付金・交際費 内　容:　寄付金・交際費の損金算入限度額と類似費目 教科書・指定図書　第11章
第11回	テーマ(何を学ぶか):貸倒引当金 内　容:貸倒損失の認定と貸倒引当金繰入限度額 教科書・指定図書　第12章
第12回	テーマ(何を学ぶか):圧縮記帳 内　容:国庫補助金、保険差益、交換の圧縮記帳 教科書・指定図書　第13章
第13回	テーマ(何を学ぶか):受取配当等の益金不算入と有価証券課税 内　容:所有株式等の区分と益金不算入割合および有価証券評価損益・譲渡損益の取り扱い 教科書・指定図書　第14・15章
第14回	テーマ(何を学ぶか):欠損金の繰越控除と税効果会計 内　容:欠損金の繰越控除、申告調整と別表四および税効果会計の関連について 教科書・指定図書　第16・17章および追加プリント
第15回	テーマ(何を学ぶか):税額計算と演習問題 内　容:期末試験や検定試験を意識した総合問題演習 教科書・指定図書　第18・23章
定期試験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
非営利組織会計	2 単位	専門科目・展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
池田享誉 Yukitaka Ikeda	**時間:**最初の授業中に通知 **場所:514** 研究室	講義

〔科目の概要〕

平成 10 年に特定非営利活動促進法が施行されたことで、非営利組織に対して、以前にも増して広範な社会的役割が期待されるようになった。

ただし、ひとくちに非営利組織といっても、その範囲は、公益法人、中間法人（協同組合等）、権利能力無き社団・財団（学術団体や町内会等）、さらには冒頭の特定非営利活動法人という組織にまで及んでおり、統一的な会計（会計基準）が完備しているわけではない。

本講義では、まず営利組織（企業）との比較において非営利組織会計に特有の諸性質を明らかにし、その上で、いくつかの具体的な非営利組織の会計を概観していく。

さらに、米国の非営利組織会計について取り上げ、利益獲得を組織目的とはしない非営利組織が、財務報告において提供すべき情報は如何なる情報かを考えることにより、今後のわが国の非営利会計の発展の方向を考えてもらう。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

大学カリキュラムにおける会計・財務分野は、主として企業（営利組織）を対象とした科目群から構成されている。しかしながら、社会は、非営利組織などの多様な経済主体によって構成されている。

近年、非営利組織の会計に企業会計的手法を導入することにより、非営利組織活動の効率化を図ろうとする動きが活発になっており、学生の皆さんがこれまでに学んだ企業会計の知識を生かせる環境が整いつつある。企業会計の知識を有する皆さんが、本科目で非営利組織の会計についても学ぶことにより、将来、社会で働く際に非営利組織の会計に携わるという選択肢が増えることにつながる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

利益の獲得という共通の組織目的を有する営利組織（企業）とは異なり、非営利組織の目的や使命は、非営利組織の数だけあるといっても過言ではない。

本講義の目標は、利益獲得を組織目的とする営利組織の会計(企業会計)と多様な組織目的を有する非営利組織の会計との、類似点と相違点を明確にし、非営利組織の会計の特殊性を理解するとともに、非営利組織の会計が担う社会的責任についての理解を深めることである。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生の皆さんからの意見としては、「説明がわかりやすい」、「いろんな資料を添付してくれるので理解が深まる」等の肯定的意見を多くもらえ、とてもうれしく思っています。

改善すべき点としては、「一時間ずっと話を聞いているだけのことがあり、少し飽きる」等の意見をもらいました。この科目は私が担当するほかの簿記科目と異なり、覚えてできるようにすることではなく、学生自身に考えてもらうことが目的なので、さまざまな考え方とその根拠を伝え、皆さん自身に考えてもらっています。ですので、ただ話を聞いているだけではなく、ぜひ考えてください。

今年度も、学生の皆さんのためになる内容を心がけていきたいと思っています。

〔教科書〕
なし

〔指定図書〕
『体系 現代会計学［第9巻］ 政府と非営利組織の会計』中央経済社
池田享誉『非営利組織会計概念形成論』森山書店

〔参考書〕
授業の中で適宜紹介する。

〔前提科目〕
会計学基礎論、財務会計論、管理会計論

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

期末テストにより評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

F＜50 点　50 点≦ D＜60 点　60 点≦ C＜70 点　70 点≦ B＜80 点　80 点≦ A≦ 100 点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本科目は、理論科目なので簿記の計算は扱わないが、理論を理解するために簿記の知識は必要となる。したがって、履修学生への要望としては、まず、「会計学基礎論」で学んだ簿記の計算構造を十分理解していることが求められる。
さらに、営利組織(企業)会計との対比により説明することが多いので、「財務会計論」および「管理会計論」の講義で学んだ企業会計理論を理解していることも履修学生には求められる。
教員としてこの授業に取り組む姿勢としては、企業会計とは異なる非営利組織会計の特殊性を理解してもらうために、できるだけ具体的な事例を用いて説明する。そのうえで、現行基準の理解にとどまらず、問題点についても考える力を身につけてもらいたい。本講義では、企業会計基準および理論を理解していることを前提として講義を進めるので、企業会計基準および理論の理解に不安のあるものはオフィスアワーを利用して相談に来てください。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール

第１回	テーマ：イントロダクション： 内　容：非営利組織とは何か
第２回	テーマ：非営利組織の特徴 内　容：営利組織との類似点と相違点①

第３回	テーマ：非営利組織の特徴 内　容：営利組織との類似点と相違点②
第４回	テーマ：非営利組織会計の特殊性 内　容：営利組織の会計との類似点と相違点①
第５回	テーマ：非営利組織会計の特殊性 内　容：営利組織の会計との類似点と相違点②
第６回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内　容：　昭和 60 年公益法人会計基準
第７回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内　容：　平成 10 年 NPO 法人会計
第８回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内　容：　平成 12 年社会福祉法人会計基準
第９回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内　容：　平成 13 年宗教法人会計
第 10 回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内　容：　平成 16 年公益法人会計基準
第 11 回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内　容：　平成 20 年公益法人会計基準
第 12 回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内　容：　平成 22 年 NPO 法人会計基準
第 13 回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内　容：米国における非営利組織会計
第 14 回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内　容：国立大学法人会計基準
第 15 回	テーマ：　わが国非営利組織会計の将来像 内　容：国立大学法人会計基準
定期試験	筆記試験

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
職業指導	4 単位	教職科目（教科必修） 経営学科（選択）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
内 海　隆 Uchiumi Takashi	**時間：**後日指定 **場所：**504研究室	講義

〔科目の概要〕

本科目は、高等学校商業科の教員免許状取得の必須科目であることを踏まえながら、個人が職業を選択する過程において、学校で行われる職業指導（近年は「進路指導」として取り扱われていることが多い）がどのような意義をもち、どのように機能しているのか。また、実際の場面においてはどのような指導が行われているのかなど、教員免許状の対象である高等学校の教育段階に限定しないで、職業指導・進路指導についての基本的な理論・考え方をキャリア教育と関連させて講義を進めていく。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

教職の専門科目である「進路指導の理論と方法」と、内容的に重複する部分があるが、教科としての職業指導の経緯などを理解することになるので、結果として進路指導やキャリア・ガイダンス等についての理論の習得につながる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

本科目では、職業指導・進路指導をどう捉え、どう理解するかを第一のねらいにおいている。
講義では、「キャリア教育（論）の」登場の経緯などにも触れるので、講義全体を通じて、望ましい就労観、職業観、社会人の基礎力にも通ずる自己のライフ・デザインの確立と自他との「交流（リレーション）」する力を身につけることを目標においている。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

経営学科の専門科目ではあるが、商業の免許状を取得する際の必須科目である。教職課程の教科に関する科目としてはボリュームのある４単位（30 時間）であるにもかかわらず、教職課程履修者以外の受講した学生も多いので、好評であるグループワークや発表なども積極的に導入した講義の展開を予定している。また、授業回数が多いので、節目で「まとめ」と確認を行う授業法も採用する。

〔教科書〕

使用しない。

〔指定図書〕

特に指定しない。

〔参考書〕

寺田　盛紀『日本の職業教育』晃洋書房
石岡　学『「教育」としての職業指導の成立』勁草書房

〔前提科目〕

教職課程の履修科目である「進路指導の理論と方法」のほか「キャリア形成論」など。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

グループワーク、エクササイズをはじめとする授業への参加姿勢および課題レポート等の提出（2回）で6割、ライフ・デザイン力をみる「ライフ・ダイヤグラム」の作成・提出（4割）によって総合的に評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

A:100～80点
B:　79～70点
C:　69～60点
D:　59～50点
F:　49～　0点

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

授業に必要な資料プリントは随時配布する。通常の講義形式の授業形態のほかにグループでのワークショップなども採用する予定なので、教職課程を履修していない学生一人一人の積極的な参加が望まれる。

なお、欠席した場合には、資料等の配付が限定されることもあるので、事前はもとより、事後でも理由等も含めて報告することと必要な提出物は期限を守ることを求める、

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか)： オリエンテーション 内　容： 科目「職業指導」の概要、講義スケジュール、評価についてほか ユネスコの「学習権宣言」、キャリア教育としての職業指導のねらいと定義 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか)： 職業指導と進路指導について 内　容： 職業指導とは 進路指導とは 教科書・指定図書　配布プリント
第3回	テーマ(何を学ぶか)： 職業指導と進路指導の歴史 内　容： 職業指導、進路指導の歴史的変遷、 教科書・指定図書　配布プリント
第4回	テーマ(何を学ぶか)： 高等学校における職業指導 内　容： 就業を考える、労働の概念、勤労観・職業観 教科書・指定図書　配布プリント
第5回	テーマ(何を学ぶか)： 生活・生産技術の教育 内　容： 「生活、生産と教育」の結合と体系 日本の学校制度と「専門高校」の誕生と役割 教科書・指定図書　配布プリント
第6回	テーマ(何を学ぶか)： 自己理解と表現力の向上エクササイズ 内　容： 自己理解と分析(自分を知る。自分をつくる・育てる。自分を伝える。)、自尊感情を高める 表現力の向上 教科書・指定図書　配布プリント
第7回	テーマ(何を学ぶか)： キャリア教育への接近 内　容： マーランド(アメリカ)長官の「キャリア教育宣言」 キャリア教育のカリキュラム・マネジメント 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか)：海外での職業教育とキャリア教育 内　容： アメリカ、ドイツと日本の教育の違い ＊DVD 鑑賞 教科書・指定図書　配布プリント
第9回	テーマ(何を学ぶか)： キャリア発達理論(Ⅰ) 内　容： ハヴィガーストの発達理論 エリクソンのライフサイクル論 教科書・指定図書　配布プリント
第10回	テーマ(何を学ぶか)： キャリア発達理論(Ⅱ) 内　容： ギンズバーグの発達理論 スーパーの発達理論 教科書・指定図書　配布プリント
第11回	テーマ(何を学ぶか)： キャリア発達研究 内　容： エド・ シャインの理論とキャリア・アンカー 教科書・指定図書　配布プリント

第12回	テーマ(何を学ぶか)： 対人関係エクササイズ 内　容： ニクラス・ルーマンに学ぶ対人関係 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか)： 日本のキャリア教育 内　容： 小・中・高校のキャリア教育の連携 中央教育審議会答申とキャリア教育への期待 教科書・指定図書 配布プリント
第14回	テーマ(何を学ぶか)： キャリア教育計画と運営 内　　容： キャリア教育計画のキーワード キャリア教育計画と評価 教科書・指定図書 配布プリント
第15回	テーマ(何を学ぶか)： 職業、進路指導に関するレポートを読む 内　容： 労働政策研究・研修機構のレポートを読む （レポート提出① ） ＊「職」の世界と「役」の世界 教科書・指定図書 プリント配布
第16回	テーマ(何を学ぶか)： 職業、進路指導と適性 内　容： 職業発達概念 ホランドの職業的パーソナリティ理論 教科書・指定図書 配布プリント
第17回	テーマ(何を学ぶか)： 体験学習論 内　容： ジョブ・シャドウイングの実践と課題 インターンシップの実践と課題 教科書・指定図書 配布プリント
第18回	テーマ(何を学ぶか)： 各種適性検査 内　容： 職業レディネステスト、SPI、YG 検査ほか 教科書・指定図書 配布プリント
第19回	テーマ(何を学ぶか)： 職業適性エクササイズ 内　容： ホランドの六角形、OHBY カードほか 教科書・指定図書 OBHY カード・解説書
第20回	テーマ(何を学ぶか)： キャリア・カウンセリングからキャリア・コンサルティングへ 内　容： キャリア・カウンセリング(CC)とキャリア・アドバイザー(CA) キャリア・コンサルティングを支える理論 教科書・指定図書 配布プリント
第21回	テーマ(何を学ぶか)： キャリア・エクササイズの理論と方法 内　容： キャリア・コンサルテーションの模擬練習(レポート提出②) 教科書・指定図書 資料配付・説明
第22回	テーマ(何を学ぶか)： 現代の就業問題の周辺 内　容： フリーター、ニート、国内企業の取組(メセナ) インクルーシブ社会と雇用 教科書・指定図書 配布プリント
第23回	テーマ(何を学ぶか)： 大学生の「就業力」と「新社会人基礎力」 内　容： 大学でのキャリア教育、キャリア大学アワード 人生 100 年時代の「新社会人基礎力」(経済産業省) 教科書・指定図書 配布プリント
第24回	テーマ(何を学ぶか)： 企業(社会)に有用な人材育成とコンピテンシー 内　容： マクレガーの「X・Y」理論、青公大 OB・OG 達の「自立した社会人」観 オリエンタルランドの「人財育成」ポリシー ヒューマン・コンピタンス 教科書・指定図書 配布プリント

第25回	テーマ(何を学ぶか): 組織文化論 内　容: コンティンジェンシー理論 日本的経営と集団主義 教科書・指定図書 配布プリント
第26回	テーマ(何を学ぶか): 人間関係と職場環境 内　容: 対人関係 リーダーシップ論 教科書・指定図書 配布プリント
第27回	テーマ(何を学ぶか): 雇用と労働に関する法制 内　容: 雇用と労働 男女共同参画社会と雇用均等法、ジェンダーバイアスほか 教科書・指定図書
第28回	テーマ(何を学ぶか): ライフ・デザインとライフ・ダイヤグラム 内　容: ライフ・デザイン論 ライフ・ダイヤグラム(人生の運行表)・・・課題提出③ 教科書・指定図書 配布プリント
第29回	テーマ(何を学ぶか) :諸外国における就業問題 内　容: アメリカ、イギリス、ドイツ、中国のキャリア教育と就業問題 教科書・指定図書 配布プリント
第30回	テーマ(何を学ぶか): 職業・進路指導の総括 内　容: キャリア教育の3つの分野、段階別職業指導法、規範意識、職業倫理の理解と高揚 職業指導に関する頻出用語 教科書・指定図書 配布プリント
試 験	期末試験は実施しない。課題「ライフ・ダイヤグラム」ほか提出物(3回)

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
経営特殊講義Ⅱ（会計史）		2 単位	
〔担当者〕 山下 修平 Yamashita Shuhei	〔オフィス・アワー〕 **時間：**講義開始前後のほか、メール対応 **場所：**講義室など		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

本講義は、会計の歴史の概要を理解することを目的とします。

具体的には、会計の起源や複式簿記の誕生から始めて、ヨーロッパにおける複式簿記の伝播や、株式会社会計の起源と発展等を扱い、現代における会計のグローバル化までを解説します。また、後半の 6 回程度を割いて、日本における会計史を解説します。

時代の変化とともに、誰かに「説明する」行為や、「記録と管理」の内容は変遷していきました。会計を取り巻く環境の変化により、会計は発展してきました。本講義では、会計が誰に何を求められてきたかを考えます。歴史を学ぶことにより、今起きている事象や、今後の世界情勢の変化への対応に、応用して欲しいと願っています。

現代の会計トピックに関連させながら、講義を進める予定です。会計の歴史を学ぶことにより、今日の会計に関する諸問題を考えていきましょう。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

・他の科目との関連付け

会計に関する科目：「会計学基礎論」「財務会計論」「管理会計論」「監査論」など。

会計史は、会計の歴史ではありますが、その背景にある経済事象の歴史、企業の歴史、経営の歴史にも強く関連します。幅広く視野を持ちながら学んで欲しいと思います。

・学ぶ必要性と意義

会計史研究は、文字通り、会計研究と歴史研究の境界に位置する学問です。歴史を学ぶ意義を説明するのは容易ではありませんが、実験室での完全再現が不可能な社会科学では、歴史に学び、現状を分析し、未来を予測することは大切な作業です。本講義では、会計を対象として歴史を学び、現在の会計の問題を見つめたいと思います。

おそらく、会計史を学ぶことが、すぐに会計実務に生かされることや、就職活動を有利に進めること、お金を稼ぐことに結びつくことはありません（残念ながら）。しかし、経営経済学部に在籍する学生の「教養」として学んでほしいと願っています。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

（中間目標）

会計の歴史の概要を理解することを目標とします。

（最終目標）

会計がどのように発達してきたのかを歴史的に学ぶことにより、現代の会計がどのように成立したのかを理解します。

加えて、現代の会計に係る諸問題をより深く理解することを目標としています。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

これまでの授業において、「会計」「簿記」に苦手意識を持つ受講生が多くいました。そのため、「簿記を苦手にしている学生にとってわかりやすい講義」を心がけてきました。必要な会計の知識は、復習をしながら講義を進めています。この点はおおむね好評でしたので、今年度も同じ方針で臨みます。会計や簿記を苦手としている学生の受講を歓迎します。板書のスピード、または、レジュメ配布の頻度など、授業の進め方について様々なコメントを頂戴しております。履修者の皆さんの声に耳を傾けながら、バランスよく講義を進めたいと思います。

〔教科書〕

教科書は指定しません。教員が作成したスライドやプリント、板書を用いて講義を行います。

〔指定図書〕
特に指定しません。

〔参考書〕
千葉準一・中野常男編著『会計と会計学の歴史(体系現代会計学第8巻)』中央経済社、2012年。
渡邉泉著『会計の歴史探訪― 過去から未来へのメッセージ―』同文舘出版、2014年。
遠藤博志・小宮山賢・逆瀬重郎・多賀谷充・橋本尚編著『戦後企業会計史』中央経済社、2015年。
友岡賛著『会計の歴史』税務計理協会、2016年。
上野清貴編著『日本簿記学説の歴史探訪』創成社、2019年。
中野常男・清水泰洋編著『近代会計史入門 第2版』同文舘出版、2019年。
野口昌良・清水泰洋・中村恒彦・本間正人・北浦貴士編『会計のヒストリー80』中央経済社、2020年。
このほか、講義中に適宜紹介します。

〔前提科目〕
特にありません。ただし、「会計学基礎論」「財務会計論」「管理会計論」「監査論」などの会計学に関する科目を履修していると、より理解が深まると思います。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

期末試験を行います。
講義毎に課題(小テスト・小レポート・リアクションペーパー等)を課します。
＜点数の配分＞
期末試験(まとめの試験) ： 40点(40%)
講義毎の課題 ： 4点×15回=60点(60%)

〔評価の基準及びスケール〕

・80点以上 ： 評価A　・70点以上80点未満 ： 評価B　・60点以上70点:評価C
・50点以上60点未満 ： 評価D　・50点未満 ： 評価F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・会計や簿記を得意とする学生だけでなく、苦手としている学生の受講を歓迎します。
・前提となる会計学や簿記の知識に触れながら講義を進めますが、復習しておくと望ましいです。
・該当する時期の世界史や日本史を復習しておくと望ましいです。
・受講者の積極的な発言(質問・意見)を期待します。
・現代における会計諸問題と結びつけながら、講義に臨んでください。

〔実務経歴〕
該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか)： 会計史とは 内　容: 講義全体の概要を説明します。会計史を学ぶ意義についてお話します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第2回	テーマ(何を学ぶか):会計の起源と複式簿記 内　容:古代における会計の起源と、イタリアで誕生した複式簿記について解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第3回	テーマ(何を学ぶか):ヨーロッパにおける複式簿記の伝播 内　容:ヨーロッパ(イタリア～オランダ～イギリス)において伝播した複式簿記の歴史的背景を解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。

第4回	テーマ(何を学ぶか):株式会社の誕生と会計 内　容:株式会社の誕生が会計の発展に与えた影響について解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第5回	テーマ(何を学ぶか):固定資産会計の生成 内　容:固定資産会計、とくに減価償却の考え方や、その生成と発展について解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第6回	テーマ(何を学ぶか):財務諸表の生成と発展 内　容:貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書などの財務諸表の生成と発展について解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第7回	テーマ(何を学ぶか):管理会計の生成と発展 内　容:工業化に伴って生成・発展した管理会計について解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第8回	テーマ(何を学ぶか):株式会社と監査 内　容:監査の起源と発達、そして、会計プロフェッションの誕生について解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第9回	テーマ(何を学ぶか):日本会計史　日本の伝統簿記と西洋簿記の導入 内　容:江戸時代における日本の伝統簿記を紹介し、明治維新後の西洋簿記の導入を解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第10回	テーマ(何を学ぶか):日本会計史　明治時代 内　容:西洋簿記の伝播、減価償却の導入などについて解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第11回	テーマ(何を学ぶか):日本会計史　明治時代～昭和初期 内　容:商法制定の影響、戦前の監査、会計プロフェッションの誕生について解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第12回	テーマ(何を学ぶか):日本会計史　戦時期 内　容:統制経済期における会社経理統制の展開について解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第13回	テーマ(何を学ぶか):日本会計史　戦後日本の企業会計体制 内　容:企業会計原則の制定、証券取引法の制定、公認会計士による監査制度の導入などについて解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第14回	テーマ(何を学ぶか):日本会計史　公認会計士法と監査法人制度の変遷 内　容:戦後日本における公認会計士法と監査法人制度の変遷について解説します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第15回	テーマ(何を学ぶか):会計ビッグバン、会計のグローバル化、そして今後の展望 内　容:会計ビッグバンの時代背景と会計制度の特徴について解説します。また国際会計基準の整備と、世界各国や日本の動向を解説します。そして今後の展望を検討します。 教科書・指定図書はありません。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
試　験	期末試験(まとめの試験)を実施します。 講義のプリント資料や、ノートの持ち込みは可(ノートは自筆のみ)。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
グローバル経営論	2 単位	専門科目 基幹科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
金﨑　賢希 Kanezaki, Masaki	**時間:** 集中講義のため講義前後の休み時間 **場所:** 講義教室ないし講師控室	講義

〔科目の概要〕

1980 年代以降、運輸・通信技術の発達および貿易投資環境の改善により、市場と生産のグローバル化が急速に進み、企業経営に大きな「機会」を（売上増大、コスト削減、イノベーションの面で）もたらしてきました。

日本企業もこの機会をとらえようと、海外事業を拡大させてきました。1990 年から 2010 年までの間に、日本企業の海外現地法人数は約 8000 社から約 2 万社に、同じく従業員数は約 150 万人から約 500 万人に、同じく売上高は約 70 兆円から約 200 兆円に増えました。

今後も海外事業を強化したいと考える企業は多く、事業活動全体に占める海外の比重はますます高まっていくでしょう。しかし、一方で、外国企業との競争や国際ビジネス特有の難しさから、思うように収益を向上できない企業も数多く存在します。そこで、本講義では、主に日本企業が弱いとされる国際市場におけるマーケティングに焦点を当てます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

近年、海外赴任をしたくない若手社員が増えています。新入社員を対象にしたあるアンケート調査によれば、海外赴任したくない若手社員の割合は 60%近くに達します。企業活動の国際化が進んでいるにもかかわらず、日本の若者は内向き志向になっています。グローバル化の波に乗り遅れないよう、本講義を通じて海外に関心を向け、活躍の場を広げていってください。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

- グローバル化の意味とそれが企業経営にもたらす機会と脅威
- 国ごとに異なる事業環境の違いを活かし、企業の利益につなげるマーケティング戦略
- グローバル・マーケティング戦略を実行する組織
- 研究開発、生産、ロジスティクス、人的資源管理、などに及ぼす影響

について、理解を深めることを目標とします。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

実際に企業がどのようにグローバル市場を開拓しようとしているのか、出来るだけ平易に、かつ学生にとって身近な問題となるように、日本企業やその他の国々の企業の取り組みを紹介していきます。

〔教科書〕

なし。教材は教員配布の資料を用います。

〔指定図書〕

① 小田部正明他『国際マーケティング』 碩学舎、2010 年。
② イアン・アーロン&ユージン・D・ジャッフ『グローバル戦略市場経営』 千倉書房、2016 年。
③ 大石芳裕『実践的グローバル・マーケティング』ミネルヴァ書房、2017 年。
④ チャールズ・W・ヒル『国際ビジネス』(1 巻～3 巻)楽工社、2013～14 年。
⑤ 小田部正明他『1からのグローバル・マーケティング』 碩学舎、2017 年。

〔参考書〕

講義時に指示します。

〔前提科目〕

なし。経営戦略論、マーケティング論の単位を取得していることが望ましい。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

講義終了後のレポートと講義時における提出物をもとに評価を行います。

- 講義終了後のレポートについて（40%）
- 授業内提出物ついて（60%）

・授業への出席・参加・理解度を見るためのものです。
・内容は授業の応用問題です。
・1 回につき、15点で点数をつけます。出席・提出しただけでは点数になりません。内容で判断します。
・回数は4回程度を予定しています。

〔評価の基準及びスケール〕
提出物・期末テスト・授業への貢献度の合計点によって、成績評価を行います。
A:100～80、B:79～70、C:69～60、D:59～50、F:49～ 0

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
企業活動のグローバル化は、一部の企業や人のものではありません。青森県が得意としている農林水産業、観光などに携わる人も海外市場に深くかかわるようになっています。学んだことを活かして、卒業後に社会で活躍してください。なお、スマートフォンの操作など、講義に関係のないことをしている学生には退出していただきます。

〔実務経歴〕

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): グローバル化する世界と企業の経営課題 内　容: グローバル化が企業経営にもたらす機会と脅威、国際経営特有の課題について 教科書・指定図書: 配布資料他、講義時に指示します(以下、同じ)
第2回	テーマ(何を学ぶか):グローバル・マーケティングとは 内　容:グローバル市場におけるマーケティングの事例について 教科書・指定図書:
第3回	テーマ(何を学ぶか):グローバル市場の把握(1) 内　容:国による社会文化の違いについて 教科書・指定図書:
第4回	テーマ(何を学ぶか):グローバル市場の把握(2) 内　容:国による政治経済環境の違いについて 教科書・指定図書:
第5回	テーマ(何を学ぶか): グローバル市場の把握(3) 内　容: グローバル市場における市場調査について 教科書・指定図書:
第6回	テーマ(何を学ぶか):グローバル市場の把握(4) 内　容: グローバル市場におけるセグメンテーションについて 教科書・指定図書:
第7回	テーマ(何を学ぶか):グローバル市場の攻略(1) 内　容:グローバル・マーケティングの基本戦略について 教科書・指定図書:
第8回	テーマ(何を学ぶか):グローバル市場の攻略(2) 内　容:グローバル市場への参入方法について 教科書・指定図書:
第9回	テーマ(何を学ぶか):グローバル市場の攻略(3) 内　容:グローバル市場における製品開発について 教科書・指定図書:
第10回	テーマ(何を学ぶか): グローバル市場の攻略(4) 内　容:グローバル市場におけるブランドについて 教科書・指定図書:
第11回	テーマ(何を学ぶか):グローバル市場の攻略(5) 内　容:グローバル市場における価格について 教科書・指定図書:

第12回	テーマ(何を学ぶか)： グローバル市場の攻略(6) 内　容:グローバル市場における流通、ロジスティックスについて 教科書・指定図書:
第13回	テーマ(何を学ぶか)： グローバル市場の攻略(7) 内　容:グローバル市場におけるコミュニケーションについて 教科書・指定図書:
第14回	テーマ(何を学ぶか)： グローバル・マーケティングの実行 内　容: グローバル・マーケティング戦略を実行する組織について 教科書・指定図書:
第15回	テーマ(何を学ぶか)：これまでのまとめ 内　容:これまでのまとめ 教科書・指定図書:
試 験	レポートの提出をもって試験に代えます。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
財務戦略	2 単位	経営学科の展開科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
Takahiko　Ochiai 落合　孝彦	**時間：第１回の授業でお伝えします。** **場所：第１回の授業でお伝えします。**	講義形式

〔科目の概要〕

現代の上場企業は、その目的を企業価値（業績）の向上に置いていますが、それを達成するためには、「環境との関わりの中、持続的成長を達成する上で必要な競争優位性を確立するための指針」である経営戦略が重要な意味を持ちます。この経営戦略は① 全社レベル、② 事業レベル、③ 職能レベルの 3 つのレベルで議論されますが、「財務戦略」は③ に区分される職能戦略となります。

財務戦略において重視されるのは「資金（資本）の調達」、「調達資金（資本）の運用」、「剰余金の分配」機能です。個別事業の性質・規模・リスクに応じて、あるいは企業経営全体の最適化を考慮して資金（資本）調達方法を選択することは、財務リスクのコントロールを通じた総リスク（事業リスク＋財務リスク）低減によって、企業価値の向上に貢献します。

かかる観点から調達された資金（資本）の運用を通して獲得された利益やキャッシュが企業価値に影響を及ぼすことから、運用（投資）は調達以上に重要な財務問題となります。よって運用、即ち投資の実施に当たっては、株主や債権者の期待収益率を超える利益率が達成されるかについての事前の検討が必要となります。「財務」がなぜ「戦略」と関わるのかと問われれば、投資の意思決定に関与するからだ、というのが「答え」になるでしょう。

以上の説明からわかるように、本科目は「戦略目標を達成する上で、財務職能に期待される役割・手法について説明する科目」となります。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本科目は、経営学科における経営学の専門・展開科目（選択科目）です。よって「経営戦略論」の展開と位置付けることもできますが、扱う内容が「財務」であることから、「財務管理論」、「財務分析Ⅰ」、「財務分析Ⅱ」といった「会計・財務関連科目の展開」という性格を色濃く持っています。

授業内容がダイレクトに「資格・検定等の取得に結びつく」ものではありませんが、財務分析や財務管理における学習内容の復習・確認といった側面もありますので、「中小企業診断士」や「ビジネス会計検定」等の試験に関わりのある内容となっています。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

- 中間目標
  近年生じた企業経営に係わる環境の変化を、財務の観点から把握する。
  財務指標の意味を理解した上で、その計算方法に習熟する。
  収益性指標と企業価値の関連を適切に捉える。
  経営戦略および経営計画の策定が企業価値に与える影響について、ケースに基づき理解する。
- 最終目標
  企業の資金調達手法、その多様性について理解する。
  事業リスクと財務リスクの低減方法について理解する
  M&A を財務戦略の観点から捉えなおし、その効果について理解する。
  近年、配当政策が重視されるようになった背景について理解する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

「授業評価アンケート」では、例年、次にあげる問題点が指摘されています。

「話すのがはやい」／「授業のペース・進度がはやい」／「配布資料の誤記」。

以上の指摘すべてを完全に解消することは困難ですが、今後もこれらの解消に努めます。

〔教科書〕

使用しません（なお、参考書欄の「① の書籍」をお持ちの方は、授業の際に活用してください。）。

〔指定図書〕

指定しません。

〔参考書〕

① 境睦・落合孝彦[2019]『グラフィック経営財務』新世社。

② 坂本恒夫・鳥居陽介編著、現代財務管理論研究会著[2015]『テキスト財務管理論』第5版、中央経済社。

〔前提科目〕

「財務分析Ⅰ」、「財務管理論」

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

● 「課題研究」の提出2回

① 第1の課題研究は成績評価に加算(40点満点)。テーマは次の2つから選択すること
「事業リスクと財務リスク」 ／ 「近年のM&Aの状況について」

② 第2の課題研究は第15回授業の代替。テーマ「わが国の株式所有構造の変化が企業財務にもたらした影響」。

● 授業中、理解度を確認するために課題を示しますので、それを提出してもらいます(10点)。
(当該課題の内容については第1回の授業にて説明します。)

● 第14回の授業で「理解度確認テスト」を実施します(50点満点)。

〔評価の基準及びスケール〕

● 100点満点で評価します。

80点以上 : 評価A
80点未満 ～ 70点以上 : 評価B
70点未満 ～ 60点以上 : 評価C
60点未満 ～ 50点以上 : 評価D
50点未満 : 評価F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

● 講義中の食事は認めません。

● 授業進行を妨害する行為は厳に慎んでください。教員から注意を受けてもそれを聞き入れず、指摘を受けた行為に改善が認められない場合は、「試験・レポート等の評価に関係なく成績をFとする」こともありえます。

● 諸般の事情、とりわけ新型コロナウイルス蔓延防止の影響により、シラバスのスケジュールどおりに授業が進行しない、あるいは、一部の授業内容を変更することもありえます。ご了承ください。

〔実務経歴〕

該当なし。

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 経営環境の変化と企業財務 内 容:株式所有構造の変化 参考書② 第7講
第2回	テーマ(何を学ぶか):経営戦略・経営計画・財務計画 内 容:マネジメントサイクル、ドメイン、成長戦略、、競争戦略、職能(機能)戦略、財務計画 参考書① 第1章、
第3回	テーマ(何を学ぶか):利益計画と収益性分析 内 容:ROA、デュポンシステム、ROE(3指標分解と2指標分解)、ROEとPBRの関係 参考書① 第2章
第4回	テーマ(何を学ぶか):利益計画と採算性分析 内 容:損益分岐点分析、営業レバレッジ度、財務レバレッジ度 参考書:対応箇所無し

第5回	テーマ(何を学ぶか): 利益管理とEVA 内　容:会計的利益と経済的利益の違い、EVAスプレッド、EVA使用上の留意点 参考書:対応箇所なし
第6回	テーマ(何を学ぶか):安全性(安定性)の分析 内　容:B/Sに基づく短期・長期の支払い安全性分析、CF分析との関連について 参考書① 第3章
第7回	テーマ(何を学ぶか):事例研究 内　容: 参考書:対応箇所なし
第8回	テーマ(何を学ぶか):事業計画と資金調達(1) 内　容:借入金、社債発行による資金調達 参考書:対応箇所無し
第9回	テーマ(何を学ぶか):事業計画と資金調達(2) 内　容:株式の発行による資金調達 参考書:対応箇所無し
第10回	テーマ(何を学ぶか):事業リスクと財務リスク 内　容:事業リスクの意味と測定方法、財務リスクの意味と測定方法 対応箇所無し
第11回	テーマ(何を学ぶか):配当政策 内　容:配当支払いの歴史、配当水準の決定要因 参考書① 第10章
第12回	テーマ(何を学ぶか):環境変化への適応(1) 内　容:資産証券化 参考書② 第26講
第13回	テーマ(何を学ぶか):環境変化への適応(2) 内　容:経営戦略としてのM&A 参考書② 第29講
第14回	テーマ(何を学ぶか):学習内容の確認 内　容:学習内容の確認と「理解度確認テスト」の実施 参考書・対応箇所無し
第15回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:「課題研究」の提出にて代替する([学修の課題・評価の方法]を参照。)。 参考書:対応箇所なし
試　験	詳細については第1回の授業で説明する。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
開発経済学＝貧困（束縛）からの自由を求めて ＝「共創空間」で貧しき経済人の生き方を問い直す旅＝	2単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔E-mail〕
大場裕之 Oba Hiroyuki	時間：集中講義中、いつでもOK 場所：教室、教員控室	hooba@reitaku-u.ac.jp

〔科目の概要〕

- この科目では、開発経済学（近代経済学）が前提とする人間観（合理的経済人）を示した上で、「共創」の視点から、その人間観、特に貧しき経済人の生き方（way of life, lifestyle）を問題とし、新たな判断軸（共創マインド）を身に着けることを狙いとする。
- この目的のために、ビデオ教材を用いて、日本や世界を共に旅をしながら、旅先の貧しき経済人（経済的に豊かな人も含む）の生き方について、共創技法（共創空間開発、略称 CSD）によって、「問い（問題）」や様々な「答え」を発見すると同時に、彼らを「鏡」として日本人や自分の生き方を問い直す。
- 旅先としては、日本（青森県）や、成長著しい南アジア（インド・ブータン）とする。「自由」、「豊かさ」、「幸福」、「健康」、「飢え渇き」、「日本化」などをキーワードとして、貧しき経済人の生き方を具体的に考える。
- この科目で実践する「共創」の旅を通じて、〝経済人（の合理性）”の魅力と落とし穴に気づき、〝共創人〟として、日々の生き方の質、人生の質を高めるヒントを掴むことが期待されている。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔学んだことは、何に結びつくか〕

・この科目は、経営学や心理学、開発論、モティベーション論、コミュニケーション論、意思決定論、ライフスタイル論などと関連しており、一つの専門分野だけでは、解決できない問題を取り上げる。

・学んだことは何に結びつくのか？

① 「共創マインド」を習得することによって、日々の生き方・生活の質を引き上げ、人生の様々な局面における価値判断や意思決定をする時に役に立つ。

② 「共創マインド」を習得した**人財**として、将来のあらゆる職業（国際機関、国、地方団体、民間企業、NPO機関など）に結びつき、経済開発だけではなく、商品開発、人材開発、地域開発、社会開発、モティベーション開発などのプロフェッショナルとして、また問題発見・問題解決能力を有する＜共創＞エキスパートとして活躍できる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕 4つのポイント

・経済合理性の視点を吟味し、「共創的視点」を持つために、CSD 技法を実践すること。

・「共創空間」でキャッチボールしながら、具体的な問いを発見し、1+1＝2 だけではない答えを探究すること。

・貧しき経済人の考え方・感じ方を CSD 技法によって、具体的かつ客観的に「見える化」し、どこに問題があるのか、共に発見し、その原因と解決策を明らかにするスキル（**価値判断力、問題発見・解決力、コミュニケーション力などコア・ライフ・スキル**）を習得すること。具体的には、聴く耳を持てるようになること、自己表現力を身につけることができること、他者との協働による〝気づき〟が可能となること、プレゼンテーション能力およびリポーティング能力を磨くこと。

・「共創空間」で共有化された問題を考えることにより、学ぶことの意味や意義が明確となり、自分の生き方と向き合うことによって、生きる意欲が生み出され、自らの日々の意思決定や将来設計に役立つ。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 2021/7/1(一部 19 年と20年)

（1）授業評価に関する全体的な印象

授業中の真剣な態度とアンケートの設問(全 11 項目)に対する前向きな回答とがほぼ一致していたので、嬉しい限りです。より達成感のある授業を目指すために、以下の 5 点について、確認し、より明確化し、受講生とともに、共有化したいと思います。

① 問１（授業内容はシラバスと合っているか）について：シラバスはあくまでもガイドライン（昨年度の実績ベース）であり、授業は、キャッチボールしながら学生たちと共に創っていくスタイルなので、シラバス自体が毎年カイゼンされることを了解願いたい。

② 問２（成績評価の基準の明確化）について：最初の授業で明確に基準を提示するので、最初の授業を逃さないように。基本的には、**学習態度と学習成果を評価**する。具体的には、授業で実施する**「共創空間」での貢献度（活動成果）と共創リポートによって評価**する。

③ 問３（質の高い授業内容）について：質の高さは、新しい知見が得られる達成度の高い授業を目指している。あるテーマについての固定観念から解放され多様なる視点を身に着けること、また、ものごとの本質を捉える能力を磨くことに主眼を置いている（後述の学生から提起された改善の提案や要望の項目を参考）。

④　問９（学生の質問・相談への配慮）について：集中講義という性格から、短期間なので、授業中もしくは授業開始前や終了後に相談に乗ります。
⑤　問 10（自習時間）について：集中講義なので、**講義を受講するにあたって予習する課題（事前学習）の時間**と**講義終了後に実施するリポート作成の時間**（見込み）**を「自習時間」**と見做してください。
（この授業を通じて、開発の新たなる意味の発見や、開発経済学の前提となる、いわゆる“合理的経済人”を問い直すことの大切さを参加者全員で体験・共有化することは、大学生活や就職だけではなく、必ず一生の宝となるはずです。）
（２）自由記載欄の学生の意見とそれに対するコメント（⇒の部分）
（優れた点）
・学生の意見を尊重し、学生と共に授業を作り上げていくスタイルが他の授業にないオリジナルかつ面白い授業であると思います。考えることが苦手な私でも集中して興味深く取り込めました。
・常に面白く、ジョークを交えながら、真面目に意見交換のできる質の高い授業を受けることができ、幸せでした。
・ゼミで行っているディスカッションとは違う、ホワイトボードを使った共創マトリックは、とても内容が濃く、新鮮でした。⇒**「共創空間」を創るプロセスの中で、価値観の異なる他者と向き合うこと、そして自分と向き合うことができる。１人１人の自由意思が尊重され、自由を味わうことができる。新たなる価値創造を体験できる。**
・共創マトリックスを使って、様々な意見を聴きながら、いろいろな見方ができる。
・共創マトリックスを使って様々な設問（問いの発見）を考えていくことが非常に楽しかったし、勉強になったこと。問いを見つけたり、考え方を知ったり、自分にとって非常に貴重で有意義な時間を得ることができた。１５回ではなく、３０回の講義でもっと時間をかけて勉強したかったです。
・（ビデオ教材の）映像を見てよりよく知ることができた。自分の価値観が変わった。
・コミュニケーションを大事にしている点。楽しい！
・自分の意見は勿論、他の人の意見をよく知ることができ、自分の知識として蓄積されるという点。
・なぜこの授業が集中講義なのかというくらい、みんなに受けて欲しい授業だなと感じました。
（問題点）
・学生の数が少ないと意見の数も少ないので、もう少し人数が欲しかった。⇒**是非、参加してみてください！！**
（改善の提案や要望）
・（特になし）

以上

（学生に一言アドバイス）
1.　アンケート調査の質問項目の９（オフィスアワー等）については、集中講義という短期間なので、講義時間や休憩時間で質問や相談に応じられるように工夫しているので、評価するときはそこを考慮してください。
2.　また、質問項目の 10（週当たりの自習時間）については、成果リポート（「共創リポート」という名称）を作成する時間も織り込んで自己評価してください。
3.　質問項目の１のシラバスと内容が合っているかという問いについては、これは教員が一方的にボールを投げるという前提となっている。しかし、本講義では、シラバス体も、**「学生と共に創る」という点を評価**しているので、どれだけ教員と学生間でキャッチボールされた内容となるのかを評価してみてください。
（念のために）この講義では、開発経済学の前提そのものを問題（合理的経済人の意識・行動）とする「共創空間開発論」の視点で旅します。講義のはじめに、その理由を学生諸君と共に考えたいと思っています。具体的には、開発経済学の基本的な問題と授業で実施する内容（問題＝「共創空間」開発）との違い・強調点を明確に示し、双方で合意、納得した上で授業をしたいと思います。両者とも、共通しているのが貧困（欠乏）問題ですが、**前者は「経済的貧困」に限定しているのに対し、後者は「経済人の貧困」を問題としている点が大きな違い**です。

〔教科書〕（配布予定）
大場裕之＋ライフスタイル研究会[2013]『「共創空間」で地球を旅しよう～ライフスタイルの再発見～』（Working Paper No.56）麗澤大学経済社会総合研究センター。

〔指定図書〕
・渡辺利夫[2001]『開発経済学入門』東洋経済新報社。
・大場裕之＋「共創空間」開発プロジェクトチーム[2015]『共創空間開発学のすすめ―知のイノベーションの新技法』麗澤大学出版会。

・大場裕之＋ライフスタイル研究会[2015]『"共創空間" を開発することの学問的意義― 「共創空間開発学」の構築を目指して―』(Working Paper No.68) 麗澤大学経済社会総合研究センター。
・大場裕之＋大場ゼミナール[2007]『学問力のすすめ―" 活きた" 学問を楽しむために』麗澤大学出版会。
・田中拓男[2006]『開発論― こころの知性』中央大学出版部。
・我妻和男編著[2005]『光の国・インド再発見』麗澤大学出版会。

〔参考書〕 授業時に必要に応じ提示

〔前提科目〕

なし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

・コースプラン、内容などについての詳細は、授業の開始時に担当の教員から指示される。
・**事前学習として、配布されたテキストを読んで、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどをリポートにすることを課す。**
・授業中にディスカッションのために必要となる基本的知識を習得するためのクイズ形式の課題を毎回行う。
・共創マトリックス手法を活用した全員参加型の授業を行うため、そのための予習・復習が必要となる。
・ディスカッションによって得られた成果やさらなる問題・疑問について、発見メモを作成すること。
・この講義を通じて最も関心を持ったことや役に立ったことについて発表するチャンスを用意する。
・この講義の最後には、５日間を振り返る総括討論を予定している。
・期末試験は実施せず、達成度（学習成果）を評価する「共創」リポートに置き換える。

〔評価の基準及びスケール〕

成績評価は、「共創空間」の体験に基づく、**「共創＝スマイル」評価**に基づいて実施する。「共創」評価は、達成度と社会貢献度という２つの基準によって構成される。評価基準のウェート付けは、各々５０％とする。

その詳細は以下の通り。

１．達成度（60%）
　１）**事前学習リポート（A４サイズ：２～３枚程度）**
　２）出席状況
　３）発見メモの提出（毎日の授業終了時、５回）
　４）「共創」リポート（「共創空間」を活用した授業の成果をまとめたもの）
　　提出期限：**2021 年 09 月 24 日**（予定）

２．社会貢献度（40%）　「社会」とはこの講義に参加した受講者への貢献を指す。
　１）「共創マトリックス（共有化ツール）」（マグネット使用）への参加
　２）ディスカッション（ボールによるキャッチボール）への参加
　３）プレゼン（事前課題プレゼンで始まり、振り返りプレゼンで終わる）

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

・教員としてこの授業に取り込む姿勢

この科目は、開発経済学が前提としている人間モデルを問う新しい試みであるので、現行の学問の専門知識にのめりこまずに、問題を発見すること、関心を持つこと、高めることに主眼を置いている。また、"ラクする楽しみ" ではなく、" 共に創造する楽しみ" を共有すること念頭において取り組む。さらに、「共創空間」というスペースの中をタイムマシーン的飛行機(？)に乗って、現在の地球だけではなく、過去と近未来の地球を飛び回ることによって、学生諸君一人一人の「よい(良い・善い)生活・人生」探しのためのヒントを提供したいと思っている。

・学生への要望

対話形式、キャッチボール(ドッチボールではない)スタイルの講義なので、積極的な学生が望まれる。講義の基本方針に基づき、自由に意見を言える場なので、その主旨を十分理解し、各自が責任をもって参加すること。なお、「共創」リポートの書き方については、授業時に説明する。ただ単に知識を鵜呑みにせずに、絶えず問うことを大切にしてほしい。また、楽(ラク)する楽しみではなく、" 脳ミソに汗をかく" 楽しみ方を是非発見してほしい。

授業スケジュール(受講生のニーズに基づいて一部変更する可能性あり)

ＤＡＹ１ (09/01) **旅立ち** **スマイル** 1～3 講	テーマ1:貧しき経済人を問題とする旅― 開発経済学が前提とする" 経済合理的人間" の貧しさとは？ 内　容: 経済合理的(**損得**で動く)人間に存在する貧しさを吟味する共創への旅にようこそ！ ◎ 学問力のすすめ　気づいたこと、おやっと思ったこと、「問い」を発見する意欲が欠乏している？ この意欲の欠乏こそが、「貧しさ」の正体。従って、意欲だけではなく、様々な欠乏を探す旅となる。 **わたしたちは、経済人ですか(自分を経済人と思ったときある)？　好き・嫌い？**

「共創空間」の中で日本からインドへ旅立つ 束縛からの自由を求める希望の旅	**経済人としての貧しさ(欠乏)： 気づいている、それとも気づいていない？** **⇒貧しき経済人とは、「自分は正しい」として、他者軸の欠乏した自己中心的人間。** **旅立ち：関心のある経済人？ 音楽好きな経済人？？ この経済人の「貧しさ」とは何？？？** ⇒「音楽」が共通ボール。 好きな音楽・嫌いな音楽＝よい音楽・嫌いな音楽？ **「1+1＝2？の発見** **☆公立大学でのキャンパスライフ、楽しんでいるか＝ラクしているか？** 「ラクして楽しむ」合理的な生き方がなぜダメなのか？ テーマ2：貧しき経済人がたどる人類の道とは？ 内 容： 「束縛から束縛」への道(仮説)を提示する。① 束縛(貧困)からの欠乏している自由を求める希望の旅、② 自由から欠乏している富を求める飛躍の旅、③ 富から欠乏している自己満足を求める安楽の旅、④ 自己満足から無関心に支配される暗闇の旅、⑤ 無関心から束縛(貧困)への暗黒の旅、⑥ 束縛(貧困)の悪循環から欠乏する真の自由、真の豊かさへ脱却するヒントをつかむ旅。 ⇒「1+1＝2？」へのチャレンジ 2以外の答えに気づかなくなった経済人を問題視。 ⇒ 果たして"経済人"は束縛(貧困)の罠から脱出できるのだろうか？ 経済人から「共創人」モデルへシフトし、i「共創マインド」を持つことが脱出の糸口。 テーマ3：インド映画『きっと、うまくいく』(前半85分)を観て、貧しき経済人を探す旅： 内 容：インド映画に登場する若い経済人の素顔を知り、関心を持つ＝「問い」を発見すること。 ＜教科書・指定図書： 教員作成のレジュメ・ 資料による＞
ＤＡＹ２ (09/02) **花** 4～6講 インド： 自由から富を求める飛躍の旅	テーマ4：インド映画『きっと、うまくいく』(前半)を観て、自由と富を求める、貧しき経済人を考える旅： 内 容：**映画に登場する人物：どのような自由を求めているのか？** ラクする自由には"落とし穴"がある？＜楽しむ自由にも"落とし穴"がある？＞ **・自分たちに関わる重要な問い(＝大学教育)を立て、共創(コクリ)する。問い1：大学(教育)とは点の取り方を教えるところ？ 問い2：大学(教育)は、人生の競争に勝つためなのか？** **大学教育に対する見方において、どの自由を選ぶか？** **自由を得ると、人は富を求めるのか？** **経済的富：「おカネがすべて」なのか？** 夢を与える仕事とどう関連するのか？ ―インド経済人を「鏡」として考える― 「人生は競争」なのか (欠乏ゆえに)どのような自由を求めているのか？ 束縛からの自由、そして、富への自由。 カネがあれば何でも(買うことが)できる？ 過去の時間と現在・未来の時間：今の時間も？ いのちや愛も？ 移動時間(タクシー代行サービス、飛行機か新幹線か？)、家事労働時間、 講義ノート代行サービス、・・・・・・ 遊び時間をカネで買う経済人(友人・知人)に講義ノート貸してくれ、と頼まれたとき、引き受けるか、それとも引き受けない？ ⇒ 損得的判断基準を問う。自分本位的(自分にとってメリットがあればOK)か他者本位的か？ ⇒ 思いやりや信頼、友人愛という基準で判断しているのか？(非合理的判断かもしれないが) (参考1)：「富」はなぜ拡大したのか？ W.バースタイン仮説 過去200年：持続的な富の増大 なぜ可能となったのか？① 私有財産制 (中国説明できる？)、② 科学的合理主義、③ ふんだんな資金が効率的に投資に向かうような資本市場、④ 強力かつ効率的な輸送・通信手段 (参考2)：金持ち＝モノの豊かさ＝心の豊かな人間⇒ 幸福な人間なのか 人間とは心豊かな生き物と思うか？という問いかけに対して、NO派の意見。 人間は貧しいがゆえに、豊さを求めるとすれば、人間とは本質的「貧しい」存在なのではないか。 サービスからのアプローチ (テキスト学問力のすすめを活用) 奪い合う生き物か、分かち合う生き物なのか？所有欲・支配欲が暴力を生みだすのか。 人間の本質には暴力がある？ なぜ、人は暴力を愛するのか？

	テーマ5:インド映画『きっと、うまくいく』(後半85分)を観て:富を求める経済人を観察する 内　容:　金持ちになりたい？　ビジネス(経済的富の追求)は何のためなのか？インドからの答えとは？ カネを稼ぐのが目的ではなく、稼いだカネを社会に還元すること(与える) (参考)インド経済人のチャレンジ:インドタタの挑戦―"ナノ"という世界一安い低価格車の登場(スモー国民車インディカもタタによる) ラタンタタ会長:スクーターに乗る家族の姿をみて、夢が生まれた。そして、庶民に夢を与えたい！ テーマ6:インド映画『きっと、うまくいく』)を振りかえって:富を求める経済人を吟味。 内　容:インド映画『きっと、うまくいく』を観て、自分たちに関わる問い(成功者とは)を立て、共創(コクリ)する。問い1:人生の成功者は登場人物の中にいる？　問い 2:成功者とは金持ちなのか ＜エクセレント(優秀)な人生？＞ (代替案) 「カネのための仕事」に対する判断基準(したい・したくないというモノサシ)と「青森(地元)に夢を与える仕事」に対する判断基準(できる・できないというモノサシ)をクロスすると何が見えてきたのか？ 内　容:「将来の夢」とは一体何か？　自己の幸せを願う自己実現的な夢なのか、他者の幸せを願う夢なのか。どちらを優先して今仕事(勉学)しているのか？　これからも同じなのか？ 仕事に対する欲求(動機)はおカネを稼ぐためか？ となれば、仕事のやりがいは二次的となる？　あるいはカネ稼ぎが生きがいなのか？ 仕事したくない⇒ 仕事したい　シフト可能か？ 仕事に夢がある＝仕事に哲学(生き方)必要なのか (参考):　職業の選択の自由と立ちはだかる壁とは？ よい職業へのあこがれ、膨大な若者労働市場。職業選択の自由は拡大しているのか？ カースト・フリーと言われるITソフト産業、　職業選択の自由を阻む壁とは？ ＜教科書・指定図書:　教員作成のレジュメ・　資料による＞
ＤＡＹ３ (09/03) 自転車 7～9講 インドからブータンへ: 富から自己満足を求める快楽の旅 無関心となる暗闇の旅	テーマ7:インドからブータヘン:幸福と自己満足を求める経済人を考える旅 内　容:　ビデオ教材によって、幸福の国ブータンの経済人の素顔を知る 嵐・幸福の国ブータン、あるいはブータン幸福度調査を観て、共創する。 義務を守れば幸せになれるのか、 「幸せ」は一時的なのか　(便利になれば、幸せになれるのか) (参考)義務:タバコ禁止(義務)、伝統的民族服の着用の義務、森林保護の義務、建築デザインの規制(義務)など。仏教的幸福の方程式＝財/欲望　ホント？ ブータンの幸福感＝日本人の幸福感(個人主義的)？　ブータンは、自分＋他者、現世＋来世 御手洗瑞子(みたらい・たまこ)、[2012]『ブータン、これでいいのだ』新潮社。 ・ブータン的幸福観を受け入れられるのか、 ・幸福な国ブータンの経済人を鏡として:カネ持ち、モノ持ちとなれば、幸せになれるのか？ ◎ 義務を守り、カネ・モノを愛すれば、幸せになることができるのか 貧しい国の幸福な経済人⇔ 豊かな国の不幸な経済人？　首相の説(幸福≠ 喜び)？ 喜び⇒ 快楽では？ テーマ8:ブータン幸福度調査に関するビデオをもとにキャッチボール 内　容:ブータンの経済人の幸福観を知ること。 心豊かであれば幸せとなるかもしれないが・・・・今は幸せですか？　「心の豊かさ」を求めていますか？ (富から自己満足する快楽の旅― 幸福度世界マップと先進国日本の事例): (参考2):経済的富を手にした人間は幸福になれるのか？　富を得た人間のゴールは自己満足なのか？ やる気を失う現代日本、ほんとか？　満足＝幸福なのか？　満ち足りる満足と満ち足りない満足があるのでは？　物質的富の拡大は幸福度をアップさせるか？人間の幸福追求は地球を不幸にするのか？(人間の幸福マップと不幸な地球マップ)　幸福大国ブータンから問題発見。

	テーマ 9:ブータンの経済人の幸福:理想と現実は同じなのか？ 内　容:ブータン幸福度調査の結果をもとに、共創する。 ＜教科書・指定図書:　教員作成のレジュメ・資料による＞
ＤＡＹ４ (09/04) エバの誕生 10～12講 ブータン: 無関心がもたらす束縛（貧困）への暗黒の旅	テーマ 10:ブータンの経済人から:「幸せはどこに？」 満足の中に？　それとも愛の中に？ ＜一昨夜はクリスマスイブでしたね。いつアダムは生まれたか？＞ 内　容:「満足」する意味を考え、幸せとなるか否かという判断基準を明確にする。 (参考)「満足」する＝精神的に満たされ、物質的に足りていること(仮説)。 テーマ 11:満足する生き方と「足るを知る」生き方:どちらの道を選ぶか 内　容:　満足する生き方の対極にある「足るを知る」生き方を明らかにする。 「足るを知る」生き方を実践すれば、愛欲から解放される？　愛と愛欲の違い。 自分を犠牲にしても愛したい「何か」を持っていますか？　自己愛の対極にある愛。 例えば、鶴のために自分の快適さ(欲望)を犠牲にしてもよいと考えるブータン人のように。 テーマ 12:「自己満足すれば、幸福になれるのか？ 自己満足すると、無関心となるのはなぜ？ (参考)日本:生きづらい、無関心な人間が増えているのか？　「海外」に向き合っているか？ アフガニスタンを支援する日本人医師の挑戦:「飢え渇きは薬では治せない」 「ODA(政府開発援助)」に無関心な日本人。海外人材育成に税金を支払うことは意味があるのか？ 「日本」は海外で受け入れられているのか？品質重視の日本的経営の事例。批判される 過労死、ストレスというワーキングライフ。過酷なIT産業のワーキングライフの実態に迫る。 「インドでは、この仕事についている限り、結婚はできない」という悲鳴の声。 ＜教科書・指定図書:　教員作成のレジュメ・　資料による＞
ＤＡＹ５ (09/05) 帰還 川はなぜリッチ？ 13～15講 インド・ブータンからの帰国 「心の貧しさ」(束縛)と自我からの解放の旅	テーマ 13:インド・ブータンからの帰還:貧しき経済人が人生に求めてきたもの:自由・富・満足する生き方:その行きつくところとは、無関心と束縛。では、貧しき経済人は、何を求めて生きればよいのだろうか？　「病者の祈り」にみる祝福された貧しき経済人にそのヒントがあるのでは。 内　容:経済人は何を求めて生きているのか？　経済人は、ほんとうの自由、ほんとうの豊かさに出会えるのだろうか？　科学的アプローチと宗教的アプローチを問う:　真理はどこにあるのか？ 真理は体験して知るものでは？ テーマ 14:「カイゼン」と「ジュガード」を実践する(経済人ではなく)共創人を目指して 内　容:　心貧しき者経済人にとってのよき知らせ。共創空間に秘められた宝を明らかにし、共有化する。 テーマ 15:貧しき経済人をめぐる共創の旅の総括: 内　容:急成長するインド・幸福の国ブータンから、どんなメッセージを得たのか？ 「共創」の視点から、その人間観、特に貧しき経済人の生き方(way of life, lifestyle)を問題とし、新たな判断軸(共創マインド):身についたと思いますか？ 自分の生き方にインパクトがあったのか？共創の旅からのプレゼント:1＋1＝9(の宝) ・「貧しき経済人をめぐる共創リポート」作成にあたっての確認。 ＜教科書・指定図書:　教員作成のレジュメ・　資料による＞

試　験:「共創」リポート(「共創空間」を活用した授業の成果をまとめたもの)　　提出期限:2021 年 9 月 24 日(予定)

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
金融機関論		2 単位	専門科目 展開科目
〔担当者〕 國方　明 Kunikata, Akira	〔オフィス・アワー〕 **時間:** 第 1 回の授業で連絡します。 **場所:** 525 号室		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

本科目では、金融機関とその行動を、主にミクロ経済学の理論を使って理解します。但し、時間が限られているので、金融機関のうち銀行を重点的に取り上げます。本科目でいう「銀行」は、預金取扱金融機関全般を指します。つまり、本科目の「銀行」は、○ ○ 銀行という名称で営業する株式会社だけでなく、信用金庫や信用組合なども含みます。

本科目は以下の 3 つのパーツに分かれます:

まず、パート 1 では、金融機関の制度的・歴史的側面を紹介します。例えば、日本では金融機関が銀行業、証券業や保険業などの業態に分かれ、相互参入が厳しく規制されてきました。また銀行業に限定すると、株式会社形態と協同組織形態の 2 つに大きく分かれ、前者は更に細かく都市銀行、地方銀行、第二地方銀行と信託銀行などに分かれます。また制度を理解するためには、その制度が形成される過程つまり歴史的背景を学ぶことが有益です。

次に、パート 2 では、ミクロ経済学の理論を応用して、銀行の存在意義、銀行行動、複数銀行が構成するシステムを議論します。ミクロ経済学の発展に伴い、(a) 1970 年代まででは生産者理論の応用が、(b) 1980 年代以降では「情報の経済学」や「不完備契約の理論」の応用が、それぞれ主流となってきました。また(b)は、個別銀行に対する公的介入や銀行システムに対する公的介入の議論につながっています。

最後に、パート 3 で、銀行のリスク管理を教えます。

なお、本科目は確かにミクロ経済学と深く関わります。しかし、本科目はマクロ経済学とも無関係ではありません。例えば、世界金融危機以降、銀行システムの安定性がマクロ経済学における一大論点になっています。また本科目で取り上げる銀行行動の理論や貸出の理論は、金融政策の波及経路を考える際の理論的基礎になります。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本科目の内容は、金融経済学の金融機関に関する内容を、より高度にしたものになっています。また、金融経済学やファイナンス理論で教えた証券投資の理論を、金融機関に応用します。

〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

金融機関の役割やその行動を、これまで学んできた経済学の知識を使って理解できるようになると期待します。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

最終目標:

ミクロ経済学の理論を使って、金融機関の役割やその行動を理解できるようになること。研究者向けの文献(例えば山沖義和・茶野 努 編著、『日本版ビッグバン以後の金融機関経営』、勁草書房、2019 年や植杉威一郎、「銀行-企業間関係と中小企業の資金調達 ―― 近年の研究動向―― 」、『経済研究』(一橋大学経済研究所)、Vol. 70, No. 2, pp. 146-167 , 2019 年 4 月)を適切に理解できるようになれば、この目標を達成できたと言えるでしょう。

中間目標:

- 基礎的な専門用語の意味を、正しく理解できるようになること。
- ミクロ経済学の理論を金融機関へ応用するために、どのような工夫が必要なのかを理解すること。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

「ハンドアウトが見にくい」という指摘がありました。この指摘を改善するよう、次の 2 つを改善します。(1)ハンドアウトの主要フォントを変更します。(2)可能な限り、図表を増やし、図表の配置を変更します。

〔教科書〕

本科目では教科書を使用せず、ハンドアウト(俗に言うプリント)を使って講義を進めます。ハンドアウトは、下記参考書に基づいて作成されています。

〔指定図書〕
該当無し。

〔参考書〕
内田浩史、『金融』、有斐閣、2016 年(新品を購入可能、本学図書館に所蔵済み)

〔前提科目〕
ミクロ経済学、応用ミクロ経済学、ゲーム論、金融経済学及びファイナンス理論

上記 5 科目いずれかの単位を修得していない人も、本科目を履修できます。但し、該当科目のシラバスに紹介されている書籍の自習を強く勧めます。

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
次の(ア)～(ウ)の総合評価に基づき、履修者それぞれを評価します。
(ア) 課題研究 3 回。
(イ) 授業内小テスト 1 回。択一式です。
(ウ) 試験期間中の試験 1 回。択一式と記述式の併用です。

〔評価の基準及びスケール〕
〔学修の課題、評価の方法〕に挙げた(ア)～(ウ)の総合評価に基づいて、グレードの仕切りを設定します。

A:80%以上。B:70%以上、80%未満。C:60%以上、70%未満。D:50%以上、60%未満。F:50%未満。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
- 第 1 回の授業で、評価方法などについて補足説明を行います。できる限り出席してください。
- 本科目では、金融経済学やファイナンス理論などに基づく、かなり高度な理論を取り上げます。このため、金融経済学やファイナンス理論の一方または両方を履修しなかった人、あるいはこれら 2 科目の一方または両方で D 以下の評価を得た人は相当苦労するでしょう。該当する人は、履修するか否かを十分考えてください。
- 他の学生の迷惑になる行為(例:私語や、授業にかかわる学生同士の相談)を、原則として禁じます。授業にかかわる相談も、周囲の学生にとって受講の妨げになりうることを想像してください。授業中に相談事が生じたら、担当教員(國方)が受け付けます。
- 新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、本シラバスに変更がありえます。変更が生じたら、授業内で連絡します。

〔実務経歴〕
公認会計士事務所での監査証明業務補助などの実務経験を活かし、ミクロ経済学の理論を使って、銀行など金融機関の役割やその行動を理解する授業です。

授業スケジュール
(履修者の理解度、新型コロナウイルス感染拡大状況などによって、変更する可能性があります。
もし、変更が生じたら、授業内で連絡します。)

第 1 回	テーマ(何を学ぶか):パート 1 ガイダンスと金融機関の役割 内 容: 金融経済学第 13 回で教えた直接金融と間接金融を手掛かりにして、金融機関の役割を復習します。 参考書 第 8 章～第 10 章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):パート 1 金融機関の分類 内 容: わが国金融機関の分類を学びます。 参考書 第 8 章～第 10 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):パート 1 銀行業と銀行政策の歴史 内 容: わが国銀行業の歴史と、銀行に対する政策の歴史を学びます。 参考書 該当無し。
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):パート 1 銀行の業務 内 容: 銀行の業務を学びます。 参考書 第 8 章

第 5 回	テーマ(何を学ぶか):パート 1　銀行の財務諸表と財務指標 内　容:銀行の財務諸表と、財務指標を学びます。 参考書　第 8 章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):パート 2 (a) 銀行行動の理論:確実性下 内　容:ミクロ経済学及び応用ミクロ経済学で学んだ生産者理論を応用して、確実性下における銀行行動の理論モデルを学びます。 参考書　該当無し。
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):パート 2 (a) 銀行行動の理論:不確実性下 内　容:金融経済学やファイナンス理論で学んだ分散投資の理論を応用して、不確実性下における銀行行動の理論モデルを学びます。 参考書　該当無し。
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):パート 2 (b) 金融取引の阻害要因 内　容:借り手企業の資金調達手段には、銀行借入以外に、社債発行や新株発行などがあります。しかし、特に中小企業では、銀行借入が主な資金調達手段になっています。そこで、「銀行借入には、他の資金調達手段にはない特殊性があるのではないか？」という疑問が浮かびます。第 8 回と第 9 回では、この疑問に取り組みます。 第 8 回では、銀行が仲介しない貸し借り、つまり貸し手と借り手とが直接貸し借りする場合に、資源配分の非効率性が生じる可能性を学びます。 なお第 8 回の授業内で、小テスト(択一式)を実施する予定です。 参考書　第 4 章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):パート 2 (b) 銀行による阻害要因軽減 内　容: 第 9 回では、専門業者の銀行が貸出サービスを提供する結果、資源配分の非効率性が軽減される可能性を議論します。 参考書　第 4 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):パート 2(b) 銀行のガバナンスと銀行への公的介入 内　容:銀行も民間企業の一種です。そこで、銀行(資金の借り手)と、預金者など利害関係者との間で、逆選択の問題やモラル・ハザードの問題が生じるかもしれません。第 10 回と第 11 回では、銀行や銀行経営者を規律付けて、これら問題を軽減するための社会的工夫を学びます。 第 10 回では、民間経済主体や公的組織の間で、銀行や銀行経営者を規律付ける際の利点や限界を比較します。 参考書　第 14 章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):パート 2(b) 銀行のガバナンスと銀行への公的介入 内　容: 第 11 回では、銀行業に対する公的規制のうち、バーゼル合意や国内基準を学びます。 参考書　第 14 章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):パート 3　銀行のリスク管理 内　容:第 7 回～第 11 回の議論で、リスクが重要な役割を果たしました。リスクやリスク管理は、銀行の利害関係者にとって一大関心事です。そこで、銀行がどのようなリスクに直面しているかを学んだうえで、代表的なリスク管理手法を学びます。 参考書　第 8 章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):課題研究(1)で代替 内　容:　金融機関を中心に、課題研究を行います。 参考書　該当無し。
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):課題研究(2)で代替 内　容:　金融仲介機関を中心に、課題研究を行います。 参考書　該当無し。
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):課題研究(3)で代替 内　容:　金融仲介機関を中心に、課題研究を行います。 参考書　該当無し。
試　験	試験期間(12 月 1 日(水)～12 月 3 日(金)、12 月 6 日(月)、12 月 7 日(火))中に、試験を 1 回実施します。択一式と記述式の併用です。出題範囲などを授業内で連絡します。

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
国際金融論		2 単位	専門科目
〔担当者〕 中條　誠一 Seiichi Nakajo	〔オフィス・アワー〕 時間: 場所:		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

国際金融の基礎理論を踏まえて、実際に国際金融の業務がどのように行われているかという基本的な実務と現代の世界経済が直面している現実の問題を理解するための授業である。したがって、講義は国際金融の理論、実務、現実問題の 3 部構成から成っているが、いずれも初学者でも理解できるような分かりやすいものとする。

特に、他の国際金融論の授業と異なるのは、最先端の国際金融の実務を取り上げ、平易にその仕組を解説することによって、受講者が実際に活用できるような「現実に役立つ国際金融論」となっている点である。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

現代の世界経済は、グローバル金融資本主義などと呼ばれるように、物やサービスの取引に必要な額を上回る資金がうごめき、たびたび国際金融における混乱が危機を発生させている。その影響は、われわれの日常生活にも及んでおり、国際金融の重要性が高まっている。

そうした中では、グローバルな世界を舞台にした国際金融取引の原理や実態、それがもたらす混乱や危機を把握することが、国際人を目指す学生はもとより、国内ビジネスに従事する場合にも、一般常識として不可欠となっている。グローバル社会を生き抜くうえで必要不可欠な知識として、この講義を活用して欲しい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

(1)　国際金融の基礎理論全般を理解すること
(2)　理論と現実の相違を明確に理解することによって、実際のビジネスにおいて、国際金融の理論をどのように活用すれば収益を得られるかを理解すること
(3)　現実に発生している国際金融問題について、理論を踏まえた理解ができること
具体的には、国際金融の理論、実務、現実問題のそれぞれに関する新聞や雑誌などの記事をスムーズに理解できるようにすること。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

一昨年度の授業評価で、講義が聞き取りにくかったとの声が聞かれた。そこで、昨年度は受講生に私語を慎むように注意を促すとともに、大きく明瞭な発声を心掛けた。その結果、もともと平易な講義内容のものが聞き取りやすくなり、分かりやすいとの評価を得たので、今年度も継続したい。

〔教科書〕

中條誠一『新版・現代の国際金融を学ぶ』勁草書房

〔指定図書〕

レポート提出課題本：中條誠一『ドル・人民元・リブラ――通貨でわかる世界経済』新潮新書

〔参考書〕

藤田・上川『現代の国際金融論』有斐閣

〔前提科目〕

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

基本的には、期末テスト（100 点満点）によって評価する。
ただし、授業は双方向方式を取り入れて行うため、適切な質問や回答に対しては加点する。
さらに、授業参加および貢献点、レポートの点数を加点する。
加点部分の配点は、授業の開始時に提示する。
なお、履修者が少ない場合には、期末テストを行わず、レポートなどで評価することもあり得る。

〔評価の基準及びスケール〕

メインとなる期末テストは、授業中に対象となる複数のテーマを指摘し、かつそのテーマについてのポイントを明確に講義する。計算問題については、授業中にも、簡単な例題を出して、練習してもらうようにしたい。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

ともすれば、国際金融論は理論と実務や現実が乖離しており、分かり難いとか、実際に役立たないという声を多く聞く。その溝を埋め、実際に日常生活で使うことができ、役立つ国際金融論の講義にしたい。
そのために、たえず理論を実務や現実問題と関連付けながら講義をするので、受講生は新聞、雑誌、TVなどを通じて、国際金融に関わる動きをウオッチし、問題意識を持つように心がけてもらいたい。

〔実務経歴〕

総合商社での国際的な金融業務の経験を活かし、為替レート予想、国際資金調達や運用の仕方などを授業に取り入れたい。

授業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか):国際収支の仕組み 内　容:　国際的にどんな取引がなされているのかを国際収支表から見てみる 教科書・指定図書　:指定の教科書、関連資料を配布
第２回	テーマ(何を学ぶか):為替レートの国際収支調整機能 内　容:為替レートによって、どうすれば国際収支は調整できるのか、現実にはどうかを見てみる 教科書・指定図書:指定の教科書
第３回	テーマ(何を学ぶか):国民経済と国際収支 内　容:経済全体から国際収支を見るI－Sバランス論とその現実的意義を考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第４回	テーマ(何を学ぶか):購買力平価説 内　容:伝統的な為替レート決定理論とその現実的意義を見てみる 教科書・指定図書:指定の教科書
第５回	テーマ(何を学ぶか):アセット・アプローチ理論 内　容:新しい為替レート決定理論とそれによって為替レートをどう予測すればよいかを考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第６回	テーマ(何を学ぶか):金利平価説と金利裁定取引 内　容:金利平価の成立メカニズムと現実に利益を得るための方法を理解する 教科書・指定図書:指定の教科書

第7回	テーマ(何を学ぶか):国際金融市場とその機能 内　容:国際金融市場の概要とその機能について考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第8回	テーマ(何を学ぶか):先物取引 内　容:デリバティブ取引のひとつである先物取引の仕組を知り、どのように使えばよいかを考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第9回	テーマ(何を学ぶか):通貨オプション 内　容:デリバティブ取引のひとつである通貨オプションの仕組と使用の仕方を考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第10回	テーマ(何を学ぶか):通貨スワップ 内　容:デリバティブ取引のひとつである通貨スワップの仕組と使用方法を考える 教科書・指定図書:指定の教科書
第11回	テーマ(何を学ぶか):アジア通貨危機と世界金融危機とその対応 内　容:アジア通貨危機と世界金融危機の原因とそれを踏まえた対応について見てみる 教科書・指定図書:指定の教科書
第12回	テーマ(何を学ぶか):通貨統合とユーロ危機 内　容:通貨を統合するとはどういうことかとユーロ危機の原因と対応について見てみる 教科書・指定図書:指定の教科書、配布資料
第13回	テーマ(何を学ぶか):アジアの通貨システムと人民元の国際化 内　容:アジアにおける通貨統合や人民元圏誕生の可能性について見てみる 教科書・指定図書:指定の教科書
第14回	テーマ(何を学ぶか):お金(通貨)とは何か 内　容:今、新しい通貨として、デジタル通貨が注目されている。国際金融にも大きな影響を与えると思われるデジタル通貨を理解するために、そもそも「通貨」とは何かを考えてみる 教科書・指定図書:配布資料
第15回	テーマ(何を学ぶか):「未来の通貨」(デジタル通貨)はどうなるか 内　容:未来の新しい通貨はどのようになるのかを考えてみる 教科書・指定図書:配布資料
試験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
公共政策論	2 単位	選択

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
木立　力	時間：開講時に案内 場所：研究室	

〔科目の概要〕

経済成長モデルを用いて、中長期的な観点から，人口高齢化と経済の関連について考察する.
また，その枠組みでの経済政策について考察する

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

2 年次で学んだマクロ経済学でとりあげられた短期モデルと経済変動論でとりあげられた長期モデルとの比較を行う。
この講義では，少子高齢化のもとでの経済政策を，経済成長モデルの観点から考察し，短期モデルによる経済政策との違いを明らかにする.

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

最終目標は，日本の少子高齢化社会でのマクロ経済政策のあり方について，現実の経済政策との違いを批判的に考察すること.
中間目標は，第1に，経済成長モデルをよく理解すること. 第2に少子高齢化問題への経済成長モデルの適用について考察すること.

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕
昨年のこの講義のアンケートでは，日本の経済政策との関連について説明したことが好評価を得ていた。本年も経済成長のモデル分析と現実の日本の経済政策との関連を解説したい。出席点も成績評価に大きく影響する。

〔教科書〕

なし

〔指定図書〕

なし

〔参考書〕

マンキュー『マクロ経済学Ⅰ』『マクロ経済学Ⅱ』必要箇所は配布する。

〔前提科目〕

マクロ経済学を前提とする。経済変動論を履修済みであることが望ましい

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)

モデル分析に関する数回のレポート提出を求める.
成績評価は主に期末試験の結果によるが、何度か出席をとり、出席点との合計によって決める。

〔評価の基準及びスケール〕

80 点以上 A,
70 点以上 80 点未満 B,
60 点以上 70 点未満 C,
50 点以上 60 点未満 D,
50 点未満 F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

理論モデルによる分析と現実との対応を考えるようになってほしい。

〔実務経歴〕

なし

授業スケジュール

第1回	テーマ(何を学ぶか): 短期マクロモデルの復習 内　容: 短期のマクロモデルの復習 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅰ
第2回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデルの復習 内　容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第3回	テーマ(何を学ぶか):短期モデルと長期モデルの前提の比較 内　容: 作成資料
第4回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデルにおける貯蓄率の変化と財政赤字 内　容: 参考書・マンキュー、マクロ経済学Ⅱ

第5回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデルにおける人口成長率と少子化問題 内　容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第6回	テーマ(何を学ぶか):ケインズの消費関数とライフサイクル貯蓄仮説 内容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第7回	テーマ(何を学ぶか):ケインズの消費関数と恒常所得仮説 内容: 参考書:マンキュー、マクロ経済学Ⅱ
第8回	テーマ(何を学ぶか):サムエルソンの消費貸借モデル 内容: 作成資料
第9回	テーマ(何を学ぶか):重複世代モデル 内容: 作成資料
第10回	テーマ(何を学ぶか):人口ボーナスと人口オーナス 内　容: 作成資料
第11回	テーマ(何を学ぶか):少子化と移行世代 内　容: 作成資料
第12回	テーマ(何を学ぶか):重複世代モデルにおける公的年金 内　容: 作成資料
第13回	テーマ(何を学ぶか): 全体の復習 作成資料
第14回	テーマ(何を学ぶか): 全体の復習 内　容: 教科書・第7章
第15回	テーマ(何を学ぶか):全体の復習 内　容: 作成資料
試　験	12回目までの内容について試験を行う

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
経済特殊講義Ⅲ	2 単位	専門科目 選択

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
堤　　静 子 TSUTSUMI Shizuko	時間：質問は講義で配付するコメントシートで。 場所：　ー	講義

〔科目の概要〕

近年、「地域づくり」や「地域活性化」といったフレーズをよく耳にするようになり、地域経済、地域産業に対する興味・関心は高まりをみせているが、地方の人口減少の影響もあり、地域経済を支えてきた産業も低迷していることも事実であり、様々な課題を抱えながらも、新たな産業振興策や地域産業の創出に関する取り組みが進められている。

そこで、本講義では、地域と産業の関わりを捉え、地域を支えている産業の現状を把握し、地域資源を活用した新たな取り組み事例を紹介し、地域資源を活かした地域力向上策や地域産業振興に向けた地域ブランドの確立等、地域住民や自治体の政策について学ぶ。また、新たな地域産業として、地域住民が主体となりビジネスの手法で地域課題を解決するコミュニティビジネスも育ってきており、まちづくりも含めた様々な取り組みについても考察する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

地域産業を通じて地域の特性、市場を知り、地域資源の活用事例や地域産業活性化、振興のための事業活動等について具体的に学ぶことで、地域社会のあり方を考え、自分たちが暮らす地域の課題解決の方策策定や、新たな価値創出に向けた取組に関する思考力を高めることができる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・地域産業の現状と地域と課題を理解し、自分なりの課題解決策をイメージできる。
・地域産業を通じて地域資源の活用手法や地域産業振興のための具体的方策について修得する。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

初年度の講義のため評価はまだないが、わかりやすい授業を心がける。

〔教科書〕

毎回の講義でレジュメを配付する。

〔指定図書〕

なし。

〔参考書〕

講義内で適宜紹介する。

〔前提科目〕

特になし。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

出席状況、講義内に実施する小テスト、定期試験により総合的に評価する。

〔評価の基準及びスケール〕

評価　：得点比率
Ａ　：　80％　～　100％
Ｂ　：　70％　～　80％未満
Ｃ　：　60％　～　70％未満
Ｄ　：　50％　～　60％未満
Ｆ　：　50％未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

青森県はもちろんのこと、学生の皆さんそれぞれの生まれ育った地域など、様々な地域への興味・関心、理解を広げ深めてほしい。また、次の授業へ活かすために、毎回コメントシートを配付し、授業の理解度の確認を行う。

〔実務経歴〕

市場調査・マーケティングリサーチ会社経営の実務経験や地域活性化に資するような地域活動に取り組んでいる経験を活かし、最新の各種データや実際に活動した地域事例等を紹介するなどして、興味・関心を持って、地域産業を通じて地域の理解を深めてもらえるように努める。

授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): イントロダクション・産業とは 内　容: 授業の進め方や学修内容、評価方法などについてのイントロダクション。 産業とは何か？経済の基本問題について 講義配付レジュメ
第2回	テーマ(何を学ぶか): 地域とは 内　容: 地域とは何か？地域を学ぶ意義について 講義配付レジュメ
第3回	テーマ(何を学ぶか): 地域産業政策の変遷 内　容: これまでの地域における産業政策の変遷について 講義配付レジュメ
第4回	テーマ(何を学ぶか): 地域の産業構造 内　容: 人口と産業構造の変化について 講義配付レジュメ
第5回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題① 内　容: 農業・林業について 講義配付レジュメ
第6回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題② 内　容: 水産業について 講義配付レジュメ
第7回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題③ 内　容: 製造業について 講義配付レジュメ
第8回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題④ 内　容: 交通・運輸について 講義配付レジュメ
第9回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題⑤ 内　容: 観光業について 講義配付レジュメ
第10回	テーマ(何を学ぶか): 産業の現状と課題⑥ 内　容: その他各種産業について 講義配付レジュメ

第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 地域資源を活用した事業事例① 内　容: ものづくりの観点から地域産業を考察する。 講義配付レジュメ
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 地域資源を活用した事業事例② 内　容: まちづくりの観点から地域産業を考察する。 講義配付レジュメ
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 地域産業モデル① 内　容: 海外地域モデル 講義配付レジュメ
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 地域産業モデル② 内　容: 国内地域モデル 講義配付レジュメ
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 地域資源の付加価値力 内　容: 地域産業振興に向けた地域ブランドの確立 講義配付レジュメ
試　験	期末試験を実施する。

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
行政法務論		4 単位	地域みらい学科 展開科目
〔担当者〕 髙橋　基樹 TAKAHASHI, Motoki	〔オフィス・アワー〕 **時間:**（髙橋）開講時に指示する。 **場所:**（髙橋）617 研究室		〔授業の方法〕 講義形式中心

〔科目の概要〕

（髙橋）

日本国憲法が定める行政機関を含めた公的権力機関である統治機構（立法府である国会・行政府である内閣・司法府である裁判所）について学び、その意義やあり方について検討する。そのうえで、こうした公的権力機関に対する私たち個々人の人権・権利保障のあり方、さらに行政と私たちとの関係性について捉える。

（富澤）

いまだ収束の兆しの見えない新型コロナ感染症拡大により、企業も我々の生活にも大きな影響がでています。昨年の4月7日の緊急事態宣言から、本日（7月11日現在）81万9，668人と感染者数も15倍以上に増えていることに改めて驚きます。法律は、感染症法、保健所の設置に関わる地域保健法、国民生活緊急措置法、災害対策法、そして、国家緊急権と憲法など、関係しております。

このように、わたしたちの日常生活の暮らしは法律や県や市町村が定める条例や、そして憲法により保護されている反面、規制もうけています。その法律は不変ではなく、時代や社会の変化とともに改正され進展しています。また、条例・法律の解釈も判例により、時代とともに変わってきています。

条例、法律、さらに判例を中心として、制度の概要・意義や法令（例規）の構造や条文の構成、法令用語などについて概説します。法的視点からの具体的な条例の政策の形成過程なども具体的な自治体政策をとおして概説します。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

（髙橋）

本科目では、日本国憲法に規定された公的権力機関である統治機構（立法府・行政府・司法府）に注目して講義し、その合理的かつ合憲的なあり方について考察する予定である。この考察は、公的権力機関との関係の中で生活する、私たち個々人の権利保障のあり方について検討することにも繋がる。すなわち、自身の享有する人権・権利の意味およびその保障のあり方について知ることにも結びつく。

（富澤）

私たちが暮らしていく中で、いろいろな場面で、法律がかかわってきます。より豊かな社会生活をおくるため、少しでもより多くの法律や判例などを学ぶ必要があります。地方分権により、自治体は「自己決定」「自己責任」の時代となっています。地域の特性、実情を最もよく知る市町村が様々な行政課題を「自己決定」「自己責任」のもと、住民ニーズに沿って、住民と職員が価値観を共有しながら、協働し解決していくことが求められております。そのためにも、将来に向けて創意工夫をして、個性豊かな地域社会を形成するため、判例などを通して、法的課題をクリアーしていかなければならないと考えます。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

（髙橋）

第一に、「日本国憲法が定める統治機構の存在意義について学び、理解することを中間目標とし、最終的には、そうした統治機構との関係から自身の人権・権利保障のあり方に対して自覚的に考察できる能力を習得すること　が最終目標である。

（富澤）

「石を投げれば行政法にあたる」と言われるように、日常生活の中で行政法がどのように結びついているか、法律や具体事例のなかから考えることによって、条文を覚えるのではなく、法律のしくみや基本的な考え方を学ぶことが目標です。行政法は行政をめぐる仕組み、手続を網羅した法律の総称であります。行政法の基本的なことを学び、日常、報道されている事件なども、より理解することができると考えます。さらに、学生のみなさんが、法的課題を個々に考える機会ができることが目標であります。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕
（髙橋）
髙橋担当回については、統治機構に関する理論的な観点から講義を行う予定である。そのため、抽象的な論点については、より具体的な説明を行うよう心掛ける。受講者の内容理解度については、授業内で意見を聞くことやコメント・ペーパー等の提出により把握し、適切な講義の進行に努める。なお、昨年度実施の授業評価アンケート結果から、概ね履修者の講義内容に対する理解を得られたことが把握できた。ただし、配布資料が分かりにくいとの指摘もあったことから、今年度はより、本科目の講義内容に履修者の理解を促すことができるように、講義内容およびその説明方法についてはさらに工夫を心がける。加えて、講義中の教員の声量の大きさにも気を付け、適切な環境で講義を受講できるように整えることを試みる。また公務員志望の学生が履修されることが予想されるため、公務員試験との関係からの講義や公務員に求められる法的な権利・義務についても講義し、理解を促すことができるように心がける。

（富澤）
法律用語はよく「難しい」と言われますが、私自身もそう思っていました。基本的な考え方を実際の判例や実例をあげ、その具体的な争点となった内容を説明することにより、誰でもが、わかりやすく入っていけるようにします。さらに、最新の新聞・ニュースなどの素材も逐次取り上げ、より興味深く理解しやすいように工夫します。

〔教科書〕
（髙橋）特に教科書指定を行わない。
（富澤）テキストや文献等はその都度紹介します

〔指定図書〕
（髙橋） 講義中に紹介する。
（富澤）テキストや文献等はその都度紹介します

〔参考書〕
（髙橋）
六法（種類は特に問わない。たとえば『ポケット六法　平成 31 年版』（有斐閣、2018 年）や『法学六法'19』（信山社、2018 年）など）
大津浩・大藤紀子・高佐智美・長谷川憲『新憲法四重奏　第二版』（有信堂、2017 年）
斎藤一久・堀口悟郎『図録日本国憲法』（弘文堂、2018 年）
晴山一穂ほか『欧米諸国の「公務員の政治活動の自由」その比較法的研究』（日本評論社、2011 年）
　　など。上記以外は講義中に紹介する。

（富澤）
六法（種類は特に問わない）
『自治体政策と訴訟法務』（学陽書房・共著）　『地方公共団体の契約』（ぎょうせい）
『逐条解説　行政手続法』（ぎょうせい）　『わかりやすい公職選挙法』（ぎょうせい）
『法制執務詳解』（ぎょうせい）　『自治体改革　第 8 巻』（ぎょうせい・共著）
『保育問題の本質を問う』（都市問題 2017 年 2 月号共著）
『ビーコンオーソリティー』（イマジン出版・共著）　など

〔前提科目〕
　な し

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
（髙橋）
通常授業時における受講生の理解度（復習問題の正答率等）や積極的な出席態度および定期試験またはレポートの結果を総合的に評価する。詳細は、開講時に説明する。

（富澤）
授業における理解度や出席態度も含め、受講態度及び授業中に行なう小テストなどにより、総合的に評価します。

〔評価の基準及びスケール〕
（髙橋）
上記、科目の到達目標を達成しているかについて、授業の出席状況や積極的な参加度に加えて、期末に実施する定期試験またはレポートの提出に基づき、総合的な成績評価を行う。

（富澤）
上記、科目の到達目標を達成しているか、授業の出席態度や積極的な参加・質疑応答など考慮して、授業中行なう小テストを踏まえ、総合的な成績評価を行います。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
（髙橋）
本科目では、統治機構に関する講義だけではなく、日本の「公務員制度」における法律上の問題点についても講義する予定であることから、公務員志望の受講者の積極的な授業参加を望む。なお、授業内容については、授業の進捗を勘案して適宜調整することがある。加えて、受講者の習熟度によっては、授業内容を変更することもある。

（富澤）
今、時代は「法律に強く、そして法律を使えること」が求められています。法律は用語も難しく理解しにくいといわれるますが、興味を持って、将来のまちづくりや政策に活かしてもらいたい。そして、学生の皆さんには、将来があります、行政法の基本を学び、自らの考えをもっていただけたらと考えます。

〔実務経歴〕
（髙橋）該 当 な し
（富澤） 固定資産評価訴訟事件・条例等審査委員・文書統括責任者・再開発用地買収補償・行政契約担当課長
公有財産管理委員・普通財産損害賠償事件・パチンコ店出店阻止条例違法訴訟事件 など

授業スケジュール	
第１回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）憲法と統治機構（立法府・行政府・司法府と三権分立の関係） 内　容：憲法が定める統治機構の意義について、人権保障との関係から学ぶ。そのうえで、日本国憲法に規定された統治機構の内容についても確認する。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定。 また、本シラバスに基づいたガイダンスを行う予定のため、本シラバスを必ず持参のこと。
第２回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：日本国憲法史（大日本帝国憲法と日本国憲法）と統治機構 内　容：現在の日本国憲法における特徴とそこで規定された統治機構の意義を理解するため、まず大日本帝国憲法が定めた統治機構との比較からそれを学ぶ。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第３回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：日本国憲法に定められた「国民主権」 内　容：日本国憲法が保障する基本原理の１つである「国民主権」の意味について解説する。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第４回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：参政権の保障と日本の選挙制度 内　容：日本国憲法が定める統治機構と「国民主権」の行使との関係から、主権者として国民が政治に参加する参政権の保障の意味と、現代日本における選挙制度の概要について解説する。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第５回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：国会議員の拘束と一票の格差問題 内　容：国民から選出された代表者である国会議員の役割について確認する。また日本の選挙制度の問題としての「一票の格差」について考える。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第６回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：立法権と行政権の関係①（立法権を有する国会の権能） 内　容：立法府である国会がなぜ規範であり、強制力・矯正力を有する「法律」を制定できるのかについて学ぶ。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第７回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：立法権と行政権の関係②（行政権を有する内閣・首相の地位） 内　容：行政府である内閣の役割について学び、行政権限としての規則を制定する命令制定権のあり方について考える。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定

第8回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：立法と条例との関係（国会と地方議会） 内　容：国会が定める立法と地方公共団体が定める条例との差異について捉える。そのうえで、法律と条例との関係性について把握する。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第9回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：地方自治の法制度 内　容：日本国憲法が定める地方自治の法制度の意味について学ぶ。そのうえで、地域活性化と地方自治との関係について考える。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第10回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：裁判所の役割①（裁判を受ける権利と司法権の意味・範囲） 内　容：司法府としての裁判所について、日本国憲法が定める裁判制度の意義から学び、裁判を受ける権利の保障の意義について考える。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第11回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：裁判所の役割②（法律上の争訟と憲法訴訟） 内　容：日本国憲法の基本原理の 1 つである「基本的人権の尊重」のために作用する裁判所の役割について考察する。そのうえで、日本の裁判所の判断できる事項についても捉える。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第12回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：裁判所の役割③（裁判員制度） 内　容：一般市民が裁判に関わることができる司法システムとしての裁判員制度について解説する。そのうえで、望ましい司法制度とはどうあるべきかについて考察する。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第13回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：人権の享有主体に関する法制度①　（人権が保障される主体について） 内　容：個々人が有するべき人権の保障内容およびその対象について考える。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第14回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：人権の享有主体に関する法制度②　（特別権力関係論・権利性質説） 内　容：日本国憲法上、特別な人権制限がなされる法理論について把握し、その妥当性について検討する。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第15回 （髙橋）	テーマ（何を学ぶか）：人権の享有主体に関する法制度③　（公務員の自由と人権保障の在り方） 内　容：日本における「公務員」という存在に対する一般的な制約論理の意義について考え、「公務員」という存在に対する人権保障のあり方について考える。 教科書・指定図書　授業内でレジュメを配布予定
第16回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　身近な行政法と行政法の概念 内　容：　法律による行政の原理、行政行為・行政活動、公法と私法 教科書・指定図書　　授業内でレジュメを配布
第17回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　権力関係と非権力関係 内　容：「行政上の強制執行、行政代執行、即時強制、行政指導 教科書・指定図書：　　授業内でレジュメを配布
第18回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　行政手続法 内　容：　行政手続法の意義と内容 教科書・指定図書：　　授業内でレジュメを配布
第19回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　行政上の不服申立 内　容：　　行政不服審査法の意義と存在理由、種類と要件、不服審査手続 教科書・指定図書：　　授業内でレジュメを配布
第20回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　行政事件訴訟法 内　容：　　行政事件訴訟法、概要と種類、要件、取消訴訟 教科書・指定図書：　　授業内でレジュメを配布

第21回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　行政救済・損失補償 内　容：　行政救済制度 ・ 国家賠償法の仕組み、補償訴訟 教科書・指定図書：　授業内でレジュメを配布
第22回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　地方自治法 内　容：　地方公共団体の執行機関、地方議会の関係、議会の運営 教科書・指定図書：　授業内でレジュメを配布
第23回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　地方財政・歳入と歳出予算 内　容：　収入・租税の役割、単年度予算と債務負担 教科書・指定図書：　授業内でレジュメを配布
第24回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　少子高齢化・行政の課題 内　容：　人口減少・消滅する自治体、保育園入所問題、高齢化社会到来 教科書・指定図書：　授業内でレジュメを配布
第25回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　行政立法 内　容：　意義と種類、法律と条例、政策法務論 教科書・指定図書：　授業内でレジュメを配布
第26回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　情報公開条例と情報公開法 内　容：　情報公開の意義、成立過程 教科書・指定図書：　授業内でレジュメを配布
第27回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　個人情報保護条例と個人情報保護法 内　容：　個人情報保護の意義、課題 教科書・指定図書：　授業内でレジュメを配布
第28回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　公の施設と施設管理 内　容：　公の施設の種類、管理責任 教科書・指定図書：　授業内でレジュメを配布
第29回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　行政計画と行政契約 内　容：　意義・機能、公契約、私契約、民法と地方自治法 教科書・指定図書：　授業内でレジュメを配布
第30回 （富澤）	テーマ（何を学ぶか）：　国際社会での法律と先進的な自治体条例 内　容：　新たな法律の動き、条例の制定と判例、国法を動かした事件 教科書・指定図書：　授業内でレジュメを配布
試　験	（髙橋） 定期試験またはレポートの提出（受講者数等との関係から、開講時に定期試験またはレポートどちらに基づいて本授業の主な成績評価を行うかを決定する。この詳細については、開講時に説明する。） （富澤） 授業中に小テストを行ないます

〔科目名〕		〔単位数〕	〔科目区分〕
地域と産業政策		2 単位	選択
〔担当者〕 安田公治	〔オフィス・アワー〕 **時間:**別途告知する **場所:**1212		〔授業の方法〕 講義

〔科目の概要〕

本科目では地域における産業政策に対して、青森県と他地域の産業構造を比較したうえで、どのような政策が望ましいかについて学びます。講義の前半では特に地域とは何かを改めて理解し、地域における雇用・通勤圏、商圏がどのように分布しているか、都市の集積が起こることによるメリットとデメリットなどについて学びます。また独占企業の行動などについてもミクロ経済学の知識にも触れながら説明を行い、独占や寡占を考えるうえで企業が市場に与える影響力をどのように測るかについても説明します。後半では産業連関表の見方を知り、それをもとに地域の基盤産業が何であるかの見分け方も学びます。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

地域における雇用・通勤圏、商圏などの実際に経済活動が行われる範囲は必ずしも、都道府県、市町村などの自治体の行政区画と一致しません。経済活動が行われる圏域と行政区画の違いを無視して産業政策がなされると、実態と合っていない誤った政策となってしまう可能性があります。地域の産業政策を考えるうえでは、このような地域や都市の構造を把握することが重要となります。本科目では地域や都市の構造の違いを知り、適切な産業政策は何かを学びます。また地域の発展にはお金を稼げる産業である基盤産業の育成が大事になりますが、何が基盤産業となるかの判断基準の1つとして産業連関表を用います。特に後半では産業連関表から基盤産業を判断できるように講義を行います。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

中間目標:地域や都市の空間的な構造を理解する。
最終目標:異なる地域の構造に対して、適切な産業や政策を判断できるようにする。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

「一方通行であったので途中で理解しているかの確認をしてほしい。」という指摘について。今後特に途中で質問等を行い、双方向の授業を心がけます。

〔教科書〕

指定しない

〔指定図書〕

指定しない

〔参考書〕

講義内で必要に応じて紹介

〔前提科目〕

特になし

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

中間試験（配点 30%）
期末試験（配点 70%）
・出席状況
講義のうち 5 回欠席したものは、レポート・試験の点数にかかわらず F 評価とします。

〔評価の基準及びスケール〕

A:80%以上
B:70～79%
C:60～69%
D:50～59%
F:50%未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
地域経済や地域の産業を理解するうえでは１地域のみに目を向けていては十分な理解を得られません。講義では青森県や青森市の事例も扱いますが、東北だけではなく全国の様々な地域や都市の構造に目を向けて、地域や産業間のつながりを理解するように心がけてください。
また講義内でランダムに質問をしますので、自分自身で考えて回答することを意識してください。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール	
第１回	テーマ(何を学ぶか)： 地域とは何か 内　容： 地域区分、都市圏・商圏 教科書・指定図書
第２回	テーマ(何を学ぶか)：都市化の概念とプロセス 内　容：都市の形成、人口変動 教科書・指定図書
第３回	テーマ(何を学ぶか)：都市集積の経済 内　容：都市集積のメリット、デメリット 教科書・指定図書
第４回	テーマ(何を学ぶか)：都市内部の土地利用 内　容： 都市内部の企業、オフィス、住宅の立地がどのように決まるか。付け値地代理論。 教科書・指定図書
第５回	テーマ(何を学ぶか)：都市計画 内　容：少子高齢化、都市計画マスタープラン、コンパクトシティ、移住促進政策 教科書・指定図書
第６回	テーマ(何を学ぶか)：私的独占(1) 内　容：自然独占、私的独占、市場支配力 教科書・指定図書
第７回	テーマ(何を学ぶか)：私的独占(2) 内　容：代替財、市場画定 教科書・指定図書
第８回	中間試験

第9回	テーマ(何を学ぶか):規制緩和と交通政策 内　容:規制緩和・民営化、公共交通 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか):農業とICT化 内　容: 地域の農業政策、既存産業へのICTの活用 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):垂直的統合と6次産業化 内　容:垂直的統合、農業の6次産業化、マーケティング 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):21世紀以降の産業政策 内　容:産業クラスター政策、官民連携 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):まちの経済の成り立ち 内　容:中間財・最終財、地域経済の循環と漏れ 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):まちの経済の見方 内　容:基盤産業の見極め、特化係数、産業連関表の作成 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか):まちの構造改革 内　容:実際の産業連関表を見て地域の問題を理解する。地 教科書・指定図書
試 験	筆記試験(配点70%、講義資料・自筆ノートのみ持ち込み可)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
事業創造論	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
生田泰亮 IKUTA Yasuaki	時間:後ほど指示します。 場所:1305 研究室(大学院棟)	講義

〔科目の概要〕

事業創造論では、これまで学んできた経営経済学の知識、理論をもとに「事業を立ち上げ、継続させ、成果を得る」までのプロセスについて、以下の２点を踏まえながら、ケーススタディを中心に講義を行う。

（1）事業創造の基礎理論

「事業を立ち上げる」と言っても、容易なことではない。企業内での新規事業であれ、０からの起業であれ、事業を立ち上げるというフェーズにおいては、① 事業領域の設定、② 新技術から製品化・アイディアのサービス化、③ 資金調達といった要点を同時に達成していかなければならない。具体的には、企業内での事業発掘、社内起業、コーポレート・ベンチャーキャピタル、クラウドファウンディングなどを学ぶ。

（2）企業における事業創造

事業が軌道に乗り、製品やサービスの市場投入のフェーズに移行していくには、製品化に向けたプロダクト・イノベーションと生産性向上のためのプロセス・イノベーションの視点が重要となってくる。加えて「イノベーションのジレンマ」「キャズム」が示すように、超えなければならない「市場における壁や障害」がある。よって、事業をイノベーションとマーケティングの視点から考える。

基本的には、以下のような流れで講義を進行する。

① 事前に予習課題に取り組む（教科書の予習範囲、事前の配布資料の熟読など）。
② 講義内での教員からの説明、受講者とのディスカッションを通じて学習内容についての理解を深める。
③ 各回の講義内容をもとに、新たな課題が出され、自身で調査、分析し、課題レポートとして提出する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本講義は、経営経済学における様々な議論、概念、理論を基本としつつ「事業」にフォーカスして講義を進める。事業の概念を軸として、これまで学んできたことを再確認しながら、問い直すことで、これまでの学びをより深めることを期待したい。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・ビジネスを企画、構想するための基礎的な知識を身につける。
・イノベーションとマーケティングの視点から事業を分析することができる。
・これまでの様々な会社の事業、製品、サービスがどのように生み出され、認知され、普及したのか、その要点を分析し、まとめることができる。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

学生の理解度を常に考慮しながら講義を進めていくことを心がけます。質疑等は遠慮なくどうぞ。

〔教科書〕

小林敏男 『事業創成　イノベーション戦略の彼岸』 有斐閣、2014 年。（春学期「経営革新論」教科書）
他、講義資料を配布する予定。

〔指定図書〕

なし

〔参考書〕

島田直樹『事業創造　理論と実践』WAVE 出版、2018 年。

〔前提科目〕

「地域企業論Ⅰ、Ⅱ」および「経営革新論」を受講し、単位取得していること。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）
講義時のディスカッション（予習、事前の課題などへの取り組みを含めて）・・・30%
課題レポート（複数回実施する）・・・70%

〔評価の基準及びスケール〕
80%以上 A　79 -70% B　69-60% C　59-50% D　49%以下 F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
３年秋の開講科目です。これまでの学習のまとめと応用という位置付けで講義を考えています。講義は事前の予習を前提とし、ディスカッションを中心に行います。予習内容をもとに学んだ内容を再確認するために、あるいは、自身の理解、閃きやアイディアを「他者に対して発言する」ことで、思考力や表現力を鍛えて欲しいと思っています。積極的な姿勢、旺盛な学習意欲を期待します。

〔実務経歴〕
該当なし

授業スケジュール	
第１回	テーマ（何を学ぶか）：　イントロダクション 内　容：　講義の進め方、概要について説明（※ シラバス持参のこと）。 教科書・指定図書
第２回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（1） 内　容：事業創造とは何か？ 教科書・指定図書
第３回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（2） 内　容：新技術、新規事業をいかにして生むか？ 教科書・指定図書
第４回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（3） 内　容：新規事業への突破口 教科書・指定図書
第５回	テーマ（何を学ぶか）：事業創造の基礎理論（4） 内　容：新製品をいかに普及させるか？ 教科書・指定図書
第６回	テーマ（何を学ぶか）：事業創造の基礎理論（5） 内　容：事業と戦略的提携、３Ｃから４Ｃへ 教科書・指定図書
第７回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（1） 内　容：ケーススタディ①　フランチャイズ・ビジネスの成長 教科書・指定図書
第８回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（2） 内　容：ケーススタディ②　世界ブランドへの成長 教科書・指定図書
第９回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（3） 内　容：事業構築と事業成長 教科書・指定図書

第10回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（4） 内　容：ケーススタディ③　半導体産業 教科書・指定図書
第11回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（5） 内　容：ケーススタディ④　半導体と関連産業 教科書・指定図書
第12回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（6） 内　容：最先端技術の動向と産業構造の転換 教科書・指定図書
試　験	※試験は実施しない。ただし、この期間に課題レポートの提出を課す予定。
第13回	テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（1） 内　容：ケーススタディ⑤　地方から全国、世界へ進出 教科書・指定図書
第14回	テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（2） 内　容：ケーススタディ⑥　地方から全国、世界へ 教科書・指定図書
第15回	テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（3） 内　容：講義全体のまとめ 教科書・指定図書

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
環境ビジネス論	2 単位	専門科目

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
吉 田　肇 Hajime YOSHIDA	**時間:** 非常勤のため，オフィス・アワーがとれません **場所:** 授業中にご質問いただくか，授業時間外はメールでも随時受付します。	① 講義

〔科目の概要〕

・ 環境問題は時代とともに変化し，20 世紀後半のローカルな「公害」は克服され，21 世紀に向けてグローバルな「地球環境問題」が重要視されるようになり，現在は SDGs（持続可能な開発目標）が人類の共通課題となっている。
・ 本科目では，このような「環境問題」の経緯と本質を学ぶとともに，企業の環境経営戦略への対応と SDGsの取組のための多種多様な「環境ビジネス」の動向について学ぶ。
・ 毎回の授業には，学ぶべきテーマが定められている。授業はテーマに沿って，スライドや動画を織り交ぜながら進行する。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ，学ぶ必要があるか・学んだことが，何に結びつくか〕

・ 地球環境問題の解決など SDGs（持続可能な開発目標）の取り組み，持続可能な循環型社会の構築が，人間社会の生存のため避けて通れない課題であり，本科目ではそのような環境問題解決に当たっての基礎的素養が醸成される。
・ グローバルな環境問題からミクロな環境問題，あるいは企業人としての環境問題から一般市民としての環境問題という多様な環境観を学び，多岐にわたる環境対策技術や環境問題解決策を学び，よりよい人間社会の構築に貢献できる。
・ 本科目を学ぶことにより，社会経済環境の潮流を把握するとともに，環境経済学的なものの見方や考え方，新しいビジネスモデルづくりの着眼点を習得できる。
・環境と経済の両立について『環境経済学』を，環境経営の手法として『環境経営論』を履修することで理解が深まる。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

・中間目標
　環境問題の本質とそれを解決するための対策方法について学び，環境ビジネスがどのように展開してきたかを理解することを目標とする。
・最終目標
　環境ビジネス市場の動向について学び，新たに期待される関連技術や今後必要とされる方向性について学び，将来の経済環境と調和した地域社会づくりについて，自分の思いを述べることができることを目標とする。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

・ 日程調整を図り，バランスよく開講する日程とします。
・「教員の話は聞き取りやすくなかった」，「時間配分がうまくできていないときがあった」等のコメントがありました。授業の理解を助ける動画を交えたり，講義内容をコンパクトにするなど，メリハリのある内容にします。また，マイクを用いる，休憩時間の確保など，授業の進め方についてもさらに心がけてまいります。
・本科目では，理解度を確認するための中間試験（小テスト）の実施や，授業後に質問・意見等を聴講カード（リアクションペーパー）にご記入いただき解説を加えるなど，学生諸君とフィードバックやコミュニケーションを図るようにします。

〔教科書〕

　な し（毎回配付する講義資料，スライド等をベースとします）

〔指定図書〕

　な し

〔参考書〕

・ 山守 麻衣（著）
『図解入門　最新環境ビジネスの動向とカラクリがよ～くわかる本』（秀和システム，2016年）

・金原 達夫（著）
『環境経営入門 ― 理論と実践― ［改訂版］』(創生社, 2017 年)
・村上 芽(著)
『図解SDGs入門』(日経ＢＰＭ（日本経済新聞出版本部）, 2021年)

〔前提科目〕
な し

〔学修の課題, 評価の方法〕(テスト, レポート等)
・内容などの詳細は, 授業の開始時に担当教員から提示する。
・授業内容の中での重要事項は, 口頭や板書で強調するのでよく注意して授業に臨むこと。
・毎回配付する「聴講カード」(リアクションペーパー)に学修内容に関する質問や意見などを具体的に記入し提出すること。また, 寄せられた質問や意見は, 翌回以降の講義の中でも実際に取り上げ, 受講者全体にフィードバックする。
・授業の理解度や目標の到達度を確認するため, 中間試験(小テスト)を１回, 期末試験を1回実施する。

〔評価の基準及びスケール〕
・評価のスケールは, ① 中間試験(小テスト)及び期末試験により, 理解度及び到達度を評価する(70%)。レポート課題を評価に加える場合がある, ② 「授業内活動」「授業への参加」について評価する(30%)。この際, 毎回配付する「聴講カード」(リアクションペーパー)に記入することにより, 授業のふり返りを行い, 評価の判断材料の1つとする。
・「評価の基準」(到達度)は, 以下の通りとする。
A 80 点以上, B 70 点以上 80 点未満, C 60 点以上 70 点未満 , D 50 点以上 60 点未満, F 50 点未満

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
・環境ビジネスは新しい分野でもあるが, 「経済と環境の両立」や SDGs(持続可能な開発目標)はこれから人類が生存するためには避けて通れないテーマであり, 意欲を持って取組んでほしい。
・したがって, 欠席や遅刻, 授業中にスマホ閲覧・私語・居眠りが多い場合には, 学習意欲がないものと解釈される。
・日頃から身近な地域経済の動きを観察する, 新聞やテレビ番組(例:NHK 総合① 木曜 19:30pm～, 『所さん！大変ですよ』), 関連ウェブサイトなどから情報を得るなど, アンテナを高くして関心や知識を深めておくこと。
- 環境省「環境経済情報ポータルサイト」 http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html
- 朝日新聞 Web サイト「環境・エネルギー」 http://www.asahi.com/eco/?iref=comtop_gnavi
- 青森県環境パートナーシップセンター http://www.eco-aomori.jp/

〔実務経歴〕
該当なし。

授業スケジュール

第１回	テーマ(何を学ぶか):いま, なぜ環境ビジネスか？ 内　容:本科目で何を学ぶか, その内容やねらいについて概観し, 環境問題を市場メカニズムの中に取り入れた企業や市場からのアプローチに重点をおいた環境ビジネスの果たす役割について学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第２回	テーマ(何を学ぶか):日本の 20 世紀, 高度経済成長と公害の克服 内　容:高度経済成長を遂げたわが国は「四大公害病」を克服し, 大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会経済となったが, 「典型７公害」の概要と動向を整理し, 環境ビジネス萌芽の背景について学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第３回	テーマ(何を学ぶか):グローバル化する環境問題 内　容:これまでの地球と人類がたどってきた道のりと, 人類が直面する9つの地球環境問題について学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による

第4回	テーマ(何を学ぶか):環境問題の進展と環境ビジネス 内　容:公害と環境問題の発生の経緯と, 環境の産業化, 環境ビジネスの登場について学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第5回	テーマ(何を学ぶか):環境問題と経済との関係とは 内　容:環境経済学的なアプローチから, 持続可能な社会を実現するための環境と経済を両立する様々な手法について学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第6回	テーマ(何を学ぶか):環境経営戦略と環境ビジネス 内　容:産業の環境化, 企業の環境経営戦略, SDGs(持続可能な開発目標)への対応からみた環境ビジネスの展開について学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による記入することで
第7回	テーマ(何を学ぶか):環境ビジネスの全体像 内　容:中間試験(小テスト, 範囲:講義第1～6回)を実施し, その解説を行う。また, 環境ビジネスの市場分野や, 環境ビジネスの一般的な分類と広がりについて学ぶ。 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第8回	テーマ(何を学ぶか):廃棄物処理・リサイクル・循環型環境ビジネス 内　容:循環型社会形成に向けた廃棄物処理・リサイクル・循環型資源活用等の環境ビジネスについて学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第9回	テーマ(何を学ぶか):省エネルギーと環境ビジネス 内　容:わが国のエネルギーフローの中で省エネルギーの位置づけを確認したうえで, LED 照明, 燃料電池・水素ビジネス, 蓄電池など省エネルギー・有効利用等の関連技術の環境ビジネスについて学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第10回	テーマ(何を学ぶか):再生可能エネルギーと環境ビジネス 内　容:太陽光, 風力, バイオマスなど再生可能エネルギー等の環境ビジネスについて学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第11回	テーマ(何を学ぶか):環境配慮型製品, ソフト・サービス系環境ビジネス 内　容:エコプロダクツ, エコデザイン, エコカーなどの環境配慮型製品, グリーン・サービサイジング, カーボン・オフセット, ESCO 事業などのソフト・サービス系の環境ビジネスについて学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第12回	テーマ(何を学ぶか):地域資源活用型環境ビジネス 内　容:自然エネルギー, 6次産業化, グリーン・ツーリズムなど地域資源を有効活用した環境ビジネスについて学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第13回	テーマ(何を学ぶか):東北地方における環境ビジネスの可能性 内　容:東北地方の環境ビジネスの動向と企業事例について学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第14回	テーマ(何を学ぶか):青森県における環境ビジネスの可能性 内　容:青森県の地域特性や産業特性とそれを活用した社会問題解決型の環境ビジネスの可能性について学ぶ 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
第15回	テーマ(何を学ぶか):環境ビジネスの課題と将来展望 内　容:日本の環境ビジネスの最新動向と今後の展望等について学ぶ。 教科書・指定図書:担当教員作成のレジュメ・資料による
試　験	期末試験(第1～15回の講義内容を範囲とした筆記試験)

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域みらい特殊講義Ⅲ	2 単位	専門科目（展開科目）

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
竹 内 紀 人 Takeuchi Norito	**時間：** 非常勤講師につき、授業終了後など、随時 **場所：** 対応します。	講 義

〔科目の概要〕

地域金融の仕組み全般に関する基礎知識を学んだ上で、これからの地域金融について考える科目です。

地元銀行出身で銀行系シンクタンク及びコンサルタント会社の役員を経験した講師が具体的事例を交え、解説します。地域のお金の流れをつかさどる「地域金融機関」の本質的な役割を、地域振興の視点から皆さんに考えてもらうための特殊講義です。

前中盤の 10 回で、今の地域金融機関の姿を知識として習得します。終盤の 5 回は、指定の書籍を題材に、これからの地域金融についてディスカッションします。

本科目は、金融理論の講座ではなく、単なる地域金融業務の解説講座でもありません。地域経済との関連性に焦点を当て、地域金融の重要性や課題を自身の頭で考える科目です。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

本科目は地域経済、金融、会計など、他のさまざまな科目と関連します。

しかし、これまで何を学んできたか、現在、どれだけの専門知識を持っているかは問いません。

地域経済の活性化を目指していくためには、地域の中小企業や住民と最も近い距離で「お金」を扱っている地域金融機関の特性や課題を考えることが非常に重要です。

将来、行政分野や地元民間企業などで「地域のため」に活躍したいと考えるすべての学生に、金融実務の経験者だからこそ伝えられることがあります。その点が本特殊講義の最大の特長です。

なお、地元金融機関の統合計画など、ホットなニュースがある中で、金融分野への就職を検討している学生には、業界研究の一助にもなります。キャリア科目的な要素での受講動機も歓迎します。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

地域金融システム全般に関する基礎知識を身につけること。（中間目標）

地域経済活性化の視点を持ちながら、地域金融について意見を述べられるようになること。（最終目標）

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

地域金融を取り巻く環境は、これまでにないほど、急激に変化を遂げています。

毎年、講義内容についてはマイナーチェンジを施し、また時事的な話題も極力取り上げながら講義をしてきました。

基本的にこれまでの講義内容は高評価を得てきましたが、今学期は、現状の環境変化に対応するため、大幅な内容の組み換えを実施しました。具体的には、知識習得の講義をコンパクトにブラッシュアップし、終盤の「これからを考える」時間を充実させました。

難解な専門用語がどうしても出てくる分野なので、わかりやすさと親しみやすさを旨とし、意欲的に予習復習に取り組めるよう、受講人数に合わせた柔軟な講義スタイルで進めていきます。自ら学ぶ要素を昨年度以上に強めていくつもりです。

〔教科書〕

『捨てられる銀行４ 消えた銀行員 地域金融変革運動体』 橋本卓典 講談社現代新書（2020.9）
ISBN 978-4-06-520145-9

〔指定図書〕

な し

〔参考書〕
『地銀の次世代ビジネスモデル』　編著　大和総研　日経BP（2020.5）
ISBN　978-4-8222-8989-8

〔前提科目〕
　ありません。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

授業内プレゼンテーション 30%、ディスカッション 20%
期末試験（記述式）50%の割合で評価します。
授業への取り組み姿勢が特に優れていると認められる場合は加点対象とします。

〔評価の基準及びスケール〕

評価スケールは大学のスタンダードを基準とします。
総合的な学修に、出席は重要です。欠席が 3 分の 1 を超える場合は単位認定の対象外とします。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

　毎年、10 数名くらいの比較的小規模なクラスとなるため、一人ひとりの顔が見える中での講義となります。就職先として金融機関に興味がなくても、世の中でお金が動く仕組みを少しでも知ってもらえれば、非常勤講師としてうれしいことです。
　いずれにせよ、毎回の講義の積み重ねで理解し、考えさせる組み立てをしているため、極力欠席をしないよう心がけて欲しいと思います。

〔実務経歴〕
銀行業ならびに銀行周辺業務での実務経験を生かし、地域金融の仕組み全般を学び、考えさせる授業です。

授業スケジュール	
第１回	テーマ（何を学ぶか）：　ガイダンス、地域金融概説 内　容：　金融の本来的な役割 教科書・指定図書　：　教員作成資料
第２回	テーマ（何を学ぶか）：　近年における地域金融機関のビジネスを知る 1 内　容：　ディスクロージャー誌を読む 教科書・指定図書　：　教員作成資料
第３回	テーマ（何を学ぶか）：　地域金融機関のビジネスを知る 2 内　容：　地方銀行の具体的な業務１（資産運用系業務） 教科書・指定図書　：　教員作成資料
第４回	テーマ（何を学ぶか）：　地域金融機関のビジネスを知る 3 内　容：　地方銀行の具体的な業務２（融資系業務） 教科書・指定図書　：　教員作成資料
第５回	テーマ（何を学ぶか）：金融機関の種類と役割 1 内　容：　さまざまな金融機関（業態の違いと役割） 教科書・指定図書　：　教員作成資料

第6回	テーマ(何を学ぶか): 金融機関の種類と役割2 内　容: ゆうちょ銀行、政策金融機関 教科書・指定図書 ： 教員作成資料
第7回	テーマ（何を学ぶか）： 地域金融機関のビジネスモデル1 内　容： 収益の仕組み～金融財務の基礎 教科書・指定図書 ： 教員作成資料
第8回	テーマ(何を学ぶか): 地域金融機関のビジネスモデル2 内　容: 地方銀行の決算はどのように変化しているのか 教科書・指定図書 ： 教員作成資料
第9回	テーマ（何を学ぶか）： 金融システムの安定性（自己資本比率・格付け） 内　容： 安心できる金融機関とは？ 教科書・指定図書 ： 教員作成資料
第10回	テーマ（何を学ぶか）： 金融環境の変化 内　容： 地域経済の変化ほか 教科書・指定図書 ： 教員作成資料
第11回	テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融1 内　容: 金融庁の変化 教科書・指定図書 :『捨てられる銀行4　消えた銀行員　地域金融変革運動体』&教員作成資料
第12回	テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融2 内　容: 地銀再編はどこへ向かう 教科書・指定図書 :『捨てられる銀行4　消えた銀行員　地域金融変革運動体』&教員作成資料
第13回	テーマ(何を学ぶか): 新常態の金融3 内　容: 金融機関は地方創生にどう関わるべきか… 地域商社 教科書・指定図書 :『捨てられる銀行4　消えた銀行員　地域金融変革運動体』&教員作成資料
第14回	テーマ(何を学ぶか): 感染する知性 内　容: 産学金連携 教科書・指定図書 :『捨てられる銀行4　消えた銀行員　地域金融変革運動体』&教員作成資料
第15回	テーマ(何を学ぶか): ネットワーク集合知 内　容: 集合知を活かす 教科書・指定図書 :『捨てられる銀行4　消えた銀行員　地域金融変革運動体』&教員作成資料
試 験	記述式の期末試験を実施します。

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
フィールドリサーチⅢ	2 単位	選択必修

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
足達、飯田、生田、遠藤、 香取（薫）、佐々木、安田	時間：オリエンテーション時に紹介する 場所：各演習指定の教室	

〔科目の概要〕

本講座は、「知の挑戦Ⅱ」と結びつき、その演習を基礎にして自らの問題を発見するために、「知の挑戦Ⅱ」の指導教授との連携・協力によって、フィールドを通した調査研究を促し、学生自らの問題発見に広がりを持たせるものである。つまり、各ゼミ演習と連動しつつ、フィールド演習主体の授業が行われる。また、企業や行政、NPOなどにおけるインターンシップ的な要素を併せ持つ。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

少人数演習を重視した地域みらい学科の特徴は、1 年生から始まるフィールドワークであり、実体験を重視し、個性を磨き、自分で掲げた課題に向け、自らの経験を通じて知を取得するというものである。そのため、1 年次の必修では、自己の探究、自分知の探究、科学への探究といった演習科目が設定されている。2 年次の知の挑戦Ⅰを経て、3年次においては、知の挑戦Ⅱが設定され、少人数演習科目が設置されている。本科目は、この知の挑戦Ⅱと関連して設定されている。また、インターンシップ的な要素も導入しており、各指導教官の考えに沿って内容が構成される。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

最終目標：フィールドワークを通して醸成された問題意識を、専門的な考え方あるいは様々な知見から整理し、より深く考える態度を身につける。

中間目標：フィールドワークを通して、好奇心と“なぜ”の思考を発酵させ、周りの世界に目を凝らし、問題意識を高め、研究へのモチベーションを高める。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

〔教科書〕

オリエンテーション及び演習時に各担当指導教官の専門分野に基づいて紹介する。

〔指定図書〕

オリエンテーション及び演習時に各担当指導教官の専門分野に基づいて紹介する。

〔参考書〕

オリエンテーション及び演習時に各担当指導教官の専門分野に基づいて紹介する。

〔前提科目〕

な し

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等）

オリエンテーション時に各担当指導教官から説明する。

〔評価の基準及びスケール〕

オリエンテーション時に各担当指導教官から説明する。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

本講座は、「知の挑戦Ⅱ」の指導教授との連携・協力によって、フィールドを通した調査研究を促し、学生自らの問題発見に広がりを持たせるものである。フィールドワークに関心があり、真摯な態度で科目履修ができることが求められる。

フィールドワークは、各指導教官の方法に委ねられるが、基本的には、他の授業と重ならない時間帯を活用するため、土日、祝日などにまとめて実施することが基本となる。基本的な履修スケジュールは以下のようなものである。しかし、これはあくまでも標準であり、各指導教官の下で、具体的なスケジュールが決定されるものとする。

全体で 4 日間が標準である。1 回（1 日）目は、1. 5 時間×4 時限分=6 時間（オリエンテーション含む）、2 回目 1.5 時間×3 時限=4.5 時間、3 回目 1.5 時間×4 時限=6 時限、4 回目 1. 5 時間×4 時限分=6 時間（最終報告含む）を目安とする。ただし、まとめて実施することによって 1 日当たりの時間が代わり、回数（日数）も変わりうるものである。

〔実務経歴〕

授業スケジュール（以下は、標準的なスケジュールであり、具体的には各教官毎に異なる）

第1回	テーマ(何を学ぶか)： フィールドワークが目指すもの、内容の提示 内　容: オリエンテーション 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか)：フィールドワークの準備 内　容:フィールドワーク（1）① 学生のニーズ、フィールドワークに関する情報収集 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか)：フィールドワークの実践 内　容:フィールドワーク（1）② 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか)：フィールドワークの実践 内　容:フィールドワーク（1）③ 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか)：フィールドワークの実践 内　容:フィールドワーク（2）① 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか)：フィールドワークの実践 内　容:フィールドワーク（2）② 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか)：フィールドワークの実践 内　容:フィールドワーク（2）③ 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか)：フィールドワークの実践 内　容:フィールドワーク（3）① 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか)：フィールドワークの実践 内　容:フィールドワーク（3）② 教科書・指定図書

第10回	テーマ(何を学ぶか):フィールドワークの実践 内　容:フィールドワーク（3）③ 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか):フィールドワークの実践 内　容:フィールドワーク（3）④ 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか):フィールドワークの実践 内　容:フィールドワーク（4）① 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか):フィールドワークの実践 内　容:フィールドワーク（4）② 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか):フィールドワークの実践 内　容::フィールドワーク（4）③ 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか): 内　容:最終報告、まとめ 教科書・指定図書
試 験	

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域企業論Ⅱ	2単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	〔授業の方法〕
生田泰亮 IKUTA Yasuaki	時間:後ほど指示します。 場所:1305 研究室(大学院棟)	講義

〔科目の概要〕

地域企業論Ⅱでは、地域企業の環境分析と戦略策定について学ぶ。具体的には『中小企業白書 小規模企業白書 2021 年版 上 危機を乗り越える力』を取り上げ、これを読み解くことを中心に講義を進める。主に、統計データを読み、地域企業を取り巻く環境変化、 最新の動向を読み解く力を身につける。また、教科書の進捗状況に合わせて、企業の経営課題や専門知識について解説していく。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

地域企業論Ⅰで学んだ内容を基本として進める。本講義は、多くの科目と関連性のある「総合的な科目」 「中核的な科目」である。関連づけ、反復することで「有効な思考法」を身につけるよう努力すること。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標)〕

(1)『中小企業白書』を読み解き、地域企業がおかれた社会、市場、産業などの動向を理解し「地域企業の環境分析」ができる。

(2)地域企業の経営政策、事業戦略について学び、その成果として「問題解決策の立案」としての「戦略策定」や「政策提言」ができる能力を養う。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

教科書を事前に読んでいることを前提として講義を進める。しっかりと予習すること。
質問、相談等はいつでも受け付ける。講義中、講義終了後、アポイントを取った上でのオフィスアワーなど遠慮なく。

〔教科書〕

中小企業庁編『中小企業白書 小規模企業白書 2021 年版 上 危機を乗り越える力』日経印刷株式会社、2021 年。
他、適宜、資料を配布。

〔指定図書〕

〔参考書〕

塩次喜代明、高橋伸夫、小林敏男『経営管理[新版]』有斐閣、2009 年。
M.E.ポーター著、竹内弘高訳『競争戦略論(I)(II)』ダイヤモンド社、1999 年。

〔前提科目〕

地域企業論Ⅰ（単位取得していることか、必須条件)。

〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等)

課題レポート:50%、期末試験:50% （詳細は講義内で説明する)
※ 講義進行の妨げとなる行為があり、注意を聞き入れない場合は、当該学生の本科目の評価を「F」とする。

〔評価の基準及びスケール〕

80%以上 A　79-70% B　69-60% C　59-50% D　49%以下 F

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

予習として「教科書の各回の指定範囲を必ず読み出席する」こと。
予習していることを前提に講義を進めます。

〔実務経歴〕

該当なし

授業スケジュール	
第１回	テーマ(何を学ぶか):イントロダクション 内 容: 講義内容と進め方について(※ シラバスを必ず持参すること) 第１部第１章「中小企業・小規模事業者の動向」① 教科書・指定図書
第２回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（1） 内　容：第１部第１章「中小企業・小規模事業者の動向」② 教科書・指定図書
第３回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（2） 内　容：第１部第１章「中小企業・小規模事業者の動向」③ 教科書・指定図書
第４回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（3） 内　容：第１部第２章「中小企業・小規模事業者の実態」① 教科書・指定図書
第５回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（4） 内　容：第１部第２章「中小企業・小規模事業者の実態」② 教科書・指定図書
第６回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（5） 内　容：第１部第３章「中小企業・小規模事業者政策の方向性」① 教科書・指定図書
第７回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（6） 内　容：第１部第３章「中小企業・小規模事業者政策の方向性」② 教科書・指定図書
第８回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（7） 内　容：第２部第１章「中小企業の財務基盤と感染症の影響を踏まえた経営戦略」① 教科書・指定図書
第９回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（8） 内　容：第２部第１章「中小企業の財務基盤と感染症の影響を踏まえた経営戦略」② 教科書・指定図書
第10回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（9） 内　容：第２部第２章「事業継続力と競争力を高めるデジタル化」① 教科書・指定図書
第11回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（10） 内　容：第２部第２章「事業継続力と競争力を高めるデジタル化」② 教科書・指定図書
第12回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（11） 内　容：第２部第３章「事業継承を通じた企業の成長・発展とM&Aによる経営資源の有効活用」② 教科書・指定図書
試　験	※第12回までの内容を試験範囲とする。詳細については第１回および講義の中で説明する。

第13回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（12） 内　容：ケース・スタディ① 教科書・指定図書
第14回	テーマ（何を学ぶか）:『中小企業白書』を読み解く（13） 内　容：ケース・スタディ② 教科書・指定図書
第15回	テーマ（何を学ぶか）：まとめ 内　容：講義全体のまとめと振り返り、課題レポートの提出 教科書・指定図書

〔科目名〕	〔単位数〕	〔科目区分〕
地域社会論Ⅱ	2 単位	

〔担当者〕	〔オフィス・アワー〕	
佐々木て る Sasaki Teru	場所：時間：授業開始時に指示 場所：授業開始時に指示	

〔科目の概要〕

青森県では少子高齢化が進み、人口減少、短命県などが問題として指摘されている。また、若者の県外流出なども今後の県の将来を考える上で重要な問題となっている。同時に青森県は地域文化や産業の点で日本を代表するものが存在する。そのため県の取り組みとしても「課題を克服」し「強みをとことん生かす」ためのアイディアが重要視されている。

この授業では、上記のような認識を前提に、海外からの観光客の誘致、外国籍者の労働力の導入、国際的なマーケットへの参入、永住外国人の現状といった視点からそれらの課題を捉えなおすこととする。具体的には下記のテーマが中心となる。

(1)「交流人口」：インバウンドを中心とした海外からの観光客についての分析、ニーズの把握。

(2)「循環人口」：いわゆる単純労働で海外から来日、もしくは青森に来ている外国籍者の現実と実情。

(3)「共生人口」：人口減少地域に対応するための外国人、移民政策について。永住、帰化、国籍などに関して。

これら 3 つのテーマを学ぶことによって最終的には、日本型もしくは青森としての多文化共生、共創社会を構築していく視点を醸成させることにする。

〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕

決定的な人口減少を迎えている青森県の住民として、その問題の根幹を理解し、解決するための手立てを考えることは急務の課題である。そしてそのことは、次世代を生きる人間としての責務であり、今まさに問われている問題といえる。

日本国内の人口減少を補う人材として、海外からの移住者の受け入れは一つの選択肢であり、そこで必要とされている議論を学ぶことは重要である。人口減少解決のための新しい視点を学ぶことができるだろう。そして同時にこのことはワールド・ワイドで活躍するための基礎となることを学ぶことにもつながる。そして海外から人に来てもらう、もしくは海外に青森を売り込む際に、授業で扱う題材を知ることは有益な情報となるだろう。

〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕

人口減少という問題をもう一度捉えなおし、その根本問題、解決策を提示できるような思考を養う。特に海外からの人材の導入、もしくは海外への売り込みという視点を自分なりに発展させていくことが目標となる。同時に海外の事例を学び、日本社会に応用可能か、またその際の課題などを自らの視点で指摘できることも目標となる。

中間目標

前半は特に、人口減少問題のレビュー、県内の外国籍者の実態など基礎的な知識や考え方を学ぶ。そのため、グローバリゼーションや市民権、多文化共生に関する理論的な視点も学んでもらう。

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕

授業終わりにコメント用紙を書いてもらい、そこでの指摘を授業に取り入れ、改善を行っていく。

コメント用紙の配分点のつけかたなど、成績評価の方法ををより明確に提示する。特に第一回目の授業において方針を明確にしていく。

〔教科書〕

特になし

〔指定図書〕

特になし

〔参考書〕

授業時に紹介する

〔前提科目〕

特になし

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)
・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。
・授業中盤で確認試験を行い、理解度をはかる。
・最終に試験を行う。出題内容は授業内容に関するもの。
　主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。
毎回出席はとる予定である。そのため当然のことではあるが授業は出席することが大前提である。
特に第一回目の授業は評価の方針、内容に関する確認などを行うため、本講義を受講予定のものは必ず出席すること。

〔評価の基準及びスケール〕
・試験 60%、コメント用紙・小テストを 40%として採点する。
A～F の評価は本学の規定に準ずる。

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕
　なによりも自分の住んでいる地域の文化や産業について、積極的に興味を持ち、知識を増やしてほしい。授業で伝えたこと以外でも、興味のあることを自分自身で調べる姿勢が望まれる。
　また知り得た知識や考えなど、意見を求める機会も与える予定でいるので積極的に発言してほしい。自分と周囲に住んでいる人、自分が住んでいる社会について、主体的に働きかける気持ちを常にもって授業に参加してほしい。

授業スケジュール

第1回	テーマ: 世界から青森へ、青森から世界へ 内　容: ガイダンス　導入として人口減少対策としての外国人・移民政策の必要性を学ぶ
第2回	テーマ: 人口減少問題と外国籍労働力(1) 内　容: 人口減少問題の根幹:理論的視点を考える。また労働力確保の方策としての ICT の導入と外国人労働者の導入について考える。
第3回	テーマ: 人口減少問題と外国籍労働力(2) 内　容: 外国籍労働力を日本に積極的に導入するにあたり、その前提となるような外国人・移民政策についての理論的な視座を紹介する。
第4回	テーマ: 人口減少問題と外国籍労働力(3) 内　容: 前回にt引き続き、外国籍労働者・移民は人口減少対策の切り札になるのかを考える。特に市民権理論と多文化共生の理論を紹介し、外国籍労働者・移民の増加にともなう課題と問題を考える。
第5回	テーマ: 交流人口(1) 内　容: インバウンドとはなにか、その問題点を考える。特に青森県の事例を中心に行う。
第6回	テーマ: 交流人口(2) 内　容: 青森県内の祭を中心に、その国際性の在り方について考える。
第7回	テーマ: 循環人口(1) 内　容: 技能実習制度をとらえる。特に青森県、八戸市や弘前市の事例を中心に、技能実習制度とはなにかを学ぶ。
第8回	テーマ: 循環人口を考える(2) 内　容: 内　容: 送り出し国の現状を紹介し、国際的な労働力移動について学ぶ。特にベトナムの事情を紹介する。
第9回	テーマ: 青森県の共生人口を考える(1) 内　容:三沢の米軍基地の事例、ネパール人の事例、永住フィリピン人と帰化の事例などを通じて青森の共生人口を学ぶ。

第10回	テーマ: 青森県の共生人口を考える(2) 内 容 : 青森以外の永住者と共生に関する事例をとりあげ、青森県との比較を行う。
第11回	テーマ: グローバル時代の移民政策(1) 内 容: 多文化共生に関する現状を、世界と日本を比較することによって学ぶ。特に理論的なものとしてエスニシティの概念を学ぶ。
第12回	テーマ: グローバル時代の移民政策(2) 内 容: 世界の移民の事情などを海外の事例を通じて学ぶ。特にアメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランドなどの事例を紹介する。
第13回	テーマ: 多様性のある地域社会に向けて(1) 内 容: 外国人・移民政策の根幹として国籍政策や帰化というものについて学ぶ。外国人から国民へ編入するための制度的な視点を学ぶ。
第14回	テーマ: 多様性のある地域社会に向けて(2) 内 容: 現在の日本の多文化、多民族的な状況を確認し、マルチ・エスニック・ジャパニーズという概念を学ぶ。
第15回	テーマ: 青森から世界へ、世界から青森へ 内 容 :青森県の強みを再度考え、課題を考察する
試 験	